



静岡社会健康医学大学院大学

博士前期課程 シラバス

2026 年度

2026年度 博士前期課程科目一覧 (シラバス目次)

科目区分	授業科目の名称	科目責任者	専攻科	聴覚・言語 コース	遠伝カウンセ ラー養成 コース	単位数	配当年次 (推奨)	開講時期				曜日	時限	教室	ページ 番号	
								前期		後期						
								前半	後半	前半	後半					
共通科目	社会健康医学概論	臼井 健	必修	必修	必修	2	1年				金	3	講義室2	1		
	基礎医学講座	森 潔	選択	-	-	1	1年	●	●		土	1	講義室2	3		
	文献検索法・文献評価法	佐々木八十子	必修	必修	必修	1	1年	●			土	4	講義室2	4		
	プレゼンテーション・ライティングスキル	藤本修平	必修	必修	必修	1	1年	●			金	5	講義室2	5		
	フィールド実習	田原康玄	選択	-	-	1	2年				-	-	-	6		
	質的研究法	森 寛子	選択	-	-	1	1年		●		土	1	講義室2	7		
	質的研究法特講(M-GTA特講)*1*3	山崎浩司	選択	-	-	1	1年		●		土	4+5	講義室2	8		
	混合研究法	八田太一	選択	-	-	1	2年	●			土	2	講義室1	9		
	疫学領域	疫学概論	吉岡貴史	必修	必修	必修	1	1年		●		金	4	講義室2	10	
疫学研究・臨床研究特論		田原康玄	選択	-	-	1	1年			●	金	5	講義室2	11		
臨床研究概論		田中仁啓	必修	必修	必修	1	1年			●	土	2	講義室2	12		
疫学・ゲノム疫学特論		田原康玄	選択	-	コース必修	1	1年			●	土	3	講義室2	13		
システマティックレビュー概論		小島原典子	選択	-	-	1	1年			●	金	3	講義室1	14		
栄養疫学・ヘルスプロモーション		佐藤清香	選択	-	-	1	1年			●	土	1	講義室2	15		
社会疫学		吉岡貴史	選択	-	-	1	1年			●	土	1	講義室2	16		
診療ガイドライン概論*2		小島原典子	選択	-	-	1	2年		●		金	4	講義室1	17		
循環器臨床・疫学研究概論		田中仁啓	選択	-	-	1	2年		●		金	3	講義室1	18		
オーラルヘルスプロモーション		佐藤洋子	選択	-	-	1	2年			●	土	2	講義室1	19		
医療統計学領域		医療統計学概論	山本精一郎	必修	必修	必修	2	1年	●	●		土	5	講義室2	20	
		医療統計学特論	山本精一郎	選択	-	-	2	1年			●	●	土	5	講義室2	22
		臨床試験解析学	山本精一郎	選択	-	-	1	2年	●			土	3	講義室1	24	
		観察研究解析学	田原康玄	選択	-	-	1	2年		●		土	3	講義室1	25	
		健康・医療ビッグデータ概論	竹内正人	必修	必修	必修	1	1年	●			土	2	講義室2	26	
		健康・医療ビッグデータ特論	竹内正人	選択	-	-	1	2年	●			金	4	講義室1	27	
環境健康科学領域		環境健康科学・産業衛生学概論	天笠 崇	必修	必修	必修	2	1年	●	●		土	3	講義室2	28	
		生活習慣病(生活習慣・遺伝子・環境)	森 潔	選択	-	-	1	1年			●	金	3	講義室2	30	
行動医科学・ ヘルスコミュニケーション 学領域		ヘルスコミュニケーション概論	山本精一郎	必修	必修	必修	1	1年		●		土	2	講義室2	31	
	ヘルスコミュニケーション特論	清田友里	選択	-	-	1	2年	●			金	5	講義室1	32		
	行動医科学	山本精一郎	必修	必修	必修	1	1年			●	金	5	講義室2	33		
	健康情報学	高山智子	選択	-	-	1	1年			●	土	2	講義室2	34		
	健康医療社会学	山崎浩司	選択	-	コース必修	2	1年			●	●	金	4	講義室2	35	
	公衆衛生危機管理論	清田友里	選択	-	-	2	1年			●	●	土	4	講義室2	37	
	死生学*3	山崎浩司	選択	-	-	1	2年	●			土	5	講義室3	39		
	高齢者運動・リハビリテーション論	藤本修平	選択	-	-	1	2年	●			金	3	講義室1	40		
	健康管理・ 政策学領域	健康政策・医療経済学概論	栗山長門	必修	必修	必修	1	1年		●		金	5	講義室2	41	
		健康政策・医療経済学特論	高山智子	選択	-	-	1	2年	●			土	4	講義室3	42	
社会健康医学倫理概論		八田太一	必修	必修	必修	1	1年		●		土	4	講義室2	43		
社会健康医学倫理特論		八田太一	選択	-	コース必修	1	2年		●		土	2	講義室1	44		
医療・ケア組織論		佐々木八十子	選択	-	-	1	2年			●	土	3	講義室1	45		
高齢者ケア概論		森 寛子	必修	必修	必修	1	1年			●	土	3	講義室2	46		
高齢者ケア特論		森 寛子	選択	-	-	1	2年		●		土	4	講義室3	47		
ヘルスケア・アントレプレナーシップ論*4		藤本修平	選択	-	-	1	2年			●	金	3	講義室1	48		
ゲノム医学領域	医科遺伝学概論	田原康玄	必修	必修	必修	1	1年	●			金	4	講義室2	49		
	臨床遺伝学	末岡 浩	選択	-	コース必修	1	1年		●		金	2	講義室2	50		
	医科遺伝学特論	木下和生	選択	-	コース必修	1	1年			●	金	3	講義室2	51		
	ゲノム医学(疾患と遺伝子)	森 潔	選択	-	コース必修	1	2年		●		土	5	講義室3	52		
	遺伝カウンセリング	臼井 健	選択	-	コース必修	1	1年			●	金	2	講義室2	53		
	ゲノム医学演習	臼井 健	コース必修	-	コース必修	1	1年			●	水	4+5	講義室1	54		
	医科遺伝学演習	堀内泰江	コース必修	-	コース必修	2	1年			●	●	火・水	5+1	演習室1	55	
	遺伝情報学演習	木下和生	コース必修	-	コース必修	1	1年			●	●	金	1+2	ラングムエンス2	56	
	遺伝カウンセリング演習*5	堀内泰江	コース必修	-	コース必修	3	2年	●	●	●	●	金・土	各3-5	ラングムエンス2	57	
	遺伝カウンセリング実習Ⅰ	臼井 健	コース必修	-	コース必修	3	2年	●	●	●	●	火・水・木	各1-4	-	58	
遺伝カウンセリング実習Ⅱ	臼井 健	コース必修	-	コース必修	3	2年	●	●	●	●	火・水・木	各1-4	-	59		
聴覚・言語領域	聴覚解剖・生理学概論	古川茂人	選択	コース必修	-	1	1年	●			水	6	演習室2	60		
	聴覚解剖・生理学特論	古川茂人	選択	コース必修	-	1	2年	●			土	2	演習室2	61		
	聴覚心理学概論	古川茂人	選択	コース必修	-	1	1年		●		水	6	演習室2	62		
	聴覚心理学特論	古川茂人	選択	コース必修	-	1	2年	●			土	3	演習室2	63		
	認知科学概論	新屋裕太	選択	コース必修	-	1	1年			●	土	5	演習室2	64		
	言語・認知・発達学	新屋裕太	選択	コース必修	-	1	1年			●	土	1	演習室2	65		
	言語・認知・発達学特論	新屋裕太	選択	コース必修	-	1	2年		●		土	3	演習室2	66		
	聴覚療育・リハビリテーション論	田中智英巳	選択	コース必修	-	1	2年	●			水	6	講義室3	67		
	聴覚療育・リハビリテーション特論	田中智英巳	選択	コース必修	-	1	2年		●		水	6	講義室3	68		
	聴覚障害学	高木 明	選択	コース必修	-	1	1年			●	土	1	演習室2	69		
	聴覚補償技術	田中智英巳	選択	コース必修	-	1	1年			●	水	6	演習室2	70		
	聴覚検査法	田中智英巳	選択	コース必修	-	1	1年			●	水	6	演習室2	71		
	音声言語科学	新屋裕太	選択	コース必修	-	1	2年	●			土	4	演習室2	72		
	聴覚健康政策論	高木 明	選択	コース必修	-	1	2年		●		土	4	演習室2	73		
	知覚情報処理演習	古川茂人	コース必修	コース必修	-	2	1年			●	土	4+5	演習室2	74		
	知覚・生体計測演習	古川茂人	コース必修	コース必修	-	2	1年			●	土	3+4	演習室2	75		
	言語・聴覚学特別演習Ⅰ	Fehérvári Tamás Dávid	コース必修	コース必修	-	1	1年			●	土	2	演習室2	76		
	言語・聴覚学特別演習Ⅱ	Fehérvári Tamás Dávid	コース必修	コース必修	-	1	2年	●			土	5	演習室2	77		
言語・聴覚学特別演習Ⅲ	Fehérvári Tamás Dávid	コース必修	コース必修	-	1	2年		●		土	5	演習室2	78			
特別研究	修士論文	-	選択	-	-	8	1年次 ~ 2年次 (通年)						-	79		
	課題研究	-	選択	-	-	4							-	81		
	課題研究(遠伝カウンセラー養成コース)	-	コース必修	-	コース必修	4							-	83		
	課題研究(聴覚・言語コース)	-	コース必修	コース必修	-	4							-	84		

*1 夏季集中講義(詳細はシラバス参照)

*2 2026年度のみ開講

*3 2027年度以降の開講は未定

*4 旧「ヘルスケアビジネス論」(~2025年度)は、2026年度より「ヘルスケア・アントレプレナーシップ論」に名称変更

*5 2年次前期前半の金・土の3~5時限目、前期後半の金の3~5時限目、後期前半の土の3~5時限目に開講

科目名	社会健康医学概論		学 期	前期		
履修区分	必修科目		曜日・時限	金曜 3 限		
単 位 数	2 単位 (90 分 × 15 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	臼井 健		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	宮地良樹、竹内正人、高山智子、山本精一郎、臼井 健					
科目概要	<p>予防医学や先進医療の視点を取り入れ、社会健康医学に関するテーマについて、各分野の研究者による講義を行うとともに、研究論文や事例を用いた演習を行う。(オムニバス方式・共同(一部)／全 15 回)</p> <p>(宮地良樹／1 回)健康の定義、健康を取り巻く国及び地方の現況、静岡県の特長について講義し、地域課題について討論を行う。</p> <p>(竹内正人／1 回)観察研究の有用性、限界点とその対処に関する講義を行う。</p> <p>(高山智子／1 回)健康政策の中での市民参画の現状と課題について考察する。</p> <p>(山本精一郎／1 回)がん予防やがん検診のエビデンスについての講義を踏まえ、利益不利益を考慮した上でのリコメンデーションについて討論する。</p> <p>(臼井 健／1 回)腸内細菌と疾患の関連について講義する。</p> <p>(臼井 健／8 回)・非感染性疾患(non-communicable diseases:NCDs)の理解の上に、近未来の医療の在り方、ウェルビーイングの実現について議論する。社会健康医学上の課題を概観し、ライフコースを通じた予防、医療、ケアの課題と可能性を考える。現代の栄養の課題についての講義を踏まえ、栄養・食事・睡眠・食生活の視点から収集すべきデータとその実践応用への利活用について考察する。本学の修了生を招き自施設のデータ収集、データベースの構築、解析の実験を紹介する。薬剤による健康被害の実態について学ぶ。生活習慣病と血栓症の病態と予防法啓発の実態を紹介し、医学研究と社会健康医学の連携を議論する。診療ガイドラインの作成方法と公衆衛生領域における利活用を概説する。診療ガイドラインのためのシステムティックレビューの作成方法について概説する。超硫黄分子から健康長寿を考える。静岡県の健康福祉政策から本学に期待されていることについて学ぶ。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 生活習慣病の知識を身に付け、予防するための生活習慣を説明できる。 健康指標の評価法について研究方法を理解できる。 健康の捉え方について理解し、健康の概念について説明できる。 現代社会における健康問題について列挙し、健康づくり施策の変遷を説明できる。 静岡県の特性を理解し、取り組みを説明できる。 喫煙、飲酒、食事、運動、睡眠、身体活動などライフスタイルの課題について社会健康医学的に説明できる。 健康の評価法について説明できる。 					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	静岡県の「健康長寿」を考える	静岡県の高齢化と健康課題を要約し、健康寿命延伸への研究アプローチを一緒に考える	○	○	宮地良樹
	2	「メタボリックドミノ」の未病医療	非感染性疾患(non-communicable diseases:NCDs)の総体(メタボリックドミノ)と生活習慣、生活環境、遺伝要因の関与の今日的な理解、並びに、先制医療、未病医療など新しい医療のありかたを議論する。	○	○	臼井 健
	3	研究デザイン	医学(系)研究においては、生物統計の知識のみならず研究デザインを適切に組むことが成否に大きな影響を与える。研究デザイン設計に関して見落としがちな点などについて、概説を行う。	○	○	竹内正人
	4	栄養疫学概論	栄養と生活習慣病の概要をビタミンを中心に解説する。	○	○	臼井 健
	5	卒業生の研究	自施設のデータベース構築から解析の実際	○	○	臼井 健
	6	京都大学 SPH 〈 School of Public Health〉での経験から	「京大 SPH」の取り組みを通して、静岡県における新たな社会健康医学の開拓に向けた視点を提示する。	○	○	臼井 健
	7	がん予防とがん検診の普及	社会健康医学における大きな問題であるがん予防やがん検診について、そのエビデンスを理解し、利益不利益を考慮した上でのリコメンデーションについて討論する。	○	○	山本精一郎

	8	薬剤による健康被害	薬剤による健康被害・薬疹について考える	○	○	臼井 健
	9	血管の健康と生活習慣病	血栓症発症の分子機構と生活習慣病の関連の知見を紹介し、その成果の実装化の方策を議論する。血栓症を例に取り、基礎医学と健康社会医学の連携の可能性を議論したい。	○	○	臼井 健
	10	健康施策と市民参画	健康政策の中での市民参画の現状と課題について考察する。	○	○	高山智子
	11	超硫黄分子と健康長寿	近年注目されている超硫黄分子に関する基礎概念と、生体内における機能について解説する。さらに、老化や生活習慣病などとの関連や、健康長寿との関係について最新の研究知見を紹介し、今後の公衆衛生的意義について考察する。	○	○	臼井 健
	12	睡眠医科学	本講義は、生理学的な睡眠の特徴や、睡眠が人の行動や精神活動にどのような影響を与えているかについて学び、人々が社会の中で健康な生活を送るための十分な助言のできる知識を身につけることを目的とする。	○	○	臼井 健
	13	公衆衛生と診療ガイドライン	診療ガイドラインの作成方法と公衆衛生領域における利活用を概説する	○	○	臼井 健
	14	健康福祉政策に係る静岡県の取組と本学の役割	静岡県(庁)が取り組んでいる健康福祉政策(施策)と本学に求められている役割等を理解し、政策(施策)立案に向けた社会健康医学に係る教育や研究に期待される効果を考察する。	○	○	臼井 健
	15	腸内細菌と疾患	近年腸内細菌の健康への影響が注目されている。この領域のオーバービューを紹介する。	○	○	臼井 健
評価方法	積極的な参加度(100%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	講義内容に応じた資料を配布					
参考書	なし					
授業時間外に行う学修内容	復習:講義内容に関連した文献を読み、理解を深めること。					
備考						

科目名	基礎医学講座		学 期	前期前半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜 1 限		
単 位 数	1 単位 (90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	森 潔		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	森 潔、田中仁啓					
科目概要	医療系学部以外を卒業した学生が、公衆衛生に関わるために不可欠な医学に関する基礎知識について講義を行う。 (オムニバス方式／全 8 回) (森潔／6 回) 身体の仕組み、医療職に必要な基礎医学に関する講義を行う。 また、生理学、組織学・病理学、薬理学、免疫学などの基礎知識に関する講義を行う。 (田中仁啓／2 回) 人体の構造と機能、内科学の基礎知識に関する講義を行う。					
到達目標	解剖学・組織学/病理学・生理学・薬理学・免疫学・内科学などの基本を理解する。					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	概説と身体の仕組み	本講義の進め方と、身体の仕組み、医学の歴史について解説する。	○	○	森 潔
	2	解剖学の基礎	解剖学の基礎を解説する。	○	○	田中仁啓
	3	生理学の基礎	ゲストスピーカーを招聘し、生理学の基礎を解説する。	○	○	森 潔
	4	組織学・病理学の基礎	組織学・病理学の基礎を解説する。	○	○	森 潔
	5	薬理学の基礎	ゲストスピーカーを招聘し、薬理学の基礎を解説する。	○	○	森 潔
	6	免疫学の基礎	ゲストスピーカーを招聘し、免疫学の基礎を解説する。	○	○	森 潔
	7	内科学の基礎	内科学の基礎を解説する。	○	○	田中仁啓
	8	総括	医療職に必要な基礎医学について補足・総括を行う。	○	○	森 潔
評価方法	講義における議論への参加度 (30%)、レポート (70%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席 (全 8 コマ中 6 コマ以上) を条件とする。					
テキスト	授業ハンドアウト配布					
参考書	なし					
授業時間外に行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考						

科目名	文献検索法・文献評価法		学 期	前期前半		
履修区分	必修科目		曜日・時限	土曜 4 限		
単 位 数	1 単位 (90 分 × 8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	佐々木八十子		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	佐々木八十子					
科目概要	社会健康医学領域において、基本的なスキルの1つである文献検索の方法と、疫学、EBM(根拠に基づく医療)の知識をもとに、各種の健康・医療情報を検索し、それらを多角的に評価することで、主体的に活用する方法について解説する。また、実際の文献を用いた演習を行い、理解を深める。					
到達目標	1. 各種データベースを活用して、社会健康医学に関する情報を系統的に検索できるようになる。 2. 文献評価の基本を理解し、得られた文献・情報を多角評価できるようになる。 3. 文献評価の結果を主体的に活用できるようになる。					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	文献検索の基本	EBM の考えにもとづいた CQ のつくり方、電子ジャーナル・データベース利用の解説及び演習を行う。	○	○	佐々木八十子
	2	医学文献データベース (1)	ゲストスピーカーを招聘して、医中誌 Web、PubMed(基礎)の使い方の解説及び演習を行う。	○	○	佐々木八十子
	3	医学文献データベース (2)	PubMed(応用)の使い方の解説及び演習を行う。	○	○	佐々木八十子
	4	医学文献データベース (3)	コクラン・ライブラリーの使い方の解説及び演習を行う。	○	○	佐々木八十子
	5	文献管理	各種ソフトウェアによる文献管理方法の解説及び演習を行う。	○	○	佐々木八十子
	6	医学系論文の評価(1)	文献評価の基本 観察研究論文の評価の解説及び演習を行う。	○	○	佐々木八十子
	7	医学系論文の評価(2)	臨床試験論文の評価の解説及び演習を行う。	○	○	佐々木八十子
	8	医学系論文の評価(3)	コクランのバイアスリスク評価、システムティックレビューの評価について解説及び演習を行う。	○	○	佐々木八十子
評価方法	授業やディスカッションの参加度(20%)、事前課題・最終レポート(80%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ■ 臨床研究と疫学研究のための国際ルール集, 中山健夫, 津谷喜一郎編著, (ライフサイエンス出版) ■ コクランレビューハンドブック(The Cochrane Collaboration) ■ PICO から始める医学文献検索のすすめ, 小島原典子, 河合富士美編集(南江堂) 					
授業時間外に 行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読し、事前課題を行う。 復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考						

科目名	プレゼンテーション・ライティングスキル		学 期	前期前半		
履修区分	必修科目		曜日・時限	金曜 5 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	藤本修平		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	藤本修平、田中仁啓、佐々木八十子					
科目概要	<p>研究成果の発表や研究資金獲得のためのプレゼンテーション、学術論文、報告書の執筆に当たっての効果的な技法について講義を行うとともに、演習形式でプレゼンテーションを行いスキルの獲得を指導する。 (オムニバス方式／全 8 回) (藤本修平／5 回) 論文やスライド作成のコツ、プレゼンテーションスキルに関する講義を行うとともに、プレゼンテーションを通じてスキルの指導を行う。 (田中仁啓／1 回) ChatGPT を活用した英文作成・翻訳の基本的事項及びその注意点を説明し、実際の論文執筆への活用法を説明する。 (佐々木八十子／2 回) 英文科学論文の基本的スタイルや投稿雑誌の規定に関する講義を行う。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 与えられた媒体と想定される対象者に合わせて、適切な資料が作成できる。 研究成果を的確により広く伝えるためのアカデミックデザインの基本を獲得する。 科学論文執筆の基本を理解し、自らの執筆に活用できる。 					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	一般向けと学術向けの文章	読者を規定し練られた文章は人の心を動かすことを理解する。研究参加依頼文、助成金獲得など、目的に合わせた執筆を概説する。	○	○	藤本修平
	2	ポスター	A0 版のポスター作製のための Tips について、基礎的なビジュアルマーケティングの手法を紹介しながら、近年のポスター作成の動向を解説する。	○	○	藤本修平
	3	PPT で描く	特別なソフトを使わなくても、PPT の基本機能やアドインを活用することで多彩な概念図や構造図が描けることを解説する。	○	○	藤本修平
	4	フォント・色と Figure・Table 作成	フォントや色彩は、人の心理に大きく作用し、多くの情報を伝達することを理解する。行間調整、一行の文字数など基本的なことを踏まえ、Table や Figure への適用理解を深める。	○	○	藤本修平
	5	英文科学論文	IMRaD 形式の論文、パラグラフ展開の基本、論文引用スタイルなど、基本的項目の理解が良い論文執筆につながることを学ぶ。また、英文の基本的スタイルを解説する。	○	○	佐々木八十子
	6	投稿雑誌	投稿雑誌の Aim や対象読者によって、論文のイントロダクションやディスカッションの内容は変わるため、投稿雑誌を絞り込み、投稿規定から得られる情報を論文執筆に反映するヒントを解説する。	○	○	佐々木八十子
	7	ChatGPT の活用	大規模言語モデルを活用した文章作成や翻訳の基本的事項及びその注意点を踏まえ、効率的な論文執筆の理解を深める。	○	○	田中仁啓
8	プレゼンテーション	与えられた時間内で、どの様に聴衆の関心を集めるかなどのヒントだけでなく、自分らしさを活かしたプレゼンテーションを目指してゆくために、必要なスキルを解説し、演習を行う。	○	○	藤本修平	
評価方法	講義ごとに課すレポート(60%)、最終発表(40%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	授業展開の必要に応じてその都度提示する。					
授業時間外に行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考						

科目名	フィールド実習		学 期	前期前半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜1限 (※初回 4・/11のみ) 授業の2-4は8月末から9月の金曜日に実施(履修生と相談)		
単位数	1単位		使用教室	講義室1 (※初回のみ)		
配当年次 (履修推奨年次)	2年次(履修推奨年次)		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	-		
科目責任者	田原康玄		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	-		
担当教員	田原康玄、森 寛子					
科目概要	<p>医療機関や公衆衛生機関における疾病予防対策、健康増進施策の実態と課題、県内のゲノムコホート研究の具体的研究内容やその成果について実習を行う。</p> <p>実習/全30時間 田原康玄:4時間 地域住民コホートの見学実習から疾病予防のための研究と健康づくりの実際を学ぶ。 森 寛子:26時間 県内の医療・保健・衛生機関等の見学実習から公衆衛生の実際を学ぶ。</p>					
到達目標	1. 疾病対策、産業保健対策の現場の課題を説明できる。 2. 環境衛生、健康増進の現場の課題を説明できる。 3. 地域住民コホートの実際と意義を説明できる。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	オリエンテーション	集団としての健康を守るための実務や健康戦略の重要性を理解し、公衆衛生の果たすべき幅広い役割を理解する	×	×	森 寛子
	2	校外実習(1)	掛川東病院 (8月28日) 住み慣れた地域で医療を受け人生の最期を迎えるためには、医療と介護の連携が重要です。様々な役割を持つ異なった病棟、退院後の帰宅を目指す老人保健施設、在宅療養が必要となる通所リハや訪問リハなどを兼ね備えたコミュニティ・ホスピタルの実際と行政担当者、支えるボランティアの思いを学びます。	×	×	森 寛子
	3	校外実習(2)	浜岡原子力発電所 (日程は9月金曜日で、履修生と相談しつつ調整) 原子力発電所におけるリスク管理の見学とともに、地域住民へのリスクコミュニケーションの実際を学ぶ	×	×	森 寛子
	4	校外実習(3)	環境衛生実習 (日程は9月金曜日で、履修生と相談しつつ調整) 静岡県環境衛生科学研究所の医薬食品部の研究活動を見学する。全国でも稀有な創薬探索研究の化合物ライブラリーの意義とともに、静岡県の新規産業探索の政策を知る。	×	×	森 寛子
	5	校外実習(4)	地域住民コホートの見学実習 コホート研究を通じた疾病予防・健康増進とデータ収集の現場を体験する	×	×	田原康玄
評価方法	実習への参加度(実習先での意見交換や質疑応答を含む)(100%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3以上の出席(全5日中4日以上)を条件とする。 校外実習のうち3回以上の出席を単位習得の必須条件とする。					
テキスト	なし					
参考書	なし					
授業時間外に行う学修内容	予習:1年次に履修した公衆衛生の必修科目の内容を復習しておくこと。 復習:実習で学んだ内容を記録としてまとめること。					
備考	<ul style="list-style-type: none"> 遠隔受講(オンライン・オンデマンド)不可。 校外実習3回は8月中旬から9月上旬の金曜日を想定しているが、受講者の参加可能日、および COVID-19 感染状況によって変動する。 実習先は変更になる場合がある。 					

科目名	質的研究法		学 期	前期後半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜 1 限		
単 位 数	1 単位 (90 分 × 8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	森 寛子		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	森 寛子					
科目概要	<p>研究対象である個々人や小集団の認識、価値観、行動、及びそれらを成り立たせる規範などのコンテキストを理解するのに有用なアプローチである質的研究法について講義する。量的研究との違い、主要なデータ収集法とデータ分析法などを解説するとともに、演習を通して体験的に理解することを促す。</p> <p>森 寛子 / 8 回</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 質的研究法の特徴を量的研究法との対比により理解する。 2. 質的研究におけるデータ収集の基本的知識と技術を学び、質の高いデータを収集できる。 3. 質的研究におけるデータ分析手続きの基本を理解し、厳密な結果を生成できる。 					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド*	担当教員
	1	質的研究とは	量的研究と対比しつつ質的研究ならではのリサーチクエス ション、倫理的配慮等、方法論的特性を理解する。	○	○	森寛子
	2	データ収集(1)	代表的なデータ収集法とサンプリング法を理解する。	○	○	森寛子
	3	データ収集(2)	個人インタビューとフォーカスグループインタビューについて 学ぶ。	○	○	森寛子
	4	演習(1)	個人インタビューによるデータ収集の演習を行う。	△	×	森寛子
	5	データ分析(1)	代表的なデータ分析法を学び、質的研究における分析の 基本的な考え方を理解する。	○	○	森寛子
	6	データ分析(2)	継続比較分析に基づくコーディングについて学び、コード化 の演習を行う。	○	×	森寛子
	7	演習(2)	コーディング後、切片化されたデータを用いて、プロパティ とディメンジョンによる分析の演習を行う。	△	×	森寛子
8	質的研究の評価基準 と統合への可能性	質的研究から得られた知見の評価基準について理解す る。	○	○	森寛子	
評価方法	演習 50% (演習 1・2 各 25%、課題レポート等提出)、期末レポート 50% <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席 (全 8 回中 6 回以上) を条件とする。					
テキスト	ジョン・W・クレスウェル、ジョアンナ・クレスウェル・バイアス著、廣瀬真理子訳(2022)『質的研究をはじめのための 30 の基礎スキル』新曜社。					
参考書	サウトツヤ、春日秀朗、神崎真実編(2019)『ワードマップ質的研究法マッピング』新曜社。 Pope C & Mays N eds (2020) Qualitative Research in Health Care (4th ed), Wiley-Blackwell.					
授業時間外に 行う学修内容	授業で講師が指定した論文やテキストの該当部分を読み、授業内容を復習したり、次回授業の予習をしたりすること。演習の事前準備や参加して得られた学びなどについて、レポートを作成すること。自らの研究や実践と関連する質的研究の文献を読み、期末レポートを作成すること。					
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 4 回・第 7 回の演習 (オンデマンドでの出席不可) は、極力オンラインでの出席も回避し、原則オンサイトで出席すること。 ・ 「質的研究特講(M-GTA 特講)」や「混合研究法」の履修にあたっては本科目の単位修得が望ましい。 					

科目名	質的研究法特講(M-GTA 特講)		学 期	前期後半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	夏季集中講義		
単位数	1 単位 (90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	山崎浩司		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	質的研究法		
担当教員	山崎浩司					
科目概要	<p>看護・保健・福祉系の質的研究で多用される修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(M-GTA)について、質的研究方法論としての特性を詳しく解説する。また、M-GTA を活用して研究を計画ないし実施している受講者は発表し、全員で質疑応答・ディスカッションを行う。加えて、主に保健・医療・福祉領域で M-GTA による研究経験のあるゲストスピーカーが、自身の研究の成果や実践的応用について発表する。</p> <p>※ 令和 8 年度開講日: 8 月 22 日、29 日、9 月 5 日、12 日の 4 日間(土曜 4・5 限)</p>					
到達目標	<p>1. M-GTA の特性を、他の質的研究方法論との対比により理解できる。</p> <p>2. M-GTA における分析手続きを理解し、厳密な結果を生成できる。</p> <p>3. M-GTA による研究を適切に評価し、質疑応答や議論を発展させられる。</p>					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	M-GTA の方法論的特性①	M-GTA の基本特性について、他の GTA やそれら以外の質的研究方法論との違いを踏まえて解説する。	△	△	山崎浩司
	2	M-GTA の方法論的特性②	M-GTA の基本特性について、他の GTA やそれら以外の質的研究方法論との違いを踏まえて解説する。	△	△	山崎浩司
	3	M-GTA の分析手続き①	M-GTA の分析手続きについて、具体例を参照しながらステップ・バイ・ステップで解説する。	△	△	山崎浩司
	4	M-GTA の分析手続き②	M-GTA の分析手続きについて、具体例を参照しながらステップ・バイ・ステップで解説する。	△	△	山崎浩司
	5	M-GTA の分析手続き③	M-GTA の分析手続きについて、具体例を参照しながらステップ・バイ・ステップで解説する。	△	△	山崎浩司
	6	M-GTA による研究の成果と実践的応用	ゲストスピーカーが、M-GTA による自身の研究の成果や実践的応用について解説する	△	△	山崎浩司
	7	研究発表	受講生が、M-GTA による自身の研究の構想や進捗を発表する。	△	△	山崎浩司
8	研究発表	受講生が、M-GTA による自身の研究の構想や進捗を発表する。	△	△	山崎浩司	
評価方法	<p>研究発表をする者: 研究発表(60%)、期末レポート(40%)</p> <p>研究発表をしない者: 課題レポート(40%)、期末レポート(60%)</p>					
テキスト	木下康仁(2020)『定本 M-GTA: 実践の理論化をめざす質的研究方法論』医学書院。					
参考書	木下康仁編(2005)『分野別実践編グラウンデッド・セオリー・アプローチ』弘文堂。					
授業時間外に行う学修内容	<p>授業で講師が指定したテキストや論文などの該当部分を読み、授業内容を復習したり次回授業の予習をしたりする。研究発表をする者は、レジュメの作成など発表の準備を行う。研究発表をしない者は、発表および質疑応答・議論に関して課題レポートを作成する。全員自らの研究や実践と関連する M-GTA による文献を読み、期末レポートを作成する。</p>					
備考	<ul style="list-style-type: none"> ■ 質的研究の基礎を学習していない者は、原則として科目「質的研究法」を履修した上で受講すること。 ■ 定員 20 名(科目履修生を含む): 本科生で M-GTA を活用して研究を行う予定のある者の受講を優先する。 ■ 極力オンラインでの出席が望ましいが、オンラインでの出席も認める。オンデマンドでの出席は 2 回までとする。 ■ 授業内のグループワーク、質疑応答、ディスカッションへの積極的な参加を期待する。 					

科目名	混合研究法		学 期	前期前半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜 2 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	八田太一		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	質的研究法		
担当教員	八田太一					
科目概要	混合研究法(Mixed Methods Research)は、質的アプローチと量的アプローチを統合させる研究方法論であり、単一の研究の中で質と量の 2 つのアプローチを採用し統合を試みた研究は混合型研究と呼ばれる。より複雑な研究課題に取り組む際に「統合」の有用性が注目されるものの、その概念を理解し、使いこなすことは容易ではない。ここでは、受講生が「統合」以前の問題を明らかにし、混合研究法を使うために必要な考え方を伝える。受講生は、課題・演習として修士論文や課題研究などで取り組んでいる研究を素材に混合型研究をデザインし、混合研究法の理解を深め方法論的視野を広げる。					
到達目標	1. 質的研究と量的研究とを問わず調査研究の基本的な手順を理解し、調査を実施する合理性を認識する。 2. 混合研究法の基本的な前提と統合の多様性を理解し、方法論的検討に必要な視座を獲得する。 3. 手続きダイアグラムを描くことで、自分の研究を混合型研究として説明する。					
授業展開	回	テーマ	内容	オンライン	オンデマンド	担当教員
	1	混合研究法の背景と調査研究の手続き	混合研究法の背景と調査研究の基本的な構成を読み取る	○	○	八田太一
	2	混合研究法の定義と合理性	混合研究法の多様な定義を俯瞰し混合研究法を用いる合理性を理解する	○	○	八田太一
	3	統合とコア・デザイン	混合研究法の鍵概念である「統合」と基本的なデザインとを対比的に理解する	○	○	八田太一
	4	サンプリングとデータ収集	サンプリングレベルの統合とデータソースからデータを切りとる方法を理解する	○	○	八田太一
	5	データ分析と結果の提示	分析レベルの統合と質的・量的結果を統合させるジョイント・ディスプレイを理解する	○	○	八田太一
	6	実践マトリックスと手続きダイアグラム	研究で扱うデータの所在と研究手続きの構成を理解する	○	○	八田太一
	7	個別発表	各学生が研究テーマに合わせてダイアグラムを描き発表する	○	×	八田太一
	8	個別発表	各学生が研究テーマに合わせてダイアグラムを描き発表する	○	×	八田太一
評価方法	発表及び発表資料(70%)、講義内の議論参加への積極性(30%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	「混合研究法入門」抱井尚子(2015)医学書院 「質的研究をはじめのための 30 の基礎スキル」廣瀬真理子・訳(2022)新曜社					
参考書	「混合研究法の基礎」(監訳)土屋敦・八田太一・藤田みさお(2017)西村書店 “The Mixed Methods Research Workbook”. Michael D. Fetters. (2020) SAGE 「混合研究法の手引き—トレジャーハントで学ぶ研究デザインから論文の書き方まで」M フェターズ・抱井尚子(2021)遠見書房					
授業時間外に行う学修内容	7 回目、8 回目の授業では各自の研究テーマで混合型研究のデザイン(手続きダイアグラム)を発表する。授業内容に合わせ毎回、課題を出す。各自の研究計画や研究内容を批判的に捉える機会にもなるため、根気強く取り組むこと。					
備考	<ul style="list-style-type: none"> 第 7 回、第 8 回はオンデマンド不可。 受講登録者が少ない場合、第 7 回の個別発表は文献レビュー演習とする。 					

科目名	疫学概論		学 期	前期後半		
履修区分	必修科目		曜日・時限	金曜 4 限		
単 位 数	1 単位 (90 分 × 8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	吉岡貴史		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	吉岡貴史					
科目概要	(吉岡貴史/8 回)臨床上、または公衆衛生上の疑問を構造化し、研究の基本設計図を作成するために必要な理論や基本的知識について講義を行う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疫学で用いられる指標を理解し、疫学研究の記述・比較を核とする疫学サイクルについて説明できる。 2. 疫学研究のデザインを理解し、それぞれのデザインで考慮すべきバイアスや交絡や、得られた結果が相関・関連・因果・予測のいずれなのかを説明できる。 3. 研究実践に必要なデータ、倫理性、ツール、スキルセットを理解し、疫学研究の準備を始められるようになる。 					
授業展開	回	テーマ	内容	オンライン	オンデマンド	担当教員
	1	疫学とは	本講義の目的を説明し、疫学とはなにか、疫学を理解するための基本、疫学で用いられる指標について解説する。	○	○	吉岡貴史
	2	記述・比較・バイアス・交絡	疫学研究の本質である記述と比較、およびその際に考慮すべきバイアス・交絡について解説する。	○	○	吉岡貴史
	3	疫学研究のデザイン	観察研究、介入研究、自然実験デザインおよびシステムレビューについて解説する。	○	○	吉岡貴史
	4	相関・関連・因果・予測	疫学研究の解釈に必要不可欠な相関、関連、因果、予測の違いと、それぞれの実例について解説する。	○	○	吉岡貴史
	5	保健統計とデータベース	疫学研究に使用される保健統計と研究への利活用が進む診療関連データベースについて解説する。	○	○	吉岡貴史
	6	疫学研究と倫理	疫学研究者が守るべき倫理面の基本原則について指針や法令を参照しながら解説する。	○	○	吉岡貴史
	7	領域別の疫学	各領域特異的な疫学の事例について解説する。	○	○	吉岡貴史
8	疫学研究の実践	疫学研究を実践するために必要なツール(AIを含む)やスキルについて解説する。	○	○	吉岡貴史	
評価方法	出席(60%)、各授業レポート(16%)、最終レポート(24%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	はじめて学ぶやさしい疫学 日本疫学会 改訂第 4 版(2024)南江堂					
参考書	基礎から学ぶ楽しい疫学 第 4 版 (2020) 医学書院 ロスマンの疫学 科学的思考への誘い 第 2 版 (2013) 篠原出版新社 医学的研究のデザイン 推論の質を高める系統的アプローチ 第 5 版 (2024) メディカル・サイエンス・インターナショナル 「原因と結果」の経済学 データから真実を見抜く思考法 (2017) ダイヤモンド社 臨床研究の道標 第 2 版 上巻・下巻 (2017) 特定非営利活動法人健康医療評価研究機構					
授業時間外に行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を読む。 各授業後に提示するレポートを期限までに提出する。					
備考						

科目名	疫学研究・臨床研究特論		学 期	後期後半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	金曜 5 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	疫学概論		
科目責任者	田原康玄		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	田原康玄、田中仁啓、佐藤洋子、佐藤清香					
科目概要	<p>リサーチクエストの設定から研究仮説の立案、研究デザインの構築、データの収集、データ解析、学術的な結果の解釈まで、実際の観察研究データの解析を通じて学ぶ。 (オムニバス方式／全 8 回) (田原康玄／3 回) 観察研究(コホート研究)のデザインの構築、データ収集・解析する手法の概説を行い、DAG を用いた因果推論について講義を行う。実際の観察研究データベースを利用した解析・発表実習を行う。 (田中仁啓／2 回) 公表論文及び日本・米国の公共データベースを使用して、ハンズオン実習を行い、メタアナリシスや公共データベースについての講義を行う。 (佐藤洋子／2 回) 観察研究データの代表的な解析方法として、統計学的因果推論、リスク因子探索や予測モデル構築についての講義を行う。 (佐藤清香／1 回) 各国の栄養のデータベースの概説を行い、米国民健康・栄養調査のデータを用いた解析を検討する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疫学研究を立案し、適切な研究プロトコルを組み立て、研究計画書を作成できる。 2. 適切なデータ解析方法を選択し、基本的な解析を実施できる。 3. 観察研究の目的に応じた解析手法として、因果推論やリスク因子探索・予測モデル構築を行うことができる。 4. 解析結果を適切に解釈できる。 					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	データ解析の実際	観察研究(コホート研究)のデータを解析する手法を学び、リサーチクエストを決めて解析に取り組む	○	○	田原康玄
	2	既存データを用いたデータ解析	各国の国民健康・栄養調査の概要を学び、米国の国民健康・栄養調査を用いて可能な解析を検討する。	○	○	佐藤清香
	3	交絡因子の調整	観察研究における統計的因果推論(交絡因子の調整)の代表的な手法(重回帰モデル、傾向スコアモデルなど)について学ぶ	○	○	佐藤洋子
	4	リスク因子探索・予測モデル構築	リスク因子探索や予測モデル構築の手法について学び、統計学的因果推論との考え方の違いを理解する	○	○	佐藤洋子
	5	メタアナリシス	既に公表されているメタアナリシスを使用して、データ抽出・統合・結果の解釈を経験し、理解を深める。	○	○	田中仁啓
	6	公共データベース解析	日本・米国の公共データベースにハンズオン形式で触れることを通し、公共データベースへの理解を深める。	○	○	田中仁啓
	7	解析結果の発表	観察研究の解析結果を発表する。結果の批判的吟味を通じて、疫学研究の手法を実践的に身につける。	○	×	田原康玄
	8	解析結果の発表	観察研究の解析結果を発表する。結果の批判的吟味を通じて、疫学研究の手法を実践的に身につける。	○	×	田原康玄
評価方法	演習や討論への積極的な参加度(70%)、レポート(30%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じた資料を配布					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ Wonderful R 5 統計的因果推論の理論と実装 高橋将宜 ・ 医学的研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ 第 4 版 木原雅子・木原正博(訳) 					
授業時間外に行う学修内容	<p>予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 演習で討議した内容の振り返りを通じて理解を深めるとともに疑問点を解決すること。</p>					
備考	第 7 回、第 8 回はオンデマンド不可。					

科目名	臨床研究概論		学 期	後期前半		
履修区分	必修科目		曜日・時限	土曜 2 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	田中仁啓		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	田中仁啓					
科目概要	「臨床研究とは何か?」という部分から始まり、臨床研究に必要なデザインや統計手法について学ぶ。ただし、近年では臨床研究と疫学研究の垣根がなくなっているため、前期で行なった疫学研究の復習、統計学の復習なども講義内容に加え、臨床・疫学研究に最低限必要な知識の定着を図ることを目的としている。本科目ではハンズオン等による実践に即した内容は扱わない。					
到達目標	1. 臨床研究・疫学研究のデザインについて、分類とそれぞれの特徴を説明できる。 2. 統計解析について、どのような時にどのような手法を使うのか説明できる。 3. CONSORT 声明と STROBE 声明について、内容を説明することができる。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	研究立案	ガイダンスを行なった後に、臨床研究とは何かを説明。研究立案の Tips を説明する。	○	○	田中仁啓
	2	臨床研究のデザイン	観察研究全般: コホート研究、症例対照研究、横断研究、ケース・コホート研究、ケース・クロスオーバー研究について解説する。	○	○	田中仁啓
	3	交絡の調整 (1)	回帰モデル(線形回帰、ロジスティック回帰、生存解析)について解説する。	○	○	田中仁啓
	4	交絡の調整 (2)	その他の交絡調整方法(傾向スコア、Mantel-Haenszel 法)について解説する。	○	○	田中仁啓
	5	診断研究	感度・特異度、ROC、リスク予測モデル、NRI、DCA について解説する。	○	○	田中仁啓
	6	メタアナリシス	メタアナリシスの概要について解説する。	○	○	田中仁啓
	7	介入研究	ランダム化、Intention-to-treat 解析などについて解説する。	○	○	田中仁啓
	8	研究報告	STROBE、CONSORT、TRIPOD などについて解説し、最後 30 分で全8回の総括を行う。	○	○	田中仁啓
評価方法	講義における議論への参加度(30%)、レポート(70%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	講義内容に応じた資料を配布					
参考書	「臨床研究の教科書—研究デザインとデータ処理のポイント 第2版」医学書院(2020) JAMA Guide to Statistics and Methods (英語版)					
授業時間外に行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した論文を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	「疫学・ゲノム疫学特論」の履修にあたっては、本科目の単位修得を必須とする。					

科目名	疫学・ゲノム疫学特論		学 期	後期後半		
履修区分	選択科目(遺伝カウンセラー養成コース必修科目)		曜日・時限	土曜 3限		
単位数	1単位(90分×8コマ)		使用教室	講義室2		
配当年次 (履修推奨年次)	1年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	臨床研究概論		
科目責任者	田原康玄		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	田原康玄、栗山長門、木下和生、寺尾知可史					
科目概要	<p>我が国の代表的なコホート・ゲノムコホートを事例に、疫学・ゲノム疫学研究の方法論について実践的に解説する。 (オムニバス方式／全8回) (田原康玄／4回)ながはまコホートを例に、多因子疾患を中心として研究テーマの設定、テーマに応じたデータ集取や解析方法、結果の解釈方法について解説する。国内の主要なコホートから研究者を招き、コホート毎に異なるデータ収集や研究の戦略・方針について解説する。 (栗山長門／2回)我が国における多施設共同コホート研究を例に、研究テーマの設定、テーマに応じたデータ集取や解析方法、結果の解釈方法、共同研究の立案・運営方法について解説する。 (木下和生／1回)コホートでの検体収集・管理、ゲノム解析、データベース化、データ管理について解説する。 (寺尾知可史／1回)比較的低頻度な疾患のゲノムコホート研究について、研究テーマの設定、テーマに応じたデータ集取や解析方法、結果の解釈方法について解説する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 我が国のコホート・ゲノムコホートの代表例とそれぞれの特性について理解する。 2. 研究目的に応じたコホートを設定するための基礎的知見を得る。 3. コホートデータの解析方法や結果解釈について事例から理解を深める。 					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	地域コホート研究の基礎	地域コホートにおける研究テーマの設定とテーマに応じたコホート構築のための理論を解説する。	○	○	田原康玄
	2	地域コホート研究の実践(1)	ながはまコホートを例に、研究テーマに応じた臨床情報の収集やその解析方法、結果の解釈方法について解説する。	○	○	田原康玄
	3	地域コホート研究の実践(2)	コホート研究に造詣の深い研究者を招聘し、事例に基づいてコホート研究の実際を学ぶ①。	○	○	田原康玄
	4	地域コホート研究の実践(3)	コホート研究に造詣の深い研究者を招聘し、事例に基づいてコホート研究の実際を学ぶ②。	○	○	田原康玄
	5	多施設共同研究の基礎	多施設共同研究における研究テーマの設定とテーマに応じた共同研究体制構築・運営のための理論を解説する。	○	○	栗山長門
	6	多施設共同研究の実践	J-MICC 研究を例に、研究テーマに応じた臨床情報の収集やその解析方法、結果の解釈方法について解説する。	○	○	栗山長門
	7	コホート研究におけるゲノム解析	コホートでの検体収集・管理、ゲノム解析、データベース化、データ管理について解説する。	○	○	木下和生
8	コホートの事例と成果	比較的低頻度な疾患のゲノムコホート研究について、研究テーマの設定からデータ解析までを解説する。	○	○	寺尾知可史	
評価方法	<p>講義における議論への参加度(20%)、レポート(80%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。 遺伝カウンセラー養成コースの学生は、必修科目のため、全ての授業回に出席すること。</p>					
テキスト	講義内容に応じた資料を配布					
参考書	なし					
授業時間外に行う学修内容	<p>予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:演習で討議した内容を振り返り、レポートを作成すること。</p>					
備考						

科目名	システマティックレビュー概論		学 期	後期後半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	金曜 3 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	小島原典子		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	小島原典子、佐々木八十子					
科目概要	システマティックレビューを行うために必要なレビュークエスションの設定、文献検索、バイアスリスクの評価など基本的な方法論について講義を行う。定量的システマティックレビュー、エビデンス総体の質の評価については併せて演習を行う。(小島原典子/8 回)コクランハンドブックから基本的なステップに関わる章を抜粋して介入研究のシステマティックレビューの演習を行い、その結果をグループで発表する。					
到達目標	1. レビュークエスションを作成して研究計画を作成できる。 2. 文献検索、スクリーニングの経過を PRISAM 声明に沿ってまとめることができる。 3. バイアスリスクの評価を行い、定性的・定量的システマティックレビューを行うことができる。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	システマティックレビュー概論	レビュークエスションの設定とシステマティックレビュープロトコルの作成を行う	○	○	小島原典子
	2	文献検索	ゲストスピーカーを招聘し、PubMed とコクランライブラリの検索について PRISMA 声明に沿ってまとめる。	○	○	小島原典子
	3	文献集合の作成	Rayyan によるスクリーニングを行う。	○	○	小島原典子 佐々木八十子
	4	バイアスリスクの評価	採用論文を確定し、バイアスリスクの評価を行う。	○	○	小島原典子
	5	定性的システマティックレビュー	定性的システマティックレビュー(PICO)の評価を行う。	○	○	小島原典子
	6	メタアナリシス	定量的システマティックレビューを行う。	○	○	小島原典子
	7	エビデンス総体の質の評価	エビデンス総体の質の評価の演習を行う。	○	○	小島原典子
8	システマティックレビュー論文の構成と評価	グループ発表とフィードバック	○	○	小島原典子	
評価方法	講義における議論への参加度(50%)、小レポート(50%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	診療ガイドラインのための GRADE システム 3 版(2018) 中外医学社 PICO から始める健康ガイドラインの作りかた(2026) 南江堂					
参考書	Cochrane Handbook for Systematic Reviews of Interventions (2018) Wiley					
授業時間外に行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した文献を読み、理解を深めること。					
備考	2 年次の履修も歓迎します。					

科目名	栄養疫学・ヘルスプロモーション		学 期	後期前半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜 1 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	佐藤清香		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	佐藤清香					
科目概要	栄養疫学とは摂取している栄養と健康や疾病との関連を探求する学問であり、ヘルスプロモーションは人々が自らの健康とその決定要因をコントロールし改善できるようにするプロセスである。本科目では、栄養疫学の概要を学んだうえで、栄養課題を解決するためのヘルスプロモーションの戦略について、講義や演習を通して理解する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 科学的根拠に基づいた栄養素等摂取基準について理解する。 食事摂取状況を評価する方法を理解・習得する。 ヘルスプロモーションで用いられるモデルについて理解する。 ヘルスプロモーションで用いられるモデルを活用し栄養課題の改善方法を検討する。 					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	栄養疫学・栄養教育の概要	講義: 社会健康医学における栄養疫学とヘルスプロモーションの目的と意義を解説する。 演習: 栄養疫学・栄養教育で用いられる調査法を体験する。	○	○	佐藤清香
	2	科学的根拠に基づいた栄養摂取(1)	講義: 日本人の食事摂取基準の策定方針と策定の基本事項を解説する。	○	○	佐藤清香
	3	科学的根拠に基づいた栄養摂取(2)	講義: 日本人の食事摂取基準のエネルギーの基本的事項を解説する。 演習: 日本人の食事摂取基準の栄養素から1つ栄養素を選択し、その指標設定の基本的な考え方を引用文献から学ぶ。	○	○	佐藤清香
	4	科学的根拠に基づいた栄養摂取(3)	演習: 第3回で選択した栄養素についての引用文献を紹介する。 講義: 日本人の食事摂取基準の活用に関する基本的事項を解説する。	○	○	佐藤清香
	5	食事摂取状況の評価	講義: 食事摂取状況の調査方法について解説する。 演習: 第1回の演習で得られた栄養素等摂取量を評価する。	○	○	佐藤清香
	6	ヘルスプロモーションのモデル(1)	講義: PDCA、PRECEED-PROCEDE モデルを解説する。 演習: PRECEED-PROCEDE モデルを用いた栄養の課題を改善するための戦略を検討する。	○	○	佐藤清香
	7	ヘルスプロモーションのモデル(2)	演習: PRECEED-PROCEDE モデルを用いた栄養課題の解決戦略の発表とディスカッション。 講義: ロジックモデルを解説する。	○	×	佐藤清香
8	ヘルスプロモーションのモデル(3)	講義・演習: ゲストスピーカーを招聘し、ロジックモデルの実践例の解説と演習する。	○	○	佐藤清香	
評価方法	講義の理解度を確認する小テスト(30%)、演習で行った内容の発表や提出(50%)、講義への積極的な参加態度(20%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする					
テキスト	講義内容に応じて資料配布 日本人の食事摂取基準 2025 年版、 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_44138.html (第一出版、女子栄養大学出版社、すばるブックスからも書籍で出版あり)					
参考書	食事調査マニュアル(改訂 4 版)、特定非営利活動法人 日本栄養改善学会 監修、南山堂 実践ヘルスプロモーション、ローレンス W.グリーン、マーシャル W.クロイター(神馬正峰訳) 医学書院 Nutritional Epidemiology (3 rd ed.), Willett, W., Oxford University Press, 2012					
授業時間外に行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること 復習: 講義内容に関連した文献や参考書を読み、理解を深めること					
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・2026 年度開講(2025 年度以前の入学者は履修不可) ・ゲストスピーカーの都合により、授業展開の順番が変更になる可能性があります。 					

科目名	社会疫学		学 期	後期後半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜 1 限		
単 位 数	1 単位 (90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	疫学概論		
科目責任者	吉岡貴史		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	吉岡貴史					
科目概要	(吉岡貴史/8回)これまで、疫学では主に個人の生物学的特徴、生活習慣といった直接的なリスク要因に焦点を当ててきた。一方、社会疫学ではそれらのリスクが集団内でどのように分布し、なぜ特定の集団に健康被害が偏るのかという「健康の社会的な分布とその決定要因」に焦点を当てる。また、社会疫学は健康格差という困難な社会課題を、より大きな枠組み(つまり集団アプローチや社会・公共・経済政策)からの解決に取り組む学問領域とも言える。本講義では社会疫学の正書に基づき、社会疫学の基礎から有効な介入に向けて求められるエビデンス、さらには最新のトピックまでを系統的に解説する。					
到達目標	1. 健康の社会的決定要因 (Social Determinants of Health: SDH)とは何かを理解し、健康格差解消に向けてどのような視点の考慮が必要かを説明できる。 2. 社会疫学における所得、労働、社会的つながり、ソーシャル・キャピタル(社会関係資本)について理解し、それぞれが健康格差にどのように影響するかを説明できる。 3. 健康格差解消に向けてこれまでに国内外で実施された介入・政策を知り、受講者自身が発見した健康格差に関する社会課題(エビデンス・政策ギャップ)を説明できる。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	社会疫学とは 健康の社会的決定要因	冒頭で本講義の目的を説明し、社会疫学を歴史から紐解く。また社会疫学で最も重要な SDH について解説する。	○	○	吉岡貴史
	2	差別と健康格差 所得格差と健康	社会的文脈における構造的差別と健康格差について、その歴史と科学的検証法について解説する。また所得格差と健康格差の仮説的機序と実証エビデンスについて解説する。	○	○	吉岡貴史
	3	労働環境と健康 労働市場・雇用政策と健康	労働環境における SDH と、その介入戦略について解説する。また、よりマクロな労働市場・雇用政策と健康について、理論的枠組みや健康喪失の機序を踏まえ解説する。	○	○	吉岡貴史
	4	社会的つながり ソーシャル・キャピタルと健康	社会的つながりと健康について、その概念と分析アプローチについて解説する。また社会疫学で重要な概念であるソーシャル・キャピタルについて定義・測定・介入に至るまで詳説する。	○	○	吉岡貴史
	5	感情と健康 社会的文脈と健康行動	社会的文脈における感情と健康について解説する。また、社会的文脈において考慮すべき多角的介入アプローチについて詳説する。	○	○	吉岡貴史
	6	社会疫学における心理 社会的介入研究 政策と社会疫学研究	社会疫学における心理社会的な介入研究の現状、理論的枠組み、および実践上の課題について解説する。また社会疫学研究における政策の役割と、その評価手法、および健康の SDH への介入戦略について詳説する。	○	○	吉岡貴史
	7	行動経済学の保健政策 への応用 社会状況と健康をつなぐ 生物学的経路	社会疫学的な文脈を考慮した行動経済学の知見をいかに保健政策に活用すべきかを解説する。また、社会的逆境と健康影響をつなぐ経路について、現在わかっている生物学・生理学的プロセスを概説する。	○	○	吉岡貴史
	8	健康の商業的決定要因 日本における社会疫学 研究の実例	近年注目が高まる健康の商業的決定要因 (Commercial Determinants of Health: CDoH) について解説する。またこれまでの講義全てを踏まえ、日本の研究の実例を紹介する。	○	○	吉岡貴史
評価方法	出席 (60%)、最終レポート(40%)					
テキスト	・社会疫学 上 (2017) 大修館書店 ・社会疫学 下 (2017) 大修館書店					
参考書	・社会と健康: 健康格差解消に向けた統合科学的アプローチ (2015) 東京大学出版会 ・健康格差社会 第 2 版: 何が心と健康を蝕むのか (2022) 医学書院 ・命の格差は止められるか: ハーバード日本人教授の、世界が注目する授業 (2013) 小学館 101 新書					
授業時間外に 行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を読む。 最終レポートを期限までに提出する。					
備考	2026 年度開講 (2025 年度以前の入学者は履修不可)					

科目名	診療ガイドライン概論		学 期	前期後半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	金曜4限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	小島原典子		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	小島原典子					
科目概要	診療ガイドラインの国際的な作成方法である GRADE(Grading of Recommendations, Assessment, Development and Evaluation) システムについて解説するとともに、診療ガイドラインの国際的な評価方法である AGREE II(The Appraisal of Guidelines for Research and Evaluation II)を用いて、診療ガイドライン評価の演習を行う。					
到達目標	1. 診療ガイドライン(CPG)の定義について、説明することができる。 2. 診療ガイドラインの作成方法である GRADE システムについて、内容を説明することができる。 3. 診療ガイドラインの評価方法である AGREE II について、内容を説明することができる。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	診療ガイドラインとは	診療ガイドラインの定義、診療ガイドラインに期待される役割、診療ガイドライン作成の全体像について解説する。	○	○	小島原典子
	2	スコープの作成	ゲストスピーカーを招聘し、COI の申告、重要臨床課題、CQ (クリニカルクエスチョン)の構成要素、CQ の作成について解説する。	○	○	小島原典子
	3	システマティックレビュー	ゲストスピーカーを招聘し、文献検索と文献スクリーニング、エビデンス総体の評価、定量的システマティックレビュー、SoF 表の作成について解説する。	○	○	小島原典子
	4	推奨の作成	ゲストスピーカーを招聘し、EtD フレームワーク、推奨文草案の作成、推奨の決定方法、外部評価の方法について解説する。	○	○	小島原典子
	5	診療ガイドラインの評価方法(1)	AGREE II の使用に向けての準備、構成と内容、評価尺度と評点について解説する。	○	○	小島原典子
	6	診療ガイドラインの評価方法(2)	AGREE II の各項目(領域 1～領域 6)、およびガイドライン全体の評価について解説する。	○	○	小島原典子
	7	診療ガイドラインの評価演習(1)	発表準備	○	○	小島原典子
8	診療ガイドラインの評価演習(2)	わが国で出版された診療ガイドラインを評価して、ディスカッションを行う。	○	○	小島原典子	
評価方法	講義における議論への参加度(30%)、レポート(70%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	PICO から始める健康ガイドラインの作りかた (2026) 南江堂					
参考書	「Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 ver.3.0」日本医療機能評価機構(2021) https://minds.jcqh.or.jp/s/manual_2020_3_0 「診療ガイドラインのための GRADE システム 第 3 版」中外医学社(2018)					
授業時間外に行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考						

科目名	循環器臨床・疫学研究概論		学 期	前期後半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	金曜 3 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	田中仁啓		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	田中仁啓					
科目概要	授業の前半部分では、その日のテーマとなっている代表的な循環器疾患に関して概説する。授業後半部分では、その日学んだテーマ疾患に関連した代表的論文の抄読を行い、循環器疾患への理解を深めると同時に、臨床・疫学研究で使用される頻度の高い研究手法にも言及する。					
到達目標	1. 代表的な循環器疾患に関する疫学・病態生理・治療法を説明できる。 2. 臨床・疫学研究で使用される代表的な研究手法を理解し、結果を解釈できる。					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	導入、虚血性心疾患1	虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞など)の基礎を学び、関連する臨床・疫学研究論文の抄読を通じて循環器疾患予防・治療の現状と課題を理解する。	○	○	田中仁啓
	2	虚血性心疾患2	虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞など)の基礎を学び、関連する臨床・疫学研究論文の抄読を通じて循環器疾患予防・治療の現状と課題を理解する。	○	○	田中仁啓
	3	弁膜症	心臓の肉眼的解剖及び弁膜症の基礎を学び、関連する臨床・疫学研究論文の抄読を通じて循環器疾患予防・治療の現状と課題を理解する。	○	○	田中仁啓
	4	心不全 1	心不全の基礎を学び、関連する臨床・疫学研究論文の抄読を通じて循環器疾患予防・治療の現状と課題を理解する。	○	○	田中仁啓
	5	心不全 2	外部講師を招聘し、心不全の基礎を学び、関連する臨床・疫学研究論文の抄読を通じ、循環器疾患予防・治療の現状と課題を理解する。	○	○	田中仁啓
	6	不整脈疾患	不整脈疾患の基礎を学び、関連する臨床・疫学研究論文の抄読を通じ、循環器疾患予防・治療の現状と課題を理解する。	○	○	田中仁啓
	7	大動脈疾患、末梢動脈疾患、その他の循環器疾患	大動脈疾患・末梢動脈疾患・その他の循環器疾患の基礎を学び、関連する臨床・疫学研究論文の抄読を通じて循環器疾患予防・治療の現状と課題を理解する。	○	○	田中仁啓
	8	発表会・論文抄読	第1回から7回までに出てきた重要な疫学概念・統計手法に関して、受講学生一人一人に別々のテーマを与え、スライド1-2枚で発表。	○	○	田中仁啓
評価方法	演習や討論への積極的な参加度(50%)、レポート(50%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じた資料を配布					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ● 基礎から学ぶ楽しい疫学(第4版) ● 現代疫学(原著第4版) ● 医学研究のための因果推論レクチャー 					
授業時間外に行う学修内容	講義資料、毎週授業で抄読する論文(特に方法論)を1本事前に熟読しておくこと。					
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本科目で扱うテーマは循環器疾患であるが、論文の読み方は全ての分野に応用可能であるため、多くの生徒の積極的受講をお勧めしたい。循環器疾患に関する基礎知識は受講に不要だが、基本的な生化学・生理学・解剖学の知識はある方が望ましい。 ・ 教員・学生間の双方向性コミュニケーションを重視した講義スタイルです。 					

科目名	オーラルヘルスプロモーション		学 期	後期前半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜 2 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	佐藤洋子		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	佐藤洋子					
科目概要	口腔の健康と全身の健康は密接に関連している。オーラルヘルスプロモーションとは、口腔疾患の予防や口腔の健康意識を高めるプロセスや戦略である。本授業では、社会健康医学を実践するうえで重要なオーラルヘルスプロモーションに関する歯学知識、歯科口腔疾患の予防や公衆衛生、歯科保健医療制度、地域口腔保健、全身の健康との関連などについて、講義、ケーススタディ、ディスカッションを通して学習する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主な口腔疾患とその予防について理解する。 ・ 口腔と全身の健康との関連を理解する。 ・ 地域口腔保健について理解する。 ・ 歯科レセプトデータの特徴について理解する。 					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	オーラルヘルスプロモーションの目的と意義	社会健康医学におけるオーラルヘルスプロモーション(口腔保健・予防歯科学)の目的と意義を解説する。	○	○	佐藤洋子
	2	口腔の組織、発育、機能	歯科医学の基礎を解説する。	○	○	佐藤洋子
	3	口腔疾患の予防	う蝕、歯周病、不正咬合、オーラルフレイルなどの口腔疾患について解説する。疾患の予防や疫学指標について解説する。フッ化物応用によるう蝕予防について解説する。	○	○	佐藤洋子
	4	口腔と全身の健康(1) 糖尿病、循環器疾患、 心疾患など	口腔と全身の健康との関連について国内外の学術研究を紹介し、解説する。	○	○	佐藤洋子
	5	口腔と全身の健康(2) がん、呼吸器疾患、認 知症など	口腔と全身の健康との関連について国内外の学術研究を紹介し、解説する。	○	○	佐藤洋子
	6	地域口腔保健(1)	地域口腔保健に関する経験が豊富な研究者(ゲストスピーカー)を招聘し、ライフステージごとの口腔保健管理(母子口腔保健、小児期の口腔保健、成人期・老年期の口腔保健)の取り組みや研究などについて解説する。	○	○	佐藤洋子
	7	地域口腔保健(2)	地域口腔保健に関する経験が豊富で、静岡県の口腔保健にも関わっている研究者(ゲストスピーカー)を招聘し、ライフステージごとの口腔保健管理(母子口腔保健、小児期の口腔保健、成人期・老年期の口腔保健)の取り組みや研究などについて解説する。	○	○	佐藤洋子
8	歯科レセプトデータ の特徴と活用	歯科レセプトデータの特徴や、レセプトデータを用いた観察研究について解説する。	○	○	佐藤洋子	
評価方法	授業への出席(40%)、講義の理解度を確認する小テスト(30%)、講義への積極的な参加度(30%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする					
テキスト	・講義内容に応じて資料配布					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔保健・予防歯科学(2017) 安井利一・宮崎秀夫・鶴本明久・川口陽子・山下喜久・廣瀬公治 編 ・Oral Epidemiology: A Textbook on Oral Health Conditions, Research Topics and Methods (Textbooks in Contemporary Dentistry)(2020) Marco A. Peres, Jose Leopoldo Ferreira Antunes, Richard G. Watt ・「フッ化物洗口・ファクト: フッ化物洗口に関する疑問に答える。2022」著 一般社団法人日本口腔衛生学会フッ化物応用 					
授業時間外に行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること 復習: 講義内容に関連した文献や参考書を読み、理解を深めること					
備考						

科目名	医療統計学概論		学 期	前期		
履修区分	必修科目		曜日・時限	土曜 5 限		
単 位 数	2 単位 (90 分 × 15 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	山本精一郎		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	山本精一郎、佐藤洋子、竹内正人、田原康玄					
科目概要	人を対象とした疫学研究や臨床研究では、観察値に伴う不確実性が存在し、統計学的方法が科学の議論のために重要な役割を果たす。医学研究の計画及びデータ解析を行う上で必要となる医療統計学の基本的考え方(統計的仮説検定、推定、区間推定など)について講義を行うとともに、統計解析ソフトを用いた演習を行う。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・疫学研究や臨床研究における研究の計画及びデータの解析を行う上で必要となる。 ・医療統計学の基本的な概念を学ぶ。データの記述や基本的な統計手法を統計ソフトを用いて実施できるようになる。 					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	データの記述	本講義では、ヒストグラムや散布図などを使ったデータの解釈や解析法の選択など内容について学ぶ。検定や推定を実施する前に行うべきデータクリーニングや予備的解析についても学ぶ。	○	○	山本精一郎 佐藤洋子 竹内正人 田原康玄
	2	仮説検定(1)	統計学的仮説検定について、p 値の定義や考え方など基礎を学ぶ。	○	○	山本精一郎 佐藤洋子 竹内正人 田原康玄
	3	仮説検定(2)	連続量、カテゴリカルデータがアウトカムである場合の検定について学ぶ。	○	○	山本精一郎 佐藤洋子 竹内正人 田原康玄
	4	仮説検定(3)	Designed based のノンパラメトリック検定について学ぶ	○	○	山本精一郎 佐藤洋子 竹内正人 田原康玄
	5	生存時間解析	がんなどの臨床研究において特に重要な解析手法である生存時間解析について学ぶ。	○	○	山本精一郎 佐藤洋子 竹内正人 田原康玄
	6	ランダム化と交絡	医学研究で理解しておくべき最も重要な概念の 1 つである「交絡」及びその対処法としてのランダム化について学ぶ。	○	○	山本精一郎 佐藤洋子 竹内正人 田原康玄
	7	多変量解析(1)	本講義では交絡を制御する目的で用いられる多変量解析について学ぶ。統計モデルの構造や、統計モデルからハザード比やオッズ比がどのように推定するのかについても学ぶ。	○	○	山本精一郎 佐藤洋子 竹内正人 田原康玄
	8	多変量解析(2)	本講義では予測を目的とする多変量解析を実施する上での注意点を中心に学ぶ。	○	○	山本精一郎 佐藤洋子 竹内正人 田原康玄
	9	観察研究(1)	本講義では、曝露とイベント発生の因果関係を評価するための研究デザインであるコホート研究とケース・コントロール研究について学ぶ。それぞれの研究デザインで推定される効果の指標の違いについても学ぶ。	○	○	山本精一郎 佐藤洋子 竹内正人 田原康玄
10	観察研究(2)	本講義では、実例を用いてコホート研究とケース・コントロール研究を実施する際に気を付ける点について学ぶ。	○	○	山本精一郎 佐藤洋子 竹内正人 田原康玄	

	11	標準化	疫学研究でよく用いられる概念である、標準化について学ぶ。	○	○	山本精一郎 佐藤洋子 竹内正人 田原康玄
	12	統計解析ソフトを用いた解析実習(1)	統計解析ソフトを用いて、実際の統計解析の実施の仕方を学ぶ。	○	○	山本精一郎 佐藤洋子 竹内正人 田原康玄
	13	統計解析ソフトを用いた解析実習(2)	統計解析ソフトを用いて、実際の統計解析の実施の仕方を学ぶ。	○	○	山本精一郎 佐藤洋子 竹内正人 田原康玄
	14	統計解析ソフトを用いた解析実習(3)	統計解析ソフトを用いて、実際の統計解析の実施の仕方を学ぶ。	○	○	山本精一郎 佐藤洋子 竹内正人 田原康玄
	15	統計解析ソフトを用いた解析実習(4)	統計解析ソフトを用いて、実際の統計解析の実施の仕方を学ぶ。	○	○	山本精一郎 佐藤洋子 竹内正人 田原康玄
評価方法	レポート及び小テスト(100%) <成績評価の前提条件> 必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	宇宙怪人しまりす 医療統計を学ぶ 佐藤俊哉(著) 岩波書店 宇宙怪人しまりす 医療統計を学ぶ 検定の巻 佐藤俊哉(著) 岩波書店 宇宙怪人しまりす 統計よりも重要なことを学ぶ 佐藤俊哉(著) 岩波書店					
参考書	EZR でやさしく学ぶ統計学 改訂3版 ~EBMの実践から臨床研究まで~ 神田 善伸(著) 中外医学社; 改訂3版					
授業時間外に行う学修内容	授業を聞いてわからなかった概念について、参考書等を用いて復習を行う。					
備考	「医療統計学特論」、「臨床試験解析学」、「観察研究解析学」の履修にあたっては、本科目の単位修得を必須とする。					

科目名	医療統計学特論		学 期	後期		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜 5 限		
単 位 数	2 単位 (90 分 × 15 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	医療統計学概論		
科目責任者	山本精一郎		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	山本精一郎、佐藤洋子、竹内正人、田原康玄					
科目概要	<p>典型的な医学研究デザインである、曝露とアウトカムの関連を調べる研究について、データマネジメント、統計解析、結果のまとめ方を学ぶ。</p> <p>医療ビッグデータの構造を知り、自ら設定ファイルを作成し、解析用データセットを抽出する方法を学ぶ。統計ソフトを用いて、データハンドリングや統計解析、グラフ化などを学ぶ。</p> <p>実習を通して、具体的な統計手法として、記述統計、分割表の解析、連続量の解析、生存時間解析などを学ぶ。</p>					
到達目標	<p>1.典型的な医学研究デザインである、曝露とアウトカムの関連を調べる研究について、データを用いて必要な結果を導き出すことができる。</p> <p>2.Rなどの統計ソフトを用いることができる。</p> <p>3.医療ビッグデータのデータベースを用いて、クリニカルクエスチョンに対応した研究ができる。</p>					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	講義と実習の概要説明	医療ビッグデータなどデータベースを用いて行う研究デザインを可視化するフレームワークや、これらのデータベースを利用して研究する際の手続きについて学ぶ。	○	○	山本精一郎 佐藤洋子 竹内正人 田原康玄
	2	医療ビッグデータの抽出のための準備	医療ビッグデータから、曝露や交絡要因などの共変量、アウトカムデータ、医療費などを抽出する方法について学ぶ。	○	○	山本精一郎 佐藤洋子 竹内正人 田原康玄
	3	医療ビッグデータの抽出とRのインストール	医療ビッグデータから実際にデータを抽出する。今後の解析に向けてRのインストールと基本的な使い方について学ぶ。	○	○	山本精一郎 佐藤洋子 竹内正人 田原康玄
	4	データ・クリーニング1	変数型や欠損値の処理などデータを取り扱う上で知っておくべき基本的な事項や、基本的なデータハンドリングの方法を学ぶ。	○	○	山本精一郎 佐藤洋子 竹内正人 田原康玄
	5	データ・クリーニング2	実際にデータクリーニングを行うことによって、データハンドリングに習熟する。	○	○	山本精一郎 佐藤洋子 竹内正人 田原康玄
	6	連続変数・順序尺度の解析	連続変数や順序尺度について、記述統計やグラフ化の方法を学ぶ。回帰分析についても学ぶ。	○	○	山本精一郎 佐藤洋子 竹内正人 田原康玄
	7	二群間の連続量の比較	連続量の二群間比較を例に、統計的検定について復習する。ノンパラメトリック検定の考え方についても学ぶ。	○	○	山本精一郎 佐藤洋子 竹内正人 田原康玄
	8	カテゴリカルデータの解析 1	健診データを曝露とし、疾患発症などのアウトカムとの関係を調べる因果推論を例に、2x2 分割表の解析の仕方や効果の指標について学ぶ。	○	○	山本精一郎 佐藤洋子 竹内正人 田原康玄
	9	カテゴリカルデータの解析 2	2x2 分割表について、層別解析やサブグループ解析を行うことによって、交絡の調整や交互作用について学ぶ。	○	○	山本精一郎 佐藤洋子 竹内正人 田原康玄
10	リスク比とロジスティック回帰	有り無しのような二値のアウトカムに対し、モデルを用いて交絡を調整し、曝露の効果を推定する方法について学ぶ。リスク比とオッズ比の違いについて学ぶ。	○	○	山本精一郎 佐藤洋子 竹内正人 田原康玄	

	11	生存時間解析 1	打ち切りを伴う生存時間型のアウトカムに対し、要約の仕方 や群間比較の仕方について学ぶ。	○	○	山本精一郎 佐藤洋子 竹内正人 田原康玄
	12	生存時間解析 2	打ち切りを伴う生存時間型のアウトカムに対し、モデルを用 いて交絡を調整し、曝露の効果を推定する方法について学 ぶ。ハザード比と率について学ぶ。	○	○	山本精一郎 佐藤洋子 竹内正人 田原康玄
	13	連続データの回帰分 析・分散分析	総医療費や介護費用のような連続量のアウトカムに対し、モ デルを用いて交絡を調整し、曝露の効果を推定する方法に ついて学ぶ。	○	○	山本精一郎 佐藤洋子 竹内正人 田原康玄
	14	復習 1	患者コホートにおいて、予後との因果関連を調べる研究を例 に、これまでの復習を行う。	○	○	山本精一郎 佐藤洋子 竹内正人 田原康玄
	15	復習 2	患者コホートにおいて、予後との因果関連を調べる研究を例 に、論文の流れに沿って、図表の作成を行い、学会発表形式 のプレゼンテーションを行う。	○	○	山本精一郎 佐藤洋子 竹内正人 田原康玄
評価方法	小テスト及びレポート(100%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 15 コマ中 10 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じてスライドハンドアウト等を配布					
参考書	R など統計ソフトのハンドリングについては、書籍以外にインターネットの情報が参考になる。 生成系 AI など積極的に用いることが望ましい。 例 https://epirhandbook.com/jp/					
授業時間外に 行う学修内容	授業中の実習課題が終わらなかった場合は、次回までに必ず終わらせること。					
備考	オンライン、オンデマンドとも可能だが、実習が中心なので、オンサイトでの参加が望ましい。					

科目名	臨床試験解析学		学期	前期前半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜 3 限		
単位数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	医療統計学概論		
科目責任者	山本精一郎		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	医療統計学特論		
担当教員	山本精一郎					
科目概要	臨床試験における実施の流れ、基本的なデザイン、ランダム化の意義、試験デザイン、サンプルサイズ計算の方法、中間解析、データ管理及びモニタリング等について講義、演習を行う。					
到達目標	実際の臨床試験の事例を通し、統計学的事項を中心に、臨床試験の計画、実施、解析、報告するために必要となる事項を学ぶ。					
授業展開	回	テーマ	内容	オンライン	オンデマンド	担当教員
	1	研究コンセプトの作成	研究計画を立てる際には、プロトコルを作成する前に、研究の大まかの枠組みや重要な点、いわゆる研究コンセプトをしっかりと作成することが必要である。本講義では PICO に代表される一般的な研究コンセプトのフレームワークを解説し、具体的な研究を例にして実際にどのように対象・治療・エンドポイントを決定していくか学ぶ。	○	○	山本精一郎
	2	臨床試験のデザイン	臨床試験は標準治療の確立に不可欠である。本講義では、がんを対象とした臨床試験におけるエンドポイントの考え方や、各 phase におけるデザインの基本的な考え方について学ぶ。特に、検証的試験を実施する際の基本的な考え方を理解する。	○	○	山本精一郎
	3	サンプルサイズ設計	開発のそれぞれの相における臨床試験のサンプルサイズ設計の方法を知ることにより、研究目的や研究デザインによるサンプルサイズ設計の違いについて学ぶ。	○	○	山本精一郎
	4	ランダム化	ランダム化の意義、種類、実施方法、解析の仕方について学ぶ。	○	○	山本精一郎
	5	多重性の調整(1) 中間解析	臨床試験では、すべての患者データ収集が終わる前に、試験の継続可否を判断する「中間解析(interim analysis)」を行うことがある。本講義では、中間解析の目的、方法、独立した委員会による審査などについて学ぶ。	○	○	山本精一郎
	6	多重性の調整(2) 複数のエンドポイント	臨床試験では、decision making のために通常 1 つの primary endpoint を設定するが、複数の primary endpoints を設定する必要がある場合がある。そのような場合にも、検証的な結果を得るために α エラーを調整する方法について学ぶ。	○	○	山本精一郎
	7	モニタリングと監査	臨床試験の「品質」を保つための、モニタリングや監査について学ぶ。	○	○	山本精一郎
8	研究倫理と被験者保護	研究倫理は臨床研究に関わるすべての方に必須の知識である。研究倫理の原則を、国内・国外の不適切な臨床研究事例を振り返ることにより学ぶ。	○	○	山本精一郎	
評価方法	レポート(100%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じた資料を配布					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 米国 SWOG に学ぶがん臨床試験の実践第 2 版(原著第 3 版) ・ サンプルサイズの設計、2010、山口拓洋 					
授業時間外に行う学修内容	授業を聞いてわからなかった概念について、参考書等を用いて復習を行う。					
備考						

科目名	観察研究解析学		学期	前期後半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜3限		
単位数	1単位(90分×8コマ)		使用教室	講義室1		
配当年次 (履修推奨年次)	2年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	医療統計学概論		
科目責任者	田原康玄		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	医療統計学特論		
担当教員	田原康玄・山本精一郎・竹内正人・田中仁啓・佐藤洋子・佐藤清香					
科目概要	適切な研究計画に基づく観察研究の成果は、有益な知見をもたらす。循環器疾患予防をテーマとした架空の観察研究の計画立案にグループで取り組むことで、適切な観察研究を行うための学識を身につける。具体的には、計画を立案するプロセスを通じて、リサーチクエスション(RQ)の設定、RQに関する過去論文の検索と内容理解、対象者数の設定、対象者の確保、臨床情報等の収集の方法、データの解析計画の立案、適切な統計手法の選択、予想される結果と解釈について学ぶ。中間発表・最終発表を通じて、他のグループの計画を批判的に吟味する力を付ける。立案する研究計画は架空であるが、実行可能でなければならない。					
到達目標	観察研究の計画、実施、解析、報告のために必要となる、一連の学識を身につける。					
授業展開	回	テーマ	内容	オンライン	オンデマンド	担当教員
	1	オリエンテーション	授業の進め方の説明・グループ分け・研究テーマの選定	○	○	田原・山本・竹内・田中・佐藤・佐藤
	2	グループワーク①	研究テーマの絞り込み 各グループで取り組む研究についてRQを検討する 目標:適切なRQが設定されている	○	○	田原・山本・竹内・田中・佐藤・佐藤
	3	グループワーク②	研究デザインの検討 RQを解決するために適切な研究計画を検討する 目標:過去の研究成果を把握し、計画の概要ができています	○	○	田原・山本・竹内・田中・佐藤・佐藤
	4	中間発表	研究テーマとデザインについての発表と討論	○	○	田原・山本・竹内・田中・佐藤・佐藤
	5	グループワーク③	研究計画の再検討 中間発表での指摘を踏まえて研究計画を再考する 目標:研究デザイン・セッティングの概要が策定されている	○	○	田原・山本・竹内・田中・佐藤・佐藤
	6	グループワーク④	研究計画のブラッシュアップ 研究の方法・対象者数・情報収集の方法・解析方法の検討 目標:実施可能な研究計画が仕上がっている	○	○	田原・山本・竹内・田中・佐藤・佐藤
	7	グループワーク⑤	発表資料の作成 最終発表のための資料(スライド・研究提案書)の作成 目標:適切な説明資料が作成できている	○	○	田原・山本・竹内・田中・佐藤・佐藤
	8	最終発表	研究計画についての発表と討論	○	○	田原・山本・竹内・田中・佐藤・佐藤
評価方法	グループワークへの参加度(40%)・中間発表と最終発表の内容(50%)・発表会での質疑応答(10%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。					
テキスト	指定なし					
参考書	井上浩輔 他. 医学研究のための因果推論レクチャー. 医学書院					
授業時間外に行う学修内容	研究計画の立案と発表に必要な過去の論文の検索と理解、統計手法の理解、発表資料の作成等。					
備考						

科目名	健康・医療ビッグデータ概論		学 期	前期前半		
履修区分	必修科目		曜日・時限	土曜 2 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	竹内正人		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	竹内正人					
科目概要	健診データや診療情報、介護認定データなど、医療や介護を取り巻くビッグデータの解析手法と活用方法の基本的考え方について講義を行う。 (オムニバス方式・共同(一部)／全 8 回)					
到達目標	1. 健康・医療ビッグデータの特性を理解する。 2. 健康・医療ビッグデータの活用とその課題を理解する。 3. (関連する研究を考えている場合には、研究立案に講義内容を活かす)					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	健康・医療ビッグデータの理解と特性	健康社会を目指すうえで必要な医療ビッグデータの基本的な理解とその特性を学ぶ。	○	○	竹内正人
	2	日本の病院グループの電子カルテの利活用	国内で利用可能ないくつかのデータベースの特性(長所や制約)と、その特性をどのように研究に反映させたかを、事例ベースで解説する。また、今後の期待される展望についても概説を行う。	○	○	竹内正人
	3	医療・健康系管理データ	電子カルテ情報を用いたデータベースの構築とその研究面での利活用につき、ゲストスピーカーにお話をうかがう。	○	○	竹内正人
	4	医療・健康管理データ	医療・健康関連ビッグデータの例として、KDB、NDB、DPC、MIDNET、海外事例、等に関してゲストスピーカーにお話をうかがう。	○	○	竹内正人
	5	レセプトデータベースにおける疾病の捕捉手法	データベースからの情報の抽出に関して、ゲストスピーカーにお話をうかがう。	○	○	竹内正人
	6	公的統計データの利活用	公的統計データを用いた研究に関して、ゲストスピーカーにお話をうかがう。	○	○	竹内正人
	7	電子カルテ情報の収集と標準化	複数の医療機関から電子カルテ情報を収集した事例、及び利活用に関して工夫した点などについて、ゲストスピーカーにお話をうかがう	○	○	竹内正人
8	NDB 等の公的データベース利活用に関する厚労行政の最前線	行政的な視点からのビッグデータの利活用に関して、ゲストスピーカーにお話をうかがう。	○	○	竹内正人	
評価方法	レポート(100%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	パワーポイントスライドを用いる。					
参考書	(適切な書籍がないため特に指定しない)					
授業時間外に行う学修内容	予習: 配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した資料なども読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	「健康・医療ビッグデータ特論」の履修にあたっては、本科目の単位修得を必須とする。					

科目名	健康・医療ビッグデータ特論		学期	前期前半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	金曜 4 限		
単位数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	健康・医療ビッグデータ概論		
科目責任者	竹内正人		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	医療統計学特論		
担当教員	竹内正人					
科目概要	SKDB をはじめとするビッグデータの解析や結果の好評に関する、実務的な内容を中心とした講義や演習を行う。教科書などには十分に書かれていない内容や、理解が困難と思われる内容が中心となる。一部にやや高度な内容を含む。また、ビッグデータ以外の解析においても応用可能となるよう内容を吟味する。					
到達目標	1. 実践的な問題設定を基に、レセプトデータの利用、解析、解釈の方法を習得する。 2. 疫学、医療統計学を応用し、既存データから実際の問題にアプローチする方法を学習する。					
授業展開	回	テーマ	内容	オンライン	オンデマンド	担当教員
	1	研究計画の立案	保健医療ビッグデータを用いた研究の立案や報告に関する概説を行う	○	○	竹内正人
	2	交絡の調整 1	多変量解析を行うことを想定し、変数選択、適切な変数がない場合の考え方などについての解説を行う	○	○	竹内正人
	3	交絡の調整 2	傾向スコアを用いた交絡の調整(マッチング・IPTW)に関する解説を行う。	○	○	竹内正人
	4	交絡の調整 3	傾向スコアの適応条件や、マッチング・IPTW 以外の傾向スコアの使用に関する解説を行う。やや高度な内容となる。	○	○	竹内正人
	5	未測定交絡	感度解析、positive/negative control を含む未測定交絡への対応を解説する。やや高度な内容となる。	○	○	竹内正人
	6	データのクリーニング	欠測値や外れ値などの対処法に関して、解説を行う	○	○	竹内正人
	7	縦断データの取り扱い	時間依存性交絡、混合効果モデル、不死時間バイアスなど縦断的データに特異的な問題やその対処法の解説を行う。やや高度な内容となる。	○	○	竹内正人
8	テーマ演習	事前の研究案に関して、グループ発表・討議を行う。	○	○	竹内正人	
評価方法	小レポート(75%)、発表(25%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じた資料を配布					
参考書	特に指定しない					
授業時間外に行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 演習で討議した内容を振り返り、レポートを作成すること。					
備考						

科目名	環境健康科学・産業衛生学概論		学 期	前期		
履修区分	必修科目		曜日・時限	土曜 3 限		
単 位 数	2 単位 (90 分 × 15 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	天笠 崇		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	天笠 崇、谷 幸則					
科目概要	<p>自然環境や社会環境といった環境と健康に関する科学の到達点、特に職場環境と労働者の健康の保持・増進に関する産業衛生学の過去と現在について学び、持続可能な開発目標(SDGs)という未来に向け社会健康医学の専門家に今求められる基礎知識について講義を行う。 (オムニバス方式/全 15 回) (天笠崇/12 回)社会環境と健康、産業衛生学(労働衛生管理、職業性疾病予防、メンタルヘルス対策等)について講義を行う。 (谷幸則/3 回)環境汚染と健康影響、わが国の代表的な公害等、環境健康科学について講義を行う。</p>					
到達目標	<p>1. 環境が人の健康に影響を及ぼし得ることを理解し具体例で説明できる。 2. 労働衛生の現況と三管理一教育について具体的事例を挙げて説明できる。 3. 環境と職場における健康へのリスクのアセスメントとマネジメント法について説明できる。</p>					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	自然環境と健康(1)	環境健康科学のオリエンテーション、生物環境と、代表的な感染症及びその対策、新興・再興感染症とそれらの制御、外来種問題や森林破壊と健康等について解説する。	○	○	天笠 崇
	2	自然環境と健康(2)	地球規模の環境破壊(地球温暖化、酸性雨、砂漠化、オゾン層破壊等)と健康影響について解説する。	○	○	谷 幸則
	3	自然環境と健康(3)	環境汚染(大気・水質・土壌・騒音・放射線・環境化学物質等)と健康影響並びに環境保全について解説する。	○	○	谷 幸則
	4	自然環境と健康(4)	環境浄化・保全への環境微生物の役割についてレアメタル回収や湖沼の富栄養化などに対する学術研究の具体例を挙げながら解説する。	○	○	谷 幸則
	5	社会環境と健康(1)	文化・文明・宗教や政治や社会保障制度と健康影響(感染症、戦争・紛争・テロ、生活習慣病、精神疾患等)について講義する。	○	○	天笠 崇
	6	社会環境と健康(2)	都市化、少子高齢化や核家族化、格差と貧困や女性の社会進出(非婚・晩婚化等)といった主に社会環境の変化と健康影響(発達の跛行、高齢者介護問題、引きこもり、健康格差、災害に脆弱な都市等)、並びに健康の保持・増進対策について解説する。	○	○	天笠 崇
	7	社会環境と健康(3)	核家族や単身(高齢)世帯の増加といった多様な家族形態の増加、女性の社会進出(共働き家庭)の増加(非婚・晩婚化等)、家族レジリエンスの低下(子育てや介護力の低下等)といった主に家庭環境の変化と健康影響、並びにその対策について講義する。	○	○	天笠 崇
	8	社会環境と健康(4)	神経発達症の増加を初めとした児童生徒の健康状態の変化、過度な競争、教職員の多忙化といった主に学校環境の変化と健康影響(いじめ、不登校、教職員のメンタル不全)、それらに対する対策について講義する。	○	○	天笠 崇
	9	社会環境と健康(5)	産業衛生学のオリエンテーション、就業・産業構造の変化と健康影響並びに労働衛生の現況について講義する。	○	○	天笠 崇
10	労働衛生管理の基本	労働衛生管理の基本、健康確保対策、快適職場環境の形成について講義する。	○	○	天笠 崇	

	11	職業性疾病予防について(1)	リスクアセスメント・リスクマネジメント・リスクコミュニケーション、代表的な有害物質と健康影響並びにそれらの制御について講義する。	○	○	天笠 崇
	12	職業性疾病予防について(2)	粉じん、電離放射線、酸欠、高気圧、騒音、振動、腰痛、熱中症などと予防対策について講義する。	○	○	天笠 崇
	13	メンタルヘルス対策について	一次予防(ストレスチェック制度、長時間労働対策)、二次予防(早期発見・早期適切な処遇)、三次予防(職場の復帰支援)について講義する。	○	○	天笠 崇
	14	作業環境の測定に基づく作業環境管理について	作業環境の測定方法、結果の評価と事後措置、局配装置などについて講義する。	○	○	天笠 崇
	15	最近のトピックスについて	過労死vs過労自殺、「働き方改革」の内容、両立支援、第13次防止計画、持続可能な開発目標(SDGs)などについて講義する。	○	○	天笠 崇
評価方法	積極的な参加度(100%;出席状況、ディスカッション参加度・発言内容) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	参考書の1・2番目を中心に作成予定の、講義用の資料で代えます。					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ■ NEW 予防医学・公衆衛生学(南江堂) ■ 令和7年版労働衛生のしおり(中災防) ■ 沈黙の春(新潮文庫) ■ 感染症と文明(岩波新書) ■ 病気の社会史(岩波現代文庫) ■ 銃・病原菌・鉄(上)(下)(草思社文庫) ■ 四大公害病(中公新書) ■ 水俣病は終わっていない(岩波新書) ■ 健康格差(日本評論社) ■ 健康格差社会第2版(医学書院) ■ 雇用身分社会の出現と労働時間(桜井書店) ■ DOHaD 先制医療への展開(金原出版株式会社) ■ サステイニング・ライフ(東海大学出版部) 					
授業時間外に行う学修内容	<p>予習:あらかじめ配布した講義資料に目を通してください。</p> <p>復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深めてください。</p>					
備考						

科目名	生活習慣病(生活習慣・遺伝子・環境)		学 期	後期後半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	金曜 3 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	森 潔		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	森 潔、溝田友里					
科目概要	<p>食事、運動、休養、喫煙、飲酒などの生活習慣により発症、進行する生活習慣病の概要と疫学的知見、予防のための取組について講義を行う。 (オムニバス方式／全 8 回) (森 潔／6 回)腎疾患、高血圧、糖尿病等における生活習慣、遺伝子、環境との関係に関する講義を行う。 また、肥満、骨粗鬆症と生活習慣との関係に関する講義を行う。リスクファクターパラドックスについて解説する。 (溝田友里／2 回)特定健診、特定保健指導による生活習慣の改善支援に関する講義を行う。</p>					
到達目標	<p>1. 主な生活習慣が疾患に及ぼす影響を環境・遺伝子の視点を含めて説明できる。 2. 特定健診と特定保健指導における生活習慣の意義とその改善支援を説明できる。 3. ヘルスプロモーションの視点から生活習慣と生活習慣病を説明できる。</p>					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	腎疾患	腎疾患と生活習慣の関係、食事療法による透析導入の回避について解説する。	○	○	森 潔
	2	高血圧	代表的な生活習慣病(高血圧)における生活習慣と遺伝子、環境の関係について解説する。	○	○	森 潔
	3	糖尿病・脂質異常など	代表的な生活習慣病(糖尿病・脂質異常など)における生活習慣と遺伝子、環境の関係について解説する。	○	○	森 潔
	4	肥満	ゲストスピーカーを招聘し、肥満などの生活習慣病における生活習慣と遺伝子について解説する。	○	○	森 潔
	5	骨粗鬆症	ゲストスピーカーを招聘し、骨粗鬆症と生活習慣病について解説する。	○	○	森 潔
	6	リスクファクター パラドックス	生活習慣病による寿命短縮が逆転するリスクファクターパラドックスの病態について解説する。	○	○	森 潔
	7	生活習慣と健康、ヘル スプロモーション	生活習慣と健康、疾患の関係や、ヘルスプロモーションのあり方について解説する。	○	○	溝田友里
8	特定健診と特定保健 指導	特定健診と特定保健指導から見た生活習慣の意義とその改善支援について解説する。	○	○	溝田友里	
評価方法	毎回の小レポート(60%)、全体を通してのレポート(40%) ＜成績評価の前提条件＞選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	授業展開の必要に応じてその都度指示					
授業時間外に 行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	本領域に関する基礎的な知識を有していることが望ましい。					

科目名	ヘルスコミュニケーション概論		学 期	前期後半		
履修区分	必修科目		曜日・時限	土曜 2 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	山本精一郎		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	山本精一郎、溝田友里					
科目概要	健康増進と疾病予防に関する情報伝達を効果的に行うためのコミュニケーション手法の基礎について講義を行う。特に対象の調査・分析に基づく適切なヘルスコミュニケーション戦略に関する理解を深める。					
到達目標	1. ヘルスコミュニケーションの基本的な概念を理解する。 2. 対象に応じて異なるヘルスコミュニケーション手法の特性を理解する。 3. 良好なヘルスコミュニケーションを実現するための手法を主体的に検証できる。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	ヘルスコミュニケーション事業の流れ	実例を通し、ヘルスコミュニケーション事業の流れを理解する。	○	○	山本精一郎 溝田友里
	2	現状分析と対象者の理解	テーマと対象を定め、既存及び新規の情報を収集し、現状や提案されている解決策を把握する方法について解説を行う。	○	○	山本精一郎 溝田友里
	3	コミュニケーション戦略分析とセグメンテーション	対象に対するコミュニケーションがどのように行われているかを調べるとともに、対象のセグメンテーションの方法を解説する。	○	○	山本精一郎 溝田友里
	4	戦略ステートメントの作成	これまでの調査を基に、対象者、目標、障壁、メリット、チャネルなどを含んだコミュニケーション戦略ステートメントの作成方法を解説する。	○	○	山本精一郎 溝田友里
	5	コンセプト・メッセージの作成	これまでの調査を基に、それぞれのセグメントに対する介入戦略作りのコンセプト・メッセージの作成方法を解説する。	○	○	山本精一郎 溝田友里
	6	プレテスト	作成したコンセプト・メッセージを想定される対象に対してテストを行い、意図の変化の測定を行うことによって、採用するコンセプト・メッセージを決定する方法について解説する。	○	○	山本精一郎 溝田友里
	7	クリエイティブ資材の作成	採用したコンセプトを用い、利用するチャネルに合わせたクリエイティブ資材を作成する方法について解説する。	○	○	山本精一郎 溝田友里
	8	資材の確定と事業の実施	作成した資材のうち、利用するものを決定し、計画に沿って事業を実施する方法を解説する。	○	○	山本精一郎 溝田友里
評価方法	授業における議論への参加度・発言内容(70%)、レポート(30%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ヘルスコミュニケーション実践ガイド(日本評論社) 健康行動理論による研究と実践(医学書院) 					
授業時間外に行う学修内容	復習:講義内容に関連した資料や参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	<ul style="list-style-type: none"> 「ヘルスコミュニケーション特論」の履修にあたっては、本科目の単位修得を必須とする。 					

科目名	ヘルスコミュニケーション特論		学 期	前期前半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	金曜 5 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	ヘルスコミュニケーション概論		
科目責任者	溝田友里		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	溝田友里					
科目概要	厚生労働省行政やマスメディア等における健康づくり支援の経験豊富なゲストスピーカーを迎え、ヘルスコミュニケーション手法や様々な行動科学理論を用いた健康の維持増進のための社会実装例や、それらを活用した政策等についての講義を行う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ヘルスコミュニケーションや、ナッジ、ソーシャルマーケティングなど様々な行動科学理論の real world での具体的な活用方法を理解する。 対象者の健康の維持増進のための行動変容に、メディア、自治体、国などの現場で取り組む実務者の経験から、実践に必要なことを学ぶ。 事例を通じて、健康づくりに関して、理論や研究を社会実装する方法を学ぶ。 					
授業展開	回	テーマ	内容	オンライン	オンデマンド	担当教員
	1	健康情報番組の作り方(1)	健康情報番組制作者をゲストスピーカーに迎え、視聴者を惹きつける情報の伝え方や、番組作りの一連の流れ等について学ぶ。	○	○	溝田友里
	2	社会福祉制度について	社会福祉の実践に関して経験豊富なゲストスピーカーを迎え、保育から介護まで支援する先進的な事例について学ぶ。	○	○	溝田友里
	3	少子化対策について	少子化対策などの国政に関して経験豊富なゲストスピーカーを迎え、日本の課題や国会議員の役割などについて学ぶ。	○	○	溝田友里
	4	健康づくり政策について	健康づくり政策について経験豊富なゲストスピーカーを迎え、行政の仕組みや今後生じる課題などについて学ぶ。	○	○	溝田友里
	5	労働政策について	労働人材確保に関する政策について経験豊富なゲストスピーカーを迎え、労働人材に関する課題及び解決のための取組について学ぶ。	○	○	溝田友里
	6	地域のつながりづくりについて	地域のつながりをつくるための政策について経験豊富なゲストスピーカーを迎え、地域づくりやまちづくりに関する課題及び解決のための取組について学ぶ。	○	○	溝田友里
	7	医療政策について	健康づくり政策について経験豊富なゲストスピーカーを迎え、行政の仕組みや今後生じる課題などについて学ぶ。	○	○	溝田友里
8	健康情報番組の作り方(2)	健康情報番組制作者をゲストスピーカーに迎え、健康・科学情報をわかりやすく伝える方法や、メディアの活用方法等について学ぶ。	○	○	溝田友里	
評価方法	講義における議論への参加度(100%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じてスライドハンドアウト等を配布					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ヘルスコミュニケーション実践ガイド(日本評論社) 健康行動理論による研究と実践(医学書院) 					
授業時間外に行う学修内容	関心がある分野について、テキストや講義内容に関連した参考資料等を読み、理解を深める。					
備考						

科目名	行動医科学		学 期	後期前半		
履修区分	必修科目		曜日・時限	金曜 5 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	山本精一郎		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	山本精一郎					
科目概要	本授業は、健康・医療課題を「行動」として捉え、行動の決定要因を理論や枠組みに基づいて整理した上で、行動変容を促す介入を設計し、現場での実装と評価を通じて改善するための基礎を学ぶ。授業は講義に加え、受講者の臨床・地域・職域等の経験を活かしたケースに基づくグループワークと討議を中心に進める。行動の定義、行動診断、意思決定と継続の理解、介入の構成、評価・実装(到達・採用・継続等)の観点を扱い、さらに健康行動理論、ナッジと行動経済学、無関心者へのアプローチ、ポジティブ・デビアンズ、ポピュレーションアプローチへと展開する。授業では代表的な枠組み・理論・技法を参照しつつ(例:COM-B、TDF、TPB、SCT、RE-AIM、CBT など)、受講者の背景や討議の進度に応じて扱う枠組みを調整する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 健康・医療課題を観察可能な「目標行動」として具体化し、行動が起きない／継続しない要因を理論や枠組みに基づき整理・優先順位づけできる(例:COM-B、TDF など)。 意思決定(意図形成)と継続(習慣化・自己調整)の観点から、介入仮説を立て、行動変容介入を構成要素(コミュニケーション、支援技法、環境調整等)として設計できる(例:TPB、SCT、CBT など)。 介入を個別支援から集団実装(ポピュレーションアプローチ)まで視野に入れて検討し、アウトカムとプロセス(到達・採用・継続等)を含む評価計画を立案できる(例:RE-AIM など)。 					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	行動課題の設定と目標 行動の定義	課題を観察可能な目標行動に具体化し、対象(個人／集団等)を明確化する。	○	○	山本精一郎
	2	行動の決定要因の整理 (行動診断)	個人要因と環境要因から障壁・促進要因を整理し、優先順位づけする(例:COM-B、TDF など)。	○	○	山本精一郎
	3	意思決定と継続の理解	意図形成と継続(習慣化・自己調整)の観点から介入の焦点を整理する(例:TPB、SCT、CBT など)。	○	○	山本精一郎
	4	介入の構成と評価・実装 の基本	介入を設計し、アウトカムと実装(到達・採用・継続等)を含めて評価・点検する(例:RE-AIM など)。	○	○	山本精一郎
	5	健康行動理論について	ヘルスビリーフモデルやトランスセオレティカルモデルなど、基本的な健康行動理論モデルについて講義する。	○	○	山本精一郎
	6	ナッジと行動経済学	行動変容を促す方法の新しい潮流であるナッジや行動経済学のヘルスコミュニケーション分野での適用について学ぶ。	○	○	山本精一郎
	7	健康行動の無関心者と ポジティブ・デビアンズ	健康行動に関する無関心者に対するアプローチについて議論するとともに、行動変容を促す方法としてのポジティブ・デビアンズアプローチについて学ぶ。	○	○	山本精一郎
8	ポピュレーションアプロ ーチによる健康行動変容	これまでの講義のまとめとして、実際の例を知ることにより、健康行動のポピュレーションアプローチの技法の復習を行う。	○	○	山本精一郎	
評価方法	議論への参加度・発言内容(90%)、レポート(10%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 行動医学テキスト(中外医学社) 健康行動学(メディカル・サイエンス・インターナショナル) 健康行動理論による研究と実践(医学書院) 					
授業時間外に 行う学修内容	復習:講義内容に関連した資料や参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	「医療・ケア組織論」の履修にあたっては、本科目の単位修得が望ましい。					

科目名	健康情報学		学期	後期後半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜2限		
単位数	1単位(90分×8コマ)		使用教室	講義室2		
配当年次 (履修推奨年次)	1年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	高山智子		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	高山智子、山本精一郎、溝田友里					
科目概要	<p>疫学やEBM(根拠に基づく医療)を基本として、医学文献からマスメディア、インターネットによる健康情報まで、様々な情報の特徴を知り、それらを主体的、効果的に活用する方法について講義、演習を行う。 (オムニバス方式/全8回) (高山智子/4回)健康情報を取り巻く環境や課題についての講義を行うとともに、健康情報の利用場面を想定した文書や情報を活用した支援について講義および演習を行う。 (山本精一郎/1回)健康情報の評価、様々な情報の特徴について講義を行うとともに、具体的な事例を用いた演習を通じ効果的な健康情報の提供方法を議論する。 (ゲストスピーカー/2回)診療ガイドラインについて講義を行う。 (溝田友里/1回)国等行政からの情報提供について講義を行う。</p>					
到達目標	<p>1. 疫学・EBMの知識を応用して、各種の健康・医療情報を適切に活用できる。 2. マスメディア情報、インターネット情報を収集し、適正な吟味を行った上で、各人の意思決定、問題解決、そしてコミュニケーションの素材とすることができる。 3. 意思決定に困難を感じている人々への真摯な理解と援助に役立てるスキルを体得する。</p>					
授業展開	回	テーマ	内容	オンライン	オンデマンド	担当教員
	1	健康情報を取り巻く環境	我々をとりまく健康情報を取り巻く環境について、現状の課題について学ぶ。	○	○	高山智子
	2	健康に関する文書情報の作成	エビデンスに基づく情報をどう文書で伝えるか、健康関連の文書情報作成の留意点について学ぶ。	○	○	高山智子
	3	健康に関する誤情報	健康情報の評価方法、誤情報が生まれる背景について学ぶ。	○	○	高山智子
	4	エビデンスとリコメンデーション作成	疫学やEBMの知識を基に、健康情報の評価方法を講義する	○	○	山本精一郎
	5	エビデンスに基づく医療<EBM>の「原点」と「その先」(1)	ゲストスピーカーを招聘し、質の高い医療情報の集約・共有・普及、根拠である診療ガイドラインの作成法、評価法を学ぶ。	○	○	高山智子
	6	エビデンスに基づく医療<EBM>の「原点」と「その先」(2)	ゲストスピーカーを招聘し、診療ガイドラインからさらに進み、Shared decision makingについて学ぶ。	○	○	高山智子
	7	リスクコミュニケーション	国等、行政の立場からの健康に関する情報の発信の仕方について知り、公的な情報の発信の仕方を学ぶ。	○	○	溝田友里
	8 2/7	健康情報の活用支援	健康情報を利用する立場、提供する立場のヘルスリテラシーの観点から、健康情報の活用支援について学ぶ。	○	○	高山智子
評価方法	演習における議論の参加(50%)、レポート(50%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	授業展開の必要に応じてその都度提示する。					
授業時間外に行う学修内容	復習:講義内容に関連した資料や参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考						

科目名	健康医療社会学		学 期	後期		
履修区分	選択科目(遺伝カウンセラー養成コース必修科目)		曜日・時限	金曜 4 限		
単 位 数	2 単位(90 分×15 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	山崎浩司		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	山崎浩司、高山智子、臼井健、堀内泰江、田中仁啓					
科目概要	健康医療社会学は、現代の生老病死と健康にまつわる多様な現象や営為を、社会的側面から研究する学問である。本科目では、健康医療社会学が蓄積してきた諸理論を解説し、さらに医療にまつわる最近の動向も取り上げて、それらを受講生が日常生活や臨床現場で直面する健康・病気・医療に関する社会現象や社会問題と関連づけながら理解を深められるよう、討論やグループプレゼンテーション課題を行う。					
到達目標	1. 健康・病気に対する医療専門職的な視点を相対化できる。 2. 現代の医療問題に生活者として、あるいは専門職として、どうかかわるべきかをクリティカルに考えられる。 3. 社会的に考察・解明した結果を人々にわかりやすく伝えることができる。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	健康医療社会学とは	健康医療社会学の成り立ちや特性を学び、いかに健康・医療問題の考察に役立つのかを確認する。	○	○	山崎浩司
	2	病気行動	人が病気になったと感じた時にとる行動について、病人役割理論等の社会学理論で考察する。	○	○	山崎浩司
	3	病いの語り	病者による病いの語りと、それに基づく医療である Narrative Based Medicine について理解する。	○	○	山崎浩司
	4	患者の立場からの思い	遺伝性疾患の患者さんをゲストスピーカーに招き、当事者からその体験、患者会の活動、社会への提言等の話を聞き、遺伝性疾患患者の思いを理解する。	○	○	臼井健/堀内泰江
	5	医師-患者関係	社会的な医師-患者関係の捉え方を学び、両者の関係やコミュニケーションのあり方を考える。	○	○	山崎浩司
	6	医師と連携する専門職	医師と連携する専門職の医師との関係やジェンダーの影響及び感情労働について考察する。	○	○	山崎浩司
	7	がんを取り巻く連携	AYA 世代のがん等を事例に、医療を含む社会における連携のあり方について考察する。	○	○	高山智子
	8	病気と差別	病気に対する社会的差別がいかに生まれるのかを、スティグマ理論等の社会学理論で考察する。	○	○	山崎浩司
	9	LGBTQ+ の社会的状況と健康課題	ゲストスピーカーの講義をとおして、セクシャルマイノリティの置かれた社会的状況と直面する健康課題を理解し、多様性に立脚した健康施策の必要性について考察する。	○	○	山崎浩司
	10	精神疾患とラベリング	精神疾患がいかに疾患として社会的に成立するのかを、ラベリング理論等の社会学理論で考察する。	○	○	山崎浩司
	11	医療化・施設化	医療の範疇になかった現象がその範疇に取り込まれていくという医療化論と、医療施設が収容者に及ぼす影響を論じる施設化論について理解する。	○	○	山崎浩司
12	デジタルヘルス	デジタルヘルス普及に伴う、診療・社会・患者の変化及び今後の取り組み方に関して考察する。	○	○	田中仁啓	

	13	緩和ケアと健康増進	緩和ケアを健康増進・公衆衛生的に捉え直す社会学理論について理解する。	○	○	山崎浩司
	14	グループ課題のプレゼンテーション 1	受講者がこれまでの学びを踏まえ、健康医療社会学のテーマを選択してプレゼンテーションを行う。	○	×	山崎浩司
	15	グループ課題のプレゼンテーション 2+まとめ	受講者がこれまでの学びを踏まえ、健康医療社会学のテーマを選択してプレゼンテーションを行う。また、全体を振り返り、健康医療社会学の自分なりの理解を確認する。	○	×	山崎浩司
評価方法	グループプレゼンテーション課題(50%)、期末レポート(50%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3以上の出席(全15コマ中10コマ以上)を条件とする。 遺伝カウンセラー養成コースの学生は、必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	・ 中川輝彦・黒田浩一郎編『よくわかる医療社会学』ミネルヴァ書房					
参考書	・ 中川輝彦・黒田浩一郎編『[新版]現代医療の社会学—日本の現状と課題』世界思想社 ・ 佐藤順一・美馬達哉・中川輝彦・黒田浩一郎編著『病と健康をめぐるせめぎあい—コンテストーションの医療社会学』ミネルヴァ書房					
授業時間外に行う学修内容	授業で講師が指定したテキストの該当部分や配布資料などを読み、授業内容を復習して理解を深める。グループプレゼンテーションの準備を、同じグループのメンバーと連絡しあったり、直接またはオンラインで集まったりしつつ進める。					
備考	ゲストスピーカーの都合により、授業展開の順番が変更になる可能性があることを了解されたい。					

科目名	公衆衛生危機管理論		学 期	後期		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜 4 限		
単 位 数	2 単位 (90 分 × 15 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	溝田 友里		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科 目	社会健康医学概論		
担当教員	溝田 友里、佐藤 清香、森 寛子					
科目概要	<p>○講義の目的 公衆衛生を取り巻く危機管理のアプローチは、地域行政を中心に地域の課題を汲みつつ取り組まれている。静岡県内の現状を中心に、県や国等の公衆衛生危機管理対応や支援について経験豊富なゲストスピーカーからの講義を通じて、公衆衛生における危機管理の重要性と対策を理解する。</p> <p>○構成 オムニバス方式／全 15 回 講義の主なテーマ：公衆衛生での緊急事態、中毒、感染症、虐待、リスクコミュニケーション、自然災害、防災、被災地支援 等 グループワーク：公衆衛生的な危機管理が求められるテーマを学生同士で出し合い、その中から主要なテーマについて各グループで課題整理や対策を検討する。各講義の後半でグループワークを行い、15 回目の講義で発表を行う。</p>					
到達目標	<p>1 公衆衛生危機管理に関する基礎知識や現状、課題等について理解する。</p> <p>2 公衆衛生の専門的な知識をもつ者として、公衆衛生危機管理における自らの役割について考える。</p>					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	被災者である対人援助者の実際	東日本大震災において、自らが被災者でもある医療・介護スタッフの苦悩と実際の活動を、インタビューデータにより理解を深める。グループワークの初めとして、各人が提出した公衆衛生から見た危機管理が求められるテーマについて全体討議を行う。	○	△	森 寛子
	2	災害対策概論	ゲストスピーカーによる危機管理の概論の講義を行う。	○	△	佐藤 清香
	3	グローバルヘルスから見たリスク	WHO 神戸センターのゲストスピーカーにより、グローバルヘルスから見た健康問題の視点を学び、WHO の災害に関する取り組みを学ぶ。世界における災害管理や日本の役割について、理解を深める。(変更の可能性あり)	○	△	森 寛子
	4	災害医療における国際協力	さまざまな災害に共通する災害リスクをハザードと曝露(H&E)、脆弱性(V)、対応能力(C)の3つの因子に分解することで、被害を低減させ、速やかに対応するためにできる国際協力のあり方を考える	○	△	森 寛子
	5	リスクコミュニケーション	リスクコミュニケーションの概説を受け、理解する。	○	△	溝田 友里
	6	救急・救命(1)	東日本大震災以降の大規模自然災害や新型コロナにおける自治体等の支援の経験豊富なゲストスピーカーにより、危機発生時の共通言語や情報について説明を受け、理解する。	○	△	溝田 友里
	7	救急・救命(2)	救急・救命等に関する指導経験豊富なゲストスピーカーにより、災害や感染症等の危機発生時の対応や体制について説明を受け、理解する。	○	△	溝田 友里
	8	災害精神医学	災害時の精神的な活動経験が豊富なゲストスピーカーによる取組の実際について講義を受け、公衆衛生スタッフとしてどのように関与できるか検討する。	○	△	佐藤 清香
	9	火山災害	火山活動等の自然災害において取るべき防災行動について考え、公衆衛生スタッフとしてどのように関与できるか検討する。	○	△	佐藤 清香

	10	中毒	テロを含む化学中毒対策の実際について、ゲストスピーカーによる講義を受け、公衆衛生スタッフとしてどのように関与できるか検討する。	○	△	佐藤 清香
	11	感染症(1) 静岡県による感染症対策	感染症対策の実務経験が豊富なゲストスピーカーにより、感染症対策の実際について解説を受け、公衆衛生スタッフとしてどのように関与できるか検討する。	○	△	溝田 友里
	12	感染症(2) 行政によるCOVID-19対策	感染対策の実務経験が豊富なゲストスピーカーにより、メディア対応を含めたリスク情報等の発信に関して、コロナワクチンを例に理解を深め、公衆衛生スタッフとしてどのように関与できるか検討する。	○	△	溝田 友里
	13	虐待 隠蔽された個人レベルの危機	児童虐待をめぐる法制度など、児相の役割に絞った講義の後、保健師活動による事例紹介で理解を深める。	○	△	佐藤 清香 溝田 友里
	14	災害からの復興について(中長期視点)	災害復興支援の実務経験が豊富なゲストスピーカーにより、災害からの復興支援について中長期的な視点からの解説を受け、取組や課題について理解する。また、「支援者の支援」に関する理解を深める。	○	△	溝田 友里
	15	発表	グループ学習の発表を行い、全体で議論する。	○	×	佐藤 清香 溝田 友里 森 寛子
評価方法	討論の参加度(20%)、グループによる発表とレポート(80%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3以上の出席(全15コマ中10コマ以上)を条件とする。					
テキスト	スライドハンドアウト等					
参考書	「保健緊急事態および災害リスク管理のための研究方法に関するWHOガイダンス2022年改訂」 https://extranet.who.int/kobe_centre/sites/default/files/documents/2023-09/Research%20Methoda%20Guidance%20in%20Japanese%202023.pdf					
授業時間外に行う学修内容	テキストや、講義内容に関連した文献を読み、理解を深めること。					
備考	グループ学習を設けており、毎回の授業で20分程度をグループ作業に充てる予定のため、できる限りオンサイトまたはオンラインで参加することが望ましい。					

科目名	死生学		学 期	前期前半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜 5 限		
単 位 数	1 単位 (90 分 × 8 コマ)		使用教室	講義室 3		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	山崎浩司		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	山崎浩司					
科目概要	現代社会の人の生き死ににまつわる多様な課題を扱う死生学について解説する。また、地域における看取りと死別と支えあいについて講義を行う。					
到達目標	1. 死生学の成り立ちと射程について説明できる。 2. 死生学の代表的なテーマについて現状と課題を説明できる。 3. 自分なりの死生観を自覚し他者の死生観を尊重できる。					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド*	担当教員
	1	死生学とは	死生学の成り立ちと種類及び主要なテーマについて概説する。	○	○	山崎浩司
	2	死別・悲嘆とその支援	死別・悲嘆の捉え方の変遷を確認し、その支援について考察する。	○	○	山崎浩司
	3	デスカフェ	死について語り合う社会的ムーブメントであるデスカフェについて解説する。	○	○	山崎浩司
	4	在宅看取り	医療社会学者(ゲストスピーカー)が、イタリアにおける在宅看取りについて、自身の調査研究をもとに解説する。	○	○	山崎浩司
	5	デスエデュケーション	医療マンガを題材に「良い死(good death)」について考察する医学教育の実践を紹介する。	○	○	山崎浩司
	6	緩和医療	緩和ケア医(ゲストスピーカー)が、個々の患者の語りに照準した緩和医療の実践・研究について解説する。	○	○	山崎浩司
	7	生殖医療と生命	死生心理学者(ゲストスピーカー)が、生命の選択や操作の倫理問題について解説する。	○	○	山崎浩司
	8	宗教と地域と生死の支え合い	臨床宗教師(ゲストスピーカー)が、地域で生と死を支え合う活動について解説する。	○	○	山崎浩司
評価方法	期末レポート(100%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 回中 6 回以上)を条件とする。					
テキスト	石丸昌彦・山崎浩司編(2018)『死生学のフィールド』放送大学教育振興会					
参考書	臨床死生学テキスト編集委員会編(2014)『テキスト臨床死生学』勁草書房 清水哲郎・島藺進編(2010)『ケア従事者のための死生学』ヌーヴェルヒロカワ					
授業時間外に行う学修内容	授業で講師が指定したテキストの該当部分や関連する参考書などを読み、授業内容を復習して理解を深める。					
備考	ゲストスピーカーの都合により、授業展開の順番が変更になる可能性があることを了解されたい。					

科目名	高齢者運動・リハビリテーション論		学期	前期前半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	金曜 3 限		
単位数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	藤本修平		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	藤本修平					
科目概要	高齢者の疾病・介護予防、機能回復を目指したリハビリテーションについて、臨床・地域・ヘルスケア業界・ヘルステック領域（ヘルス+テクノロジー）などの切り口から、どのような視点を大事にして各主体が展開しているか、また介護予防・健康増進施策に至る重要な手続きなどについて講義を行う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護予防および機能回復を目指したリハビリテーション及び Shared decision making について、様々な切り口から説明できる。 2. リハビリテーションに関連するヘルスケア業界の取り組みを理解し、身近な課題について自らアイデアを立案することができる。 3. 介護予防・健康増進に関する様々な手法がどのような手続きによって実証されているか説明できる。 					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	リハビリテーションと社会参加	広義・狭義のリハビリテーション概念及び社会参加におけるリハビリテーションの役割について解説する。	○	○	藤本修平
	2	リハビリテーション総論とヘルスコミュニケーション①	エビデンスに基づいた脳卒中リハビリテーション・整形疾患リハビリテーションの具体的な内容(ガイドラインの活用を含む)と介護予防との関係、およびリハビリテーションに必須のヘルスコミュニケーションの活用方法を解説する。	○	○	藤本修平
	3	リハビリテーション総論とヘルスコミュニケーション②	ヘルスコミュニケーションの中でも、Shared decision making に焦点を当て、患者との対話の重要性について解説する	○	○	藤本修平
	4	介護予防・機能回復に向けた脳科学リハビリテーション	介護予防・リハビリテーション領域で最も重要視されている脳科学アプローチに注目し、具体的なリハビリテーション手法や施策を解説する。	○	○	藤本修平
	5	介護予防分野におけるリハビリテーションの保険外サービス	昨今、市場が大きくなっている保険外のリハビリサービスについて、介護予防や機能回復を主眼において、その特徴と役割について解説する。	○	○	藤本修平
	6	ヘルステック領域におけるリハビリテーション施策	リハビリテーションに関わるヘルステック領域のリハビリテーション施策について、介護予防・健康増進に繋がるアプリ開発に至る研究知見の活用及びその効果を中心に解説する。	○	○	藤本修平
	7	介護予防・健康増進における地域リハビリテーション	介護予防・地域リハビリテーションの研究者をゲストスピーカーとして迎え、介護予防・健康増進のために地域で行われている介入・イベントやその実証実験などを解説する。	○	○	藤本修平
	8	介護予防・社会参加を目的としたヘルスケア情報プラットフォーム	介護予防やリハビリテーション領域に関するヘルスケア関連の情報プラットフォームを取り上げ、その意義を解説する。	×	×	藤本修平
評価方法	講義における議論の参加度(40%)、レポート(60%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料を配布					
参考書	なし					
授業時間外に行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	8 回目は双方向性の演習形式となるため、オンライン・オンデマンドは基本的に不可。					

科目名	健康政策・医療経済学概論		学 期	前期後半		
履修区分	必修科目		曜日・時限	金曜 5 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	栗山長門		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	栗山長門、高山智子、後藤 励					
科目概要	<p>公的医療保険制度など健康に関するわが国の制度や政策を概観しつつ、今後、持続可能な制度として確立するための具体的な政策展開について、ミクロ経済学等の知識も活用して講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全 8 回)</p> <p>(栗山長門／3 回)健康政策、地域医療、疾病対策、高齢者医療、喫煙に対する健康政策などについて講義を行う。</p> <p>(後藤 励／3 回)健康政策に対する医療経済学的な視点について講義を行う。</p> <p>(高山智子／2 回 健康政策・医療政策の基礎、評価分析方法などについて講義を行う。</p>					
到達目標	<p>1. 我が国の健康政策について概略を理解する。</p> <p>2. 健康政策の運用方法とその成果や課題を理解する。</p> <p>3. 医療経済学の基礎を修得し、我が国における課題を理解する。</p>					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	健康政策・医療経済学 (1)	概論イントロダクションとして、講義・到達目標について学ぶ。	○	○	栗山長門
	2	健康政策の経済学的分析(1)	医療経済学の基本的な考え方と分析対象について学ぶ。加えて、医療費について、国民医療費の現状と国際的な医療費指標である OECD の総保健医療支出 (THE) の考え方について学ぶ。	○	○	後藤 励
	3	健康政策の経済学的分析(2)	保険の基礎、公的医療保険の必要性に関する経済学的な理論を学び、日本の公的医療保険の課題を考察する。	○	○	後藤 励
	4	健康政策の経済学的分析(3)	医療需要の経済学的分析として、医療需要の価格弾力性やその推定方法などの基礎的な概念について学ぶ。	○	○	後藤 励
	5	健康政策・医療経済学 (4)	ゲストスピーカーを招聘し、健康に関する基本的な知識と喫煙に対する健康政策の特徴、健康行動学やその理論などを学ぶ。	○	○	栗山長門
	6	健康政策・医療経済学 (2)	健康政策・医療政策について基礎的な知識を学ぶ。	○	○	高山智子
	7	健康政策・医療経済学 (3)	高齢者と介護保険・老年疾患として、喫煙の課題である高齢者対策と介護保険・老年疾患の基礎的な特徴を学ぶ。	○	○	栗山長門
8	健康政策・医療経済学 (4)	我が国の健康政策・疾病対策の評価分析の一つとして、利用者の視点からの評価分析方法について学ぶ。	○	○	高山智子	
評価方法	小レポート(50%)、最終レポート(50%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	配布資料を都度用意し、適宜パワーポイントスライドを用いる。					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 『健康経済学 ～市場と規制のあいだで～』。後藤励、井深陽子著。(2020)。有斐閣。 医療経済学 15 講 (ライブラリ経済学 15 講 APPLIED 編)。細谷 圭、増原 宏明、林行成著。新世社。 医療経済学の基礎理論と論点 講座 医療経済・政策学。西村周三、田中滋、遠藤久夫著。勁草書房。 公衆衛生がみえる 2022-2023。医療情報科学研究所 (編) メディックメディア。 国民衛生の動向 2022/2023。厚生労働統計協会 (編集)。一般財団法人 厚生労働統計協会。 日本の医療 増補改訂版: 制度と政策。島崎 謙治著。東京大学出版会。 健康行動学 その理論、研究、実践の最新動向。木原雅子、加治正行、木原正博。メディカルサイエンスインターナショナル。 					
授業時間外に 行う学修内容	<p>予習: 配布した講義資料を熟読すること。</p> <p>復習: 講義内容に関連した参考書なども読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
備考	「健康政策・医療経済学特論」の履修にあたっては、本科目の単位修得を必須とする。					

科目名	健康政策・医療経済学特論		学期	前期前半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜4限		
単位数	1単位(90分×8コマ)		使用教室	講義室3		
配当年次 (履修推奨年次)	2年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	健康政策・医療経済学概論		
科目責任者	高山智子		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	高山智子、栗山長門、吉岡貴史					
科目概要	健康政策・医療経済学概論で学んだ内容を基に、社会保障制度の将来予測を行いつつ、健康政策上重要な各テーマ別に、具体的な政策提言のあり方について講義する。 (オムニバス方式/全8回) (高山智子/3回)健康政策の分析や応用について講義を行う。 (栗山長門/2回)健康政策における予防医学、医療提供体制の実際や考え方について講義を行う。 (吉岡貴史/3回)医療経済評価(費用効果分析など)に関する医療政策の経済学的な分析について講義を行う。					
到達目標	1. 我が国の健康政策について代表的な疾患を取り上げ理解する。 2. 健康政策の運用方法とその成果や各課題を理解する。 3. 医療経済学のあり方を修得し、我が国における応用やその課題を理解する。					
授業展開	回	テーマ	内容	オンライン	オンデマンド	担当教員
	1	健康政策・医療経済学	特論イントロダクションとして、講義・到達目標について学ぶ。	○	○	高山智子
	2	科学的エビデンスと政策への反映	ゲストスピーカーを招いて、科学的エビデンスから政策提言や政策反映までのプロセスの実際や困難点について学ぶ。	○	○	高山智子
	3	健康政策・市民参画	健康政策における市民参画と政策提言の実際について学ぶ。	○	○	高山智子
	4	生活習慣病	生活習慣病などの予防対策について、生活習慣病予防の基礎的な知識を習得する。	○	○	栗山長門
	5	長寿政策・介護政策	長寿や介護政策として、高齢社会対策、介護保険、地域医療に関する政策について学ぶ。	○	○	栗山長門
	6	医療経済評価 1	医療技術やマクロの医療政策について、経済的な評価方法を学ぶ。	○	○	吉岡貴史
	7	医療経済評価 2	医療技術の経済評価について、費用とアウトカムの評価方法を学ぶ。	○	○	吉岡貴史
8	医療経済評価 3	医療技術の経済評価について、不確実性の評価方法や臨床実態のモデル化の方法などを学ぶ。	○	○	吉岡貴史	
評価方法	小レポート(40%)、最終レポート(60%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。					
テキスト	配布するハンドアウトなどを都度用意し、適宜パワーポイントスライドを用いる。					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 『健康経済学 ～市場と規制のあいだで～』。後藤 励、井深陽子著。(2020)。有斐閣。 医療経済学 15 講(ライブラリ経済学 15 講 APPLIED 編)。細谷 圭、増原 宏明、林行成著。新世社。 シンプル衛生公衆衛生学。鈴木庄亮、辻 一郎、小山 洋(編)。南江堂。 公衆衛生がみえる 2024-2025。医療情報科学研究所(編)メディックメディア。 国民衛生の動向 2025/2026。厚生労働統計協会(編集)。一般財団法人 厚生労働統計協会 医療経済学・地域医療学。齋藤 信也、浜田 淳著。岡山大学出版会。 「薬剤経済」わかりません!!。五十嵐 中、佐條 麻里著。東京図書 					
授業時間外に行う学修内容	予習: 配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した参考書なども読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考						

科目名	社会健康医学倫理概論		学 期	前期後半		
履修区分	必修科目		曜日・時限	土曜 4 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	八田太一		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	八田太一、藤田みさお、山崎浩司					
科目概要	社会健康医学領域の研究は、医療、福祉、教育、政策などに関する課題や問題意識を取り上げ、研究テーマを設定している。一つの研究を計画し、実施し、その成果を公表し社会に還元するまでに、研究者は様々な倫理的な判断や態度が求められる。社会健康医学倫理概論では、そのような判断や態度の基礎となる倫理・哲学的な考え方を身につけるために、医療倫理、公衆衛生倫理、研究倫理のトピックスや事例を提示する。そして、各学生が自分の体験例に倫理的な考え方をを用いて倫理的葛藤を洞察する場をつくる(7、8 回目の授業で、学生は数分の個別発表をおこなう)。					
到達目標	1. 研究活動や対人支援の現場で生じる倫理的な課題の性質を理解し、葛藤として認識する。 2. 倫理的な葛藤を可視化するのに適切な倫理・哲学的な考え方を参照する。 3. 倫理原則や倫理指針などを用いて、その問題を説明する。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	社会健康医学の倫理	医療倫理、公衆衛生倫理、研究倫理の歴史と射程を俯瞰し、倫理的課題の性質を理解する。また、本学で研究計画を申請する際の手続きを概説する。	○	○	八田太一
	2	医療倫理の基礎	倫理学の基礎、倫理理論の専門家をゲストスピーカーとして招聘、倫理・哲学的な考え方を学ぶ。	○	○	八田太一
	3	公衆衛生倫理	公衆衛生倫理のゲストスピーカーを招聘し、その歴史から近年の課題まで、その概要を学ぶ。	○	○	八田太一
	4	医療倫理の四原則	四原則を概説し、臨床事例や研究事例とあわせて使い方を学ぶ。	○	○	八田太一、 藤田みさお
	5	安楽死・尊厳死の倫理	安楽死・尊厳死の概念や用語を整理し、これらの法制度の概要を示し、死のありかたを考える機会とする。	○	○	山崎浩司
	6	研究倫理	研究倫理の歴史から国内の研究規制まで、研究倫理の概要を学ぶ。	○	○	八田太一
	7	個別発表	各学生が自分の体験例を提示し、本講義取り上げた倫理的な考え方をを用いて倫理的葛藤を洞察する。	○	×	八田太一
	8	個別発表	各学生が自分の体験例を提示し、本講義取り上げた倫理的な考え方をを用いて倫理的葛藤を洞察する。	○	×	八田太一
評価方法	授業後の課題(40%)、授業中の議論(20%)、個別発表(40%) <成績評価の前提条件> 必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	講義内容に応じた資料を配布					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 赤林朗(編著)『入門・医療倫理 1』勁草書房 井上悠輔/一家綱邦(編著)『医学研究・臨床試験の倫理 わが国の事例に学ぶ』日本評論社 					
授業時間外に行う学修内容	<ul style="list-style-type: none"> あらかじめ配布した講義資料に目を通すこと。 この科目は必修科目(全出席が履修条件)であるため、オンデマンド受講者の出席確認を兼ねて、各回とも課題を出す。 					
備考	<ul style="list-style-type: none"> 7、8 回はオンデマンド不可。 「社会健康医学倫理特論」の履修にあたっては、本科目の単位修得を必須とする。 					

科目名	社会健康医学倫理特論		学期	前期後半		
履修区分	選択科目(遺伝カウンセラー養成コース必修科目)		曜日・時限	土曜2限		
単位数	1単位(90分×8コマ)		使用教室	講義室1		
配当年次 (履修推奨年次)	2年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	社会健康医学倫理概論		
科目責任者	八田太一		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	八田太一、藤田みさお、山崎浩司、臼井健					
科目概要	社会健康医学領域の研究は、医療、福祉、教育、政策などに関する課題や問題意識を取り上げ、研究テーマを設定している。一つの研究を計画し、実施し、その成果を公表し社会に還元するまでに、研究者は様々な倫理的な判断や態度が求められる。社会健康医学倫理特論では、倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical Legal Social Issues)に関する具体的な研究トピックスを取り上げ、その問題の構造を俯瞰し議論するための場をつくる。各回、60～70分の話題提供、20～30分の議論を目安とする。また、遺伝カウンセリングに関わるトピックスや倫理的課題についても取り上げる。					
到達目標	1. ELSIが調査の対象になることを理解する。 2. 各トピックスの背景と研究の制約を洞察する。 3. ELSIを解決または同定するうえで研究が果たす役割を認識する。					
授業展開	回	テーマ	内容	オンライン	オンデマンド	担当教員
	1	出版倫理	大学学術支援や国際誌査読の経験者を招聘し、学術的出版に関わる倫理的課題の概要を学び、公正な情報発信のあり方についても議論する。	○	○	八田太一
	2	遺伝医療の倫理	遺伝医療学の専門家を招聘し、遺伝医療に関わる倫理的課題の概要を学び、遺伝カウンセリングに必要な知識を身につける。	○	○	臼井健
	3	再生医療の倫理	再生医療の実態と課題を概説し、再生医療に関する ELSI を研究対象として扱う際に留意すべき点を議論する。	○	○	八田太一
	4	iPS細胞研究の倫理	動物性集合胚研究、人工配偶子研究、ゲノム編集技術などに対する意識調査を紹介し、ELSIを扱う調査研究について議論する。	○	○	八田太一 藤田みさお
	5	健康格差	健康格差というグローバルな社会現象の概要を示し、その複雑な現象を構造化する上で社会疫学研究の実践的取り組みを紹介し、社会的・倫理的課題を議論する。	○	○	山崎浩司
	6	医療広告	科学性を装い患者の受診を煽る医療 Web サイトや医療広告規制を概説し、その問題の所在について議論する。	○	○	八田太一
	7	治療との誤解	医学研究を治療と誤解する患者の心理について研究を紹介し、ELSIを可視化する調査研究の役割を議論する。	○	○	八田太一 藤田みさお
8	研究公正	臨床心理士を招聘し、研究不正にかかる事例を通して意思決定プロセス追体験し、研究者にとって公正な振る舞いを議論する。	○	○	八田太一	
評価方法	授業への出席(40%)、授業中の議論への参加(60%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3以上の出席(全8コマ中6コマ以上)を条件とする。 遺伝カウンセラー養成コースの学生は、必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	各授業で扱う研究論文を題材とする。					
参考書	なし					
授業時間外に行う学修内容	オンデマンド受講者には出席確認のため、ショートレポートを課す場合がある。					
備考						

科目名	医療・ケア組織論		学 期	後期前半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜 3 限		
単 位 数	1 単位 (90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	佐々木八十子		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	高齢者ケア概論、行動医科学		
担当教員	佐々木八十子					
科目概要	医療や介護等の現場において、疾病予防対策や健康増進施策を継続的かつ効果的に展開するための組織のあり方等について講義を行う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療や介護等の現場における組織文化の概念を理解する。 2. 組織の特性を把握するための組織分析の手法を理解する。 3. 組織プロフィールから、疾病予防対策や健康増進施策を展開する際の促進要因や阻害要因を理解し、課題に取り組むために求められる変化と適応について検証できる。 4. 健康職場、HPH、SDGs、コ・プロダクションの概要を理解する。 5. 実践の際に重要となるチームングとリーダーシップについて理解する。 					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	医療・ケア組織論とは	イントロダクション 健康増進施策・疾病予防対策・医療・ケアを支援ととらえ、支援と組織の関係について概説する。	○	○	佐々木八十子
	2	組織論の歴史と国内外の組織研究	組織論の歴史並びに国内外の医療・ケアにおける組織研究について解説する。	○	○	佐々木八十子
	3	方法論と事例	組織文化の概念フレームワークと診断ツールにもとづいた、組織プロフィールの実例から見える医療・ケア組織の課題と質改善の取り組みについて解説する。	○	○	佐々木八十子
	4	チームングとリーダーシップ	効果的なチームワークの構築におけるリーダーシップの重要性と役割について講義する。	○	○	佐々木八十子
	5	健康職場 HPH コ・プロダクション SDGs	ゲストスピーカーを招聘し、健康職場とは何か、提唱された背景と考え方、進め方について、特に産業医・産業保健スタッフ活動の視点から概説する。また、健康増進活動拠点病院 (HPH) とは何か、その歴史的背景について、特に健康の社会的決定要因 (SDH) との関係や英国で発展してきたコ・プロダクションについて講義する。さらに、持続可能な開発目標 (SDGs) とは何か、その背景、わが国の現状、医療・ケア組織との関わりの可能性について講義する。	○	○	佐々木八十子
	6	組織変革	ゲストスピーカーを招聘し、医療ケア組織が効果的に展開するために組織に求められる変化と適応について検討する。	○	○	佐々木八十子
	7	行政組織	ゲストスピーカーを招聘し、地域において様々なステークホルダーと連携しながら健康福祉行政を所管する組織としての特性 (人的資源と予算のあり方、本庁・出向先機関の役割分担) と、本学設立の背景と今後の発展について検討する。	○	○	佐々木八十子
8	発表会	グループ発表・講評 (Q&A)	○	○	佐々木八十子	
評価方法	グループワーク・資料作成・発表 (70%)、授業やディスカッションの参加度 (30%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席 (全 8 コマ中 6 コマ以上) を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ■ 組織文化を変える, キム S・キャメロン著, ロバート E・クイン著 (ファーストプレス) ■ 人を助けるとはということか, エドガー・H・シャイン, 英治出版 ■ SDGsの基礎, 沖大幹ほか, 事業構想大学院大学出版部 ■ 日本 HPH ネットワーク・ウェブの「研究・試料」 ■ チームが機能するとはということか, エイミー・C・エドモンドソン, 英治出版 					
授業時間外に行う学修内容	<p>予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。</p> <p>復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
備考						

科目名	高齢者ケア概論		学 期	後期前半		
履修区分	必修科目		曜日・時限	土曜 3 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	森 寛子		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	森 寛子					
科目概要	超高齢化社会を高齢者のみに焦点化した狭い視野ではなく、社会全体を鳥瞰する視座から再考する。個人差が大きく慢性疾患併存が特徴の高齢者の健康を理解し、長寿をとりまく現状や課題などを講義し、ケアの提供システムだけではない超高齢化社会の在り方を議論し理解を深める。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会健康医学における高齢者の介護予防と介護支援の取り組みを学ぶ。さらに、家族介護者の向き合う問題などについて講義とディスカッションで理解を深める。 2. 高齢者ケア＝介護ではない、社会全体としての世代問題であることを理解し、エビデンスに基づいた議論を展開できる。 3. 介護による地域社会と個人への影響を、幅広い視点から理解をする。 					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	高齢化の日本の課題	超高齢化社会の日本の課題について講義を行い、高齢者に関する研究の基本的視座を学ぶ。	○	○	森 寛子
	2	介護制度	公的介護保険制度の国際比較とともに、日本の介護保険制度を理解する。	○	○	森 寛子
	3	高齢者の医療費と介護費	高齢者の社会保障制度は、医療費と介護費の総合的な把握が重要であることを、レセプトデータを提示して理解を促す。	○	○	森 寛子
	4	家庭内介護の担い手	社会学のゲストスピーカーを招聘し、老々介護のみならず、10 代青年層や男性介護者など多様な家族介護者の存在に気づき、介護離職などの課題を認識する。	○	○	森 寛子
	5	社会的孤立	孤独と孤立、孤高は異なることを考え、人との交流の欠如による健康被害を学ぶ。誰かとつながっていることは、体にも、心にも、脳にも重要なことを理解する。	○	○	森 寛子
	6	認知症者へのコミュニケーション	個人の意思を尊重することから認知症者とのコミュニケーションについて理解し、認知症患者を追い詰めてしまうようなケアのあり方と患者の意思表示をゲルトスピーカーを招き、理解を深める。	○	○	森 寛子
	7	高齢者コホート・介護予防	高齢者コホートの独自性と設計についてグループディスカッションを行う。介護予防の重要性を理解し社会の仕組みについて理解を深める。	○	○	森 寛子
	8	レジリエンス	「極度の不利な状況に直面しても、正常な平衡状態を維持できる」レジリエンス(Bonanno,G)研究を概説した後、高齢者におけるレジリエンスについて再考する。	○	○	森 寛子
評価方法	レポート(70%)、グループディスカッション(20%)、リアクションペーパー(10%) <成績評価の前提条件> 必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	ハンドアウト					
参考書	授業展開の必要に応じてその都度提示する。					
授業時間外に行う学修内容	授業前後に提示した課題に簡単なレポートを提出する。					
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「高齢者ケア特論」の履修にあたっては、本科目の単位修得を必須とする。 ・ 「医療・ケア組織論」の履修にあたっては、本科目の単位修得が望ましい。 					

科目名	高齢者ケア特論		学 期	前期後半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜 4 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 3		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	高齢者ケア概論		
科目責任者	森 寛子		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	森 寛子					
科目概要	<p>高齢者ケア概論で学んだ内容を基に、要介護高齢者の特異性に注目した介護の現状課題の把握、検討、災害時や性同一性障害者へのケアについて講義する。</p> <p>(森 寛子/8 回)高齢者介護の多様な状況の課題に関する講義を行う。</p>					
到達目標	<p>1. 原因疾患や個人特性による介護の課題の違いや高齢者の健康状態の多様性を理解する。</p> <p>2. 経口摂取、患者との意思疎通など日常的な課題から、罹患率の高い認知症の諸問題、看取りなど様々な状況での介護の課題を理解する。</p>					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	高齢者の健康問題	高齢者集団の健康について再考する。健康負担を示す量的指標やアドバンスド・ケア・プランニングへの理解を深める。	○	○	森 寛子
	2	認知症支援と地域生活	ゲストスピーカーを迎え、認知症の人と家族等の地域生活を続ける上での課題及びその解決方法について具体的事例をもとに考え、実践するための方法を検討する。	○	○	森 寛子
	3	終末期を踏まえた、認知症のみかた、考え方	認知症終末期の臨床経験の多いゲストスピーカーに、認知症の予後評価、家族との適切な ACP の実施、本人・家族の QOL 向上のための考え方を概説する。	○	○	森 寛子
	4	ジェンダーとケア、そして人権	性的少数者へのケア提供の問題を認識し、その課題を理解する。そしてケアを受ける者の人権についても再考する。	○	○	森 寛子
	5	多職種連携の地域ケアシステム	医療依存度の高い在宅介護について、難病専門の訪問看護師で研究者であるゲストスピーカーを招いて理解を深める。	○	○	森 寛子
	6	身体拘束の現状と研究の動向	急性期病院の認知症患者は、易転倒性、せん妄の発症などの安全管理上から身体拘束を受けることがあるが、尊厳の侵害や医療職の倫理的ジレンマがある。ゲストスピーカーを招き、国内外の現状と研究に関して紹介しながら、急性期病院における高齢者ケアの課題を理解する	○	○	森 寛子
	7	口から食べるという支援	介護施設や在宅での摂食嚥下リハビリテーションの取り組みを理解し、食べることの文化的影響と介護者への心理社会的影響について認識を深める。	○	○	森 寛子
	8	まとめ	これまでの講義内容を総括し、高齢者介護の課題について、研究課題を想定して個別発表を行う。	○	×	森 寛子
評価方法	<p>個別発表(80%)、講義内の議論への参加度(20%) <成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。</p>					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	授業展開の必要に応じてその都度提示する。					
授業時間外に行う学修内容	復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
	第 8 回はオンデマンド不可。					

科目名	ヘルスケア・アントレプレナーシップ論		学 期	後期前半		
履修区分	選択科目		曜日・時限	金曜 3 限		
単 位 数	1 単位 (90 分 × 8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	藤本修平		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	高齢者・リハビリテーション論		
担当教員	藤本修平					
科目概要	国内のヘルスケアビジネス市場を概観しながら、研究のための研究に陥らないよう、社会シーズや研究シーズの実装(医療、データ活用、情報発信、医療機器開発、介護事業など)に必要な考え方・実務および公衆衛生人材に求められるスキル、産官学連携の切り口について、さまざまな企業のケーススタディを通して講義・演習を行う。					
到達目標	1. ヘルスケアビジネスにおいて必要な公衆衛生スキルについて、様々な切り口から説明できる。 2. 研究(研究シーズ)を社会実装する場合の手法および社会ニーズを捉える方法について、概観を説明できる。 3. 産官学連携の実践における産業側の考え方および医療・介護 DX の社会実装について事例・ビジネスモデルを説明できる。					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	ヘルスケアビジネス概論①	公衆衛生人材が活躍しているヘルスケアビジネスについて紹介しながら、研究シーズを産業化する上で必要な視点について解説する。	○	○	藤本修平
	2	ヘルスケアビジネス概論②	公衆衛生人材が活躍しているヘルスケアビジネスについて紹介しながら、研究シーズをビジネスフレームワークに落とし込む方法について解説する。	○	○	藤本修平
	3	ヘルスケア AI の潮流	ヘルスケアにおける AI 活用について、公衆衛生人材に求められることや DX の導入においてどのようなプロセスを経る必要があるか、演習を交えながら解説する。	○	○	藤本修平
	4	マーケティングリサーチ①	ヘルスケアビジネスと公衆衛生人材の接点の 1 つであるマーケティングリサーチについて基礎的な知識を解説し、フレームワーク及びロジックモデルの基礎を解説する。	○	○	藤本修平
	5	マーケティングリサーチ②	マーケティングリサーチ①で学習したロジックモデルの基礎を元に、自身の研究についてロジックモデルを作成し、発表およびディスカッションを行う。	○	×	藤本修平
	6	産学連携と知的財産マネジメント	研究シーズを産業化する上で重要となる産学連携について、社会実装に至るまでのプロセスと知的財産マネジメントについて解説する。	○	○	藤本修平
	7	ファイナンス概論	研究シーズを産業化する上で重要なステークホルダーとなるベンチャーキャピタルやエンジェル投資家の機能について紹介し、資金調達で重要な視点を解説する。	○	○	藤本修平
8	社会実装に至る新規事業開発	新規事業開発を通して社会実装に至った企業からゲストスピーカーを招聘し、社会実装の失敗事例や成功事例について解説する。 ※備考参照	×	×	藤本修平	
評価方法	講義における議論の参加度(50%)、発表(30%)、最終レポート(20%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料を配布					
参考書	医療 4.0 実践編、デジタルヘルストレンド 2023					
授業時間外に行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した企業の公開情報を読み、理解を深めること。					
備考	<ul style="list-style-type: none"> 第 8 回目は、起業家のゲストスピーカーを 2 名程度お呼びし、ヘルスケアビジネスの潮流や社会実装について解説予定である。 2024 年度のゲストの所属/元所属企業は、東証プライム企業(メドレー、エアウォーター)、上場企業への M&A(3suuny)、大手スタートアップ企業(HOKUTO、Neith)でした。 旧「ヘルスケアビジネス論」(~2025 年度)は、2026 年度より「ヘルスケア・アントレプレナーシップ論」に名称変更 					

科目名	医科遺伝学概論		学 期	前期前半		
履修区分	必修科目		曜日・時限	金曜 4 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	田原康玄		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	田原康玄、臼井 健、木下和生、寺尾知可史					
科目概要	<p>医科遺伝学に関する基本的な知識を修得することを目的に、遺伝子の構造と機能、細胞遺伝と染色体異常、メンデル遺伝と非メンデル遺伝、腫瘍遺伝、集団遺伝について系統的に講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全 8 回)</p> <p>(臼井 健/2 回)医科遺伝学の基礎、単一遺伝子疾患について解説する。</p> <p>(木下和生/2 回)医科遺伝学の基礎、がんゲノムについて解説する。</p> <p>(寺尾知可史/2 回)遺伝子変異・多型、染色体異常と臨床形質について解説する。</p> <p>(田原康玄/2 回)多因子疾患のゲノム解析、集団遺伝について解説する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒト遺伝学の基礎について、集団遺伝も含めて理解する。 2. メンデル遺伝と非メンデル遺伝について理解する。 3. 腫瘍遺伝について理解する。 					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	ヒトゲノム概論	医学・医療における遺伝学、ヒトゲノムの多様性、ゲノム情報の伝達について解説する。	○	○	臼井 健
	2	単一遺伝子疾患	メンデル遺伝型疾患、ミトコンドリア異常、家系・家族歴について解説する。	○	○	臼井 健
	3	遺伝子の構造と機能	セントラルドグマ、遺伝子の構造と発現、エピジェネティクスについて解説する。	○	○	木下和生
	4	多因子疾患	多因子疾患の遺伝因子と環境因子について解説する。	○	○	田原康玄
	5	集団遺伝	集団における遺伝型の頻度、人種民族差、人類進化について造詣の深い研究者を招聘し、事例に基づいてコホート研究の実際を学ぶ。	○	○	田原康玄
	6	遺伝学的多様性	変異と多型、変異と多型が臨床形質に及ぼす影響について解説する。	○	○	寺尾知可史
	7	遺伝学的多様性	変異と多型、変異と多型が臨床形質に及ぼす影響について解説する。	○	○	寺尾知可史
	8	腫瘍遺伝	がんの遺伝学、がん個別化医療について解説する。	○	○	木下和生
評価方法	講義における議論への参加度(20%)、レポート(80%) <成績評価の前提条件> 必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	トンプソン&トンプソン遺伝医学 第 2 版					
参考書	なし					
授業時間外に行う学修内容	<p>予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。</p> <p>復習: 講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
備考	「医科遺伝学特論」、「遺伝カウンセリング」、「ゲノム医学(疾患と遺伝子)」、「臨床遺伝学」の履修にあたっては、本科目の単位修得を必須とする。					

科目名	臨床遺伝学		学 期	前期後半		
履修区分	選択科目(遺伝カウンセラー養成コース必修科目)		曜日・時限	金曜 2 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	医科遺伝学概論		
科目責任者	末岡 浩		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	末岡 浩、堀内泰江、田中仁啓					
科目概要	細胞生物学、分子遺伝学の理解を更に深めるとともに遺伝性疾患を遺伝形式からその病態特性を包括的に学習する。臨床の場で重要となる代表的な遺伝性疾患を理解し、具体的な課題とその解決手法について考える力を養成する。 (オムニバス方式/全 8 回) (末岡 浩/5 回)臨床の立場から遺伝病の概要、取り組みについて解説する。医科遺伝学概論で学んだ内容を臨床の場で応用できる能力を養う。 (堀内泰江/2 回)多因子遺伝について理解する。 (田中仁啓/1 回)遺伝性循環器疾患の概要および各論について理解する。					
到達目標	1. 細胞遺伝学、分子遺伝学を理解する。 2. 遺伝性疾患について各論を理解する。 3. 代表的な遺伝性疾患についての病態を理解する。					
授業展開	回	テーマ	内容	オンライン	オンデマンド	担当教員
	1	遺伝臨床における遺伝学の意義と取り組み	遺伝医学の基本となる分子生物学の基本原則を理解し、医療における遺伝学の意義と取り組みを学修する。	○	○	末岡 浩
	2	染色体と疾患	染色体について学修し、理解を深める。	○	○	末岡 浩
	3	遺伝性腫瘍	ゲストスピーカーを招聘し、遺伝性腫瘍についてその概要を解説しその全体像を理解する	○	○	堀内 泰江
	4	遺伝性心疾患	遺伝性心疾患の概要を解説しその全体像に理解を深め、学修する	○	○	田中仁啓
	5	ミトコンドリア病	ミトコンドリア遺伝について基礎と疾患を学修し、理解を深める。	○	○	末岡 浩
	6	遺伝性神経筋疾患	遺伝性神経筋疾患について代表的な疾患について各論の理解を深める。	○	○	末岡 浩
	7	多因子遺伝	多因子遺伝についてその概要を理解し、臨床への関わりを学修する。	○	○	堀内泰江
8	臨床遺伝学総括	臨床遺伝学概論の総括とともに社会倫理的側面や新たな医療の取り組みを理解し、自ら考える力を涵養する。	○	○	末岡 浩	
評価方法	議論への参加度(30%)、レポート(70%)、必要に応じて小テストや口頭試問で理解度を確認する。 <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。 遺伝カウンセラー養成コースの学生は、必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	トンプソン&トンプソン 遺伝医学 第 2 版 メディカル・サイエンス・インターナショナル					
参考書	臨床遺伝学総論 診断と治療社 臨床遺伝学成人領域 診断と治療社					
授業時間外に行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考						

科目名	医科遺伝学特論		学 期	後期前半		
履修区分	選択科目(遺伝カウンセラー養成コース必修科目)		曜日・時限	金曜 3 限		
単 位 数	1 単位 (90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	医科遺伝学概論		
科目責任者	木下和生		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	木下和生、臼井 健、田原康玄、寺尾知可史					
科目概要	<p>様々な疾患を実例に、臨床・予防医学・医療における遺伝学の意義について講義する。また、疾患の遺伝的背景について、環境因子との係わり、原因遺伝子を探索・同定するためのアプローチについて講義する。 (オムニバス方式/全 8 回)</p> <p>(田原康玄/2 回)生活習慣病を中心に多因子疾患のゲノム解析について解説する。 (木下和生/2 回)がんのゲノム解析について解説する。 (寺尾知可史/2 回)自己免疫疾患のゲノム解析について解説する。 (臼井 健/2 回)小児内分泌遺伝性疾患のゲノム解析について解説する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床・予防医学・医療における遺伝学の意義を理解する。 2. 主要な疾患の遺伝的背景について理解する。 3. 疾患の原因遺伝子を探索・同定するためのアプローチについて理解する。 					
授業展開	回	テーマ	内容	オンライン	オンデマンド	担当教員
	1	生活習慣病(1)	生活習慣病の発症・増悪と遺伝因子との関連について解説する。	○	○	田原康玄
	2	生活習慣病(2)	生活習慣病の原因遺伝子解析方法について造詣の深い研究者を招聘し、多数例を対象としたゲノム網羅的解析を中心に解説する。	○	○	田原康玄
	3	がん(1)	がんの発症・増悪と遺伝因子との関連について解説する。	○	○	木下和生
	4	がん(2)	がんの原因遺伝子解析方法について、がんゲノム解析・がん遺伝子パネル検査を中心に解説する。	○	○	木下和生
	5	自己免疫疾患(1)	自己免疫疾患の発症・増悪と遺伝因子との関連について解説する。	○	○	寺尾知可史
	6	自己免疫疾患(2)	自己免疫疾患の原因遺伝子解析方法について、臨床症例を対象としたゲノム解析を中心に解説する。	○	○	寺尾知可史
	7	小児遺伝性疾患(1)	小児内分泌遺伝性疾患の発症・増悪と遺伝因子との関連について解説する。	○	○	臼井 健
8	小児遺伝性疾患(2)	小児内分泌遺伝性疾患の原因遺伝子解析方法について、家系解析・未診断疾患イニシアティブを中心に解説する。	○	○	臼井 健	
評価方法	<p>講義における議論への参加度(20%)、レポート(80%)</p> <p><成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。 遺伝カウンセラー養成コースの学生は、必修科目のため、全ての授業回に出席すること。</p>					
テキスト	講義内容に応じた資料を配布					
参考書	なし					
授業時間外に行う学修内容	<p>予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。</p> <p>復習:講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
備考	「遺伝カウンセリング」、「ゲノム医学(疾患と遺伝子)」の履修にあたっては、本科目の単位修得が望ましい。					

科目名	ゲノム医学(疾患と遺伝子)		学 期	前期後半		
履修区分	選択科目(遺伝カウンセラー養成コース必修科目)		曜日・時限	土曜 5 限		
単位数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 3		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	医科遺伝学概論		
科目責任者	森 潔		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	医科遺伝学特論		
担当教員	森 潔、臼井 健					
科目概要	<p>医科遺伝学概論及び医科遺伝学特論で学んだ内容を基に、代表的な遺伝性疾患及び具体的な遺伝診療現場における課題とその解決手法について講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全 8 回)</p> <p>(臼井 健/4 回) 遺伝性腫瘍症候群、骨系統疾患、ファブリー病等に関して解説し、講義を行う。</p> <p>(森 潔/4 回) ミトコンドリア病や多発性嚢胞腎等に関して解説し、講義を行う。</p>					
到達目標	<p>1. 遺伝性疾患について理解する。</p> <p>2. 代表的な遺伝性疾患についての病態を理解する。</p>					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	遺伝性腫瘍	遺伝性腫瘍における遺伝学的側面を解説し、ゲノム医療の現状について理解する。	○	○	臼井 健
	2	骨系統疾患	ゲストスピーカーを招聘して骨系統疾患のゲノム医学的な理解を深める。	○	○	臼井 健
	3	アレイ CGH	ゲストスピーカーを招聘して保険医療となったアレイ CGH の概要と実際について学ぶ。	○	○	臼井 健
	4	先天性疾患	X 連鎖性遺伝病であるファブリー病をモデルに臨床診断、遺伝様式、遺伝子診断、疾患特異的薬物療法について解説する。	○	○	臼井 健
	5	ミトコンドリア病	ミトコンドリア病による糖尿病、難聴、腎疾患、遺伝子診断、薬物療法について解説する。	○	○	森 潔
	6	アルポート症候群	アルポート症候群の臨床診断、遺伝子診断、薬物療法について解説する。	○	○	森 潔
	7	多発性嚢胞腎	常染色体優性多発性嚢胞腎の臨床診断、遺伝子診断、薬物療法について解説する。	○	○	森 潔
8	ゲノム医学の広さ	ゲノム医学・遺伝子異常がどうして進歩したか、小児と成人での違い、がんの関係、死との関連について解説する。	○	○	森 潔	
評価方法	<p>議論への参加度(30%)、レポート(70%)</p> <p><成績評価の前提条件> 選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。</p> <p>遺伝カウンセラー養成コースの学生は、必修科目のため、全ての授業回に出席すること。</p>					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	授業展開の必要に応じてその都度指示					
授業時間外に行う学修内容	<p>予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。</p> <p>復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
備考						

科目名	遺伝カウンセリング		学 期	後期前半		
履修区分	選択科目(遺伝カウンセラー養成コース必修科目)		曜日・時限	金曜 2 限		
単位数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	医科遺伝学概論		
科目責任者	臼井 健		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	医科遺伝学特論(同時期受講可)		
担当教員	堀内泰江、臼井 健					
科目概要	主要な遺伝性疾患の病態や、遺伝的問題の把握、それらの疾患に関わる遺伝カウンセリングの基本的な考え方や留意点について講義を行う。					
到達目標	1. 臨床遺伝学、ゲノム医学の概論を理解する。 2. 遺伝カウンセリングに必要な基礎知識、スキルについて理解し実践できる。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド*	担当教員
	1	遺伝カウンセリング概論	遺伝カウンセリングの概論について解説する。遺伝カウンセリングの基本的なスキル等について学ぶ。	○	×	堀内泰江
	2	遺伝子バリエントの表記	遺伝学的検査で表記されるバリエントの評価法、バリエント評価の意味について学習する。	○	×	臼井 健
	3	遺伝子バリエントの評価	遺伝学的検査で示されたバリエントについてデータベース等で意義付けを演習する。	○	×	臼井 健
	4	出生前診断	ゲストスピーカーを招聘して出生前診断の遺伝カウンセリングについて学ぶ。	○	×	臼井 健
	5	神経筋疾患の遺伝カウンセリング	遺伝性の神経・筋疾患の病態を理解し、実臨床症例に即して遺伝カウンセリングの留意点を学修する。	○	×	臼井 健
	6	難聴の遺伝カウンセリング	先天難聴の特性、症候性難聴、非症候性難聴を理解し、遺伝カウンセリングの留意点を学修する。	○	×	臼井 健
	7	ゲノム医療と遺伝カウンセリング	ゲノム医療の現状と遺伝カウンセリングの役割について学ぶ。	○	×	堀内泰江
	8	遺伝カウンセリング全般のまとめ	これまで触れなかったケースについての解説と講義全体の復習をし、理解度を確認する。	○	×	堀内泰江
評価方法	議論への参加度(30%)、レポート(70%) <成績評価の前提条件>選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。 遺伝カウンセラー養成コースの学生は、必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	授業展開の必要に応じてその都度指示					
授業時間外に行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	オンデマンドでの受講は不可。					

科目名	ゲノム医学演習		学 期	後期後半		
履修区分	遺伝カウンセラー養成コース必修科目		曜日・時限	水曜 4 限、5 限		
単位数	1 単位(90 分×15 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	臼井 健		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	臼井 健、木下和生、堀内泰江、末岡 浩					
科目概要	ゲノム医学(疾患と遺伝子)で学んだ内容を更に深めて演習のスタイルで理解したうえでその応用力を身につける。また各疾患の遺伝医療に関連する心理社会的問題を理解しその対応法についても演習を通して学ぶ。 (オムニバス方式/全 15 回) (末岡浩 6 回/ゲストスピーカー2 回)染色体異常、常染色体遺伝、ミトコンドリア病とともに出生前診断について解説、演習を行う。 (堀内泰江/3 回)遺伝カウンセリングの基本、家系図作成、カウンセリングスキルの演習を行う。 (臼井健 2 回)X 連鎖性遺伝、エピジェネティクスについて解説する。 (木下和生/2 回)がんに関する解説、演習、DNA レベル個体差に関する解説を行う。					
到達目標	遺伝カウンセリングを行うにあたり必要な遺伝学の知識を整理し、症例を念頭においての情報収集、情報整理を演習形式で学び、実践力の基礎を身につける。					
授業展開	回	テーマ	内容	オンライン	オンデマンド	担当教員
	1, 2	染色体異常	染色体異常症例について臨床遺伝、遺伝カウンセリング、臨床心理等の立場より演習を行う。	○	×	末岡 浩
	3, 4	家系図の書き方、遺伝リスクの推定、カウンセリングスキル	家系図の作製法を演習し遺伝リスクの推定演習を行う。顕性、潜性遺伝病について理解を深め、具体例を示して病態の理解を確認しながら、必要な情報収集の手法を実践し、心理社会的側面を含めて、遺伝カウンセリングにおける問題点を整理する。	○	×	堀内泰江
	5, 6	常染色体遺伝性疾患	常染色体遺伝病について理解を深め、具体例を示して病態の理解を確認しながら、必要な情報収集の手法を実践し、心理社会的側面を含めて、遺伝カウンセリングにおける問題点を整理する。	○	×	末岡 浩
	7, 8	X 連鎖性遺伝、エピジェネティクス	X 連鎖性遺伝病について理解を深め、具体例を示して演習する。X 連鎖性遺伝に特異的な心理社会的、倫理的問題についても学修する。エピジェネティック異常症に関しての臨床遺伝的な解説に加えて演習を行う。	○	×	臼井 健
	9,10	ミトコンドリア遺伝、トリプレットリピート病	ミトコンドリア遺伝病について理解を深め、具体例を示して演習する。	○	×	末岡 浩
	11, 12	出生前診断	ゲストスピーカーを招聘し、出生前診断についての理解を深め具体例を示し演習を行う。	○	×	臼井 健
	13, 14	がん、DNA 個体差	がん関連遺伝子、腫瘍の発生機序を学修する。また遺伝性腫瘍症候群に関する臨床遺伝、遺伝カウンセリング演習を行う。	○	×	木下和生
15	全体の総括	ゲノム医学演習で学んだ事項について小テスト等で総括する	○	×	堀内泰江	
評価方法	議論への参加度(30%)、レポート(70%)					
テキスト	遺伝カウンセリングマニュアル 監修 福嶋義光、編集 櫻井晃洋 南江堂 周産期遺伝カウンセリングマニュアル(改定 3 版) 関沢明彦、佐村 修、四元淳子 中外医学社 生殖医療遺伝カウンセリングマニュアル 関沢明彦、佐村 修、中岡義晴 中外医学社					
参考書	授業展開の必要に応じてその都度指示					
授業時間外に行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	遺伝カウンセラー養成コースのみ履修可					

科目名	医科遺伝学演習		学 期	後期		
履修区分	遺伝カウンセラー養成コース必修科目		曜日・時限	火曜 5 限、水曜 1 限		
単 位 数	2 単位 (90 分 × 30 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	堀内泰江		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	臼井 健、堀内泰江					
科目概要	<p>医科遺伝学概論、特論、臨床遺伝学で学んだ知識をもとに遺伝医療の現場で遭遇する事例について現場のカンファレンス、エキスパートパネル等に参加し体験する。そのうえでその内容に対して担当教官より解説を加えることで理解を深める。 (オムニバス方式 / 全 30 回) 各担当者の役割分担は、下記授業展開のとおり</p>					
到達目標	遺伝診療の現場で要求される知識やスキルを体感し、その体感を生かして座学で知識を深め、実践力を身に付ける。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1~ 30	座学で学んだ知識を実習につなげるための準備学修	臨床現場で展開されるケースを体感し、遺伝医療の現場で行われる遺伝カウンセリングの全体像を把握する。実習に向けて現場で実践されているインテイク、医学的情報の収集、整理、プレゼンテーション資料の作成、事前に確認しておくべき問題点の抽出、整理などの実践力を養う。	○	×	臼井 健 堀内泰江
評価方法	各セッション後に理解度の確認のための試問。議論への参加度(30%)、レポート(70%)					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	授業展開の必要に応じてその都度指示					
授業時間外に行う学修内容	<p>予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
備考	遺伝カウンセラー養成コースのみ履修可 オンサイトでの受講を推奨する。					

科目名	遺伝情報学演習		学 期	後期後半		
履修区分	遺伝カウンセラー養成コース必修科目		曜日・時限	金曜 1 限、2 限		
単 位 数	1 単位(90 分×15 コマ)		使用教室	ラーニングコモンズ 2		
配当年次	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	木下和生		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	木下和生、臼井健、堀内泰江					
科目概要	<p>遺伝に関連する情報収集の方法について演習を通して学習する。 (オムニバス方式／全 15 回) (臼井健／3 回)一般的な遺伝医学文献データベースの利用法を解説、演習する。 (木下和生／7 回) 遺伝関連データベース、ClinVar の解析、利用演習を行う。In silico 解析ツールの利用演習を行う。 (堀内泰江／5 回) OMIM の解析、利用演習を行う。GeneReviews の紹介、利用演習を行う。ACMG ガイドラインに基づいた遺伝子バリエーションの病的意義を評価する方法を解説する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> web 上の遺伝関連情報へのアクセス方法を学ぶ。 variant の表記方法、評価方法を学ぶ。 					
授業展開	回	テーマ	内容	オンライン	オンデマンド	担当教員
	1,2	医学文献データベース	pubmed 等の一般的な医学情報データベースの種類を学修し、その活用と検索方法について学ぶ。	×	×	臼井 健
	3,4	遺伝関連データベース	遺伝関連データベースの種類や基本構造、利用法を学ぶ。Variant の表記法も併せて学修する	×	×	木下和生
	5,6	OMIM の利用法	遺伝病のデータベースである OMIM について学び利用できるようになる。	×	×	堀内泰江
	7,8	GeneReviews の利用法	GeneReviews の概要、利用方法を学修する。	×	×	堀内泰江
	9, 10	ClinVar の利用法	ClinVar 等の variant 評価データベースの利用法を学習する。	×	×	木下和生
	11, 12	in silico 解析ツールの利用法	Polyphen-2 等の in silico ツールの活用を学修する。	×	×	木下和生
	13	ACMG ガイドライン	バリエーションの評価方法について学ぶ。	×	×	堀内泰江
	14	その他のデータベース	上記データベースの総合的な活用法について学ぶ。	×	×	木下和生
	15	小テスト	演習の内容を復習する。	×	×	臼井 健
評価方法	議論への参加度、小テストや必要に応じて口頭試問で理解度を確認する。					
テキスト	医療に役立つ遺伝子関連 web 情報検索 中山智祥著 メディカルサイエンスインターナショナル 第2版					
参考書	授業展開の必要に応じてその都度指示					
授業時間外に行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 演習内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	遺伝カウンセラー養成コースのみ履修可					

科目名	遺伝カウンセリング演習		学期	前期・後期前半		
履修区分	遺伝カウンセラー養成コース必修科目		曜日・時限	前期前半:金曜 3~5 限、土曜 3~5 限 前期後半:金曜 3~5 限 後期前半:土曜 3~5 限		
単位数	3 単位(90 分×45 コマ)		使用教室	ラーニングcommons2		
配当年次	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	堀内泰江		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	堀内泰江、臼井健、木下和生					
科目概要	遺伝カウンセリング手法を獲得する。模擬事例に対するロールプレイを行い遺伝カウンセリングの理解を深める。具体的には家族歴の取得法、家系図の作成、家族とのかかわり、心理的配慮、インタビュー・レポート形成と実施、等々について演習を通じて学修する。遺伝カウンセラーとして、クライアント・家族の支援のためのコミュニケーションは勿論のこと、チーム医療のメンバーとして、異なった専門性を持つチームメンバーとのコミュニケーションのあり方についても学ぶ。					
到達目標	<p>心理学的実践技術、基本的コミュニケーションスキルについて学び、多様な模擬事例に対するロールプレイを通じて遺伝カウンセリングの実践能力を養う。またこれまで学んだ遺伝カウンセリングに必要な知識、スキルの再確認、再学習も併せて行う。</p> <p>(学生の学修目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学的実践技術、基本的コミュニケーションスキルを復習し理解を深める 2. 遺伝カウンセラーとして、クライアント・家族の立場にたつてどのように支援していくのかに関して必要と考えられる知識及び態度を身につけ、行動に移せるようにする。 3. 医療チームのメンバーとしてどのような動きをすることが望ましいか必要な知識及び態度を身につける。 					
授業展開	回	テーマ	内容	オンライン	オンデマンド	担当教員
	1	オリエンテーション	本演習全体の概要説明	○	×	堀内泰江
	2~5	心理学的実践技術、基本的コミュニケーションスキル	心理学的実践技術、基本的コミュニケーションスキル、遺伝カウンセリングの理論、技法の復習	○	×	堀内泰江
	6~44	ロールプレイ演習、遺伝学的検査実習	模擬症例を設定してロールプレイ演習。家系図の作成、再発率の評価、血縁者の at risk 者の評価、心理的配慮、カウンセリング技法の再確認。各ロールプレイの場面において遭遇する倫理的な問題等についてはその都度にミニレクチャーや討論形式で理解を深める。 遺伝学的検査に関するDNAの取り扱い、PCR等の分子遺伝学的手技の実習を通して、遺伝学的検査の流れを理解する。	○	×	臼井 健 堀内泰江 木下和生
	45	総括	演習の総括	○	×	臼井 健 堀内泰江
評価方法	議論への参加度(30%)、レポート(70%)					
テキスト	遺伝カウンセリングのためのコミュニケーション論 小杉真司(編集) メディカルドゥ 遺伝カウンセリングロールプレイ 三宅秀彦(著) メディカル・サイエンス・インターナショナル 遺伝カウンセリングガイド 福島明宗、川目 裕、山本佳世乃(監訳) メディカルドゥ					
参考書	遺伝カウンセリングマニュアル(改定第3版) 福嶋義光(監修)、櫻井晃洋(編集) 南江堂					
授業時間外に行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	遺伝カウンセラー養成コースのみ履修可 オンサイトでの受講を推奨する。(遺伝学的検査実習はオンサイトに限る。)					

科目名	遺伝カウンセリング実習 I	学期	通年
履修区分	遺伝カウンセラー養成コース必修科目	曜日・時限	火曜 1～4 限、水曜 1～4 限、木曜 1～4 限。その他実習施設の都合に合わせて実施
単位数	3単位(90 時間)	使用教室	—
配当年次	2 年次	本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—
科目責任者	臼井 健	本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—
担当教員	臼井健、堀内泰江		
科目概要	遺伝カウンセリングで学んだ内容を基に、遺伝カウンセリングの現場に参加し、その現状を体験するとともに、予診の聴取、家系図の作成、電話フォローアップ、症例記録の作成、事前検討における症例提示などについて指導者の指導を受けながら実習を行う。実習を実施する医療機関に関しては静岡県立総合病院、静岡県立こども病院、静岡県立静岡がんセンターの 3 施設で実施する。		
到達目標	クライアントへ適切に接し、予診の聴取、家系図の作成を適切に行うことができる。更に遺伝カウンセリング全般について遺伝カウンセラーとしてクライアントに適切に対応できる総合力を身につける。		
実習計画	<p>遺伝カウンセリング実習施設において実施される遺伝カウンセリング症例について事前の情報収集(インテイク)、家系図の作成、問題点の抽出、心理社会的問題の抽出等の一連の過程をカンファレンスの場に参加して学修する。また遺伝カウンセリングの現場に陪席し遺伝診療科の診療現場を体験する。</p> <p>(1)遺伝カウンセリングの目的、(2)遺伝カウンセリングに至るまでの概略、(3)クライアントの情報、(4)クライアントに提供した情報、(5)問題点、(6)クライアントの理解、(7)遺伝カウンセリングにおいて反省あるいは改善すべき点、(8)その他(転帰など)を症例記録としてまとめ、担当(同席)した教員の指導を受けるとともに、定例の症例検討会(遺伝診療カンファレンス)で発表する。症例は、小児領域、生殖・周産期領域、成人領域、遺伝性腫瘍の基本的な 4 領域について偏りなく必要症例数以上を経験する。</p> <p>実習の後半では臨床遺伝専門医あるいは認定遺伝カウンセラーの指導、立ち合いのもとで事前情報収集(インテイク)、家系図の作成等を行い、カウンセリング前のカンファレンスでプレゼンテーションを行い問題点を提示し討議に参加する。更にこれらにより収集した情報等について適宜学生権限で実習医療機関における疑似電子カルテに入力記載し医療人としての自覚を育む。またこれらの記録はレポートとして提出するものとする。</p>		
評価方法	議論への参加度(30%)、レポート(70%)		
テキスト	遺伝カウンセリングのためのコミュニケーション論 小杉眞司(編集) メディカルドゥ		
参考書	遺伝カウンセリングマニュアル(改定第 3 版) 福嶋義光(監修)、櫻井晃洋(編集) 南江堂 遺伝カウンセリング標準テキスト 認定遺伝カウンセラー制度委員会 診断と治療社 遺伝カウンセリングガイド(日本語版) 福島明宗、川目 裕、山本佳世乃 メディカルドゥ		
授業時間外に行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。		
備考	遺伝カウンセラー養成コースのみ履修可		

科目名	遺伝カウンセリング実習Ⅱ	学期	通年
履修区分	遺伝カウンセラー養成コース必修科目	曜日・時限	火曜1～4限、水曜1～4限、木曜1～4限。その他実習施設の都合に合わせて実施
単位数	3単位(90時間)	使用教室	—
配当年次	2年次	本科目の履修に当たり単位修得必須の科目	—
科目責任者	臼井 健	本科目の履修に当たり単位修得が望ましい科目	—
担当教員	臼井健、堀内泰江		
科目概要	遺伝カウンセリングで学んだ内容を基に、遺伝カウンセリングの現場に参加し、その現状を体験するとともに、予診の聴取、家系図の作成、電話フォローアップ、症例記録の作成、事前検討における症例提示などについて指導者の指導を受けながら実習を行う。実習を実施する医療機関に関しては静岡県立総合病院、静岡県立こども病院、静岡県立静岡がんセンターの3施設で実施する。		
到達目標	クライアントへ適切に接し、予診の聴取、家系図の作成を適切に行うことができる。更に遺伝カウンセリング全般について遺伝カウンセラーとしてクライアントに適切に対応できる総合力を身につける。		
実習計画	<p>遺伝カウンセリング実習施設において実施される遺伝カウンセリング症例について事前の情報収集(インテイク)、家系図の作成、問題点の抽出、心理社会的問題の抽出等の一連の過程をカンファレンスの場に参加して学修する。また遺伝カウンセリングの現場に陪席し遺伝診療科の診療現場を体験する。</p> <p>(1)遺伝カウンセリングの目的、(2)遺伝カウンセリングに至るまでの概略、(3)クライアントの情報、(4)クライアントに提供した情報、(5)問題点、(6)クライアントの理解、(7)遺伝カウンセリングにおいて反省あるいは改善すべき点、(8)その他(転帰など)を症例記録としてまとめ、担当(同席)した教員の指導を受けるとともに、定例の症例検討会(遺伝診療カンファレンス)で発表する。症例は、小児領域、生殖・周産期領域、成人領域、遺伝性腫瘍の基本的な4領域について偏りなく必要症例数以上を経験する。</p> <p>実習の後半では臨床遺伝専門医あるいは認定遺伝カウンセラーの指導、立ち合いのもとで事前情報収集(インテイク)、家系図の作成等を行い、カウンセリング前のカンファレンスでプレゼンテーションを行い問題点を提示し討議に参加する。更にこれらにより収集した情報等について適宜学生権限で実習医療機関における疑似電子カルテに入力記載し医療人としての自覚を育む。またこれらの記録はレポートとして提出するものとする。</p>		
評価方法	議論への参加度(30%)、レポート(70%)		
テキスト	遺伝カウンセリングのためのコミュニケーション論 小杉眞司(編集) メディカルドゥ		
参考書	遺伝カウンセリングマニュアル(改定第3版) 福嶋義光(監修)、櫻井晃洋(編集) 南江堂 遺伝カウンセリング標準テキスト 認定遺伝カウンセラー制度委員会 診断と治療社 遺伝カウンセリングガイド(日本語版) 福島明宗、川目 裕、山本佳世乃 メディカルドゥ		
授業時間外に行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。		
備考	遺伝カウンセラー養成コースのみ履修可		

科目名	聴覚解剖・生理学概論		学 期	前期前半		
履修区分	選択科目(聴覚・言語コース必修科目)		曜日・時限	水曜 6 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	古川茂人		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	古川茂人、高木 明、Fehérvári Tamás Dávid					
科目概要	聴覚末梢から中枢神経系の構造と生理学的特性を概説する。音の情報処理システムという観点から細胞や神経系の生理学反応の意味を考察する。					
到達目標	1. 聴覚系の構造や機能に関する基本的な特性を理解する。 2. 細胞や神経の役割を知覚と関連付けながら体系的にとらえ、のちに聴覚障害や補償技術をその原理から理解する礎とする。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	末梢の解剖学	聴覚末梢(外耳～内耳)の構造について概説する。	○	○	高木 明
	2	内耳(基底膜・有毛細胞)	内耳における周波数分析を担う基底膜(基底板)および、基底膜振動を神経電気活動へと変換する有毛細胞の特性を解説する。	○	○	古川茂人
	3	内耳(聴神経)	音の情報を中枢へと伝達する聴神経の特性について解説する。	○	○	古川茂人
	4	内耳における情報表現	以上で知識を踏まえて、音情報(主にスペクトルと強さ)が内耳でどのように表現されているかを考察する。	○	○	古川茂人
	5	中枢神経経路の概要	聴覚中枢神経経路の解剖や特性について解説する。	○	○	古川茂人
	6	中枢における情報表現	中枢における音情報表現という観点から神経の生理学的反応特性を考察する。	○	○	高木 明
	7	皮質の解剖と機能	聴覚皮質の構造・解剖学的特徴と機能について解説する。	○	○	高木 明 古川茂人
	8	脳イメージングの原理	脳波、MRI、MEG、PET、NIRS など、非侵襲脳機能計測の原理を解説する。	○	○	Fehérvári Tamás Dávid
評価方法	レポート(80%)、単元ごとの小課題(20%) <成績評価の前提条件> 聴覚・言語コースの学生は、必修科目のため、全ての授業回に出席すること。 上記コース以外の学生は、選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	J.O. Pickles (2013) An Introduction to the Physiology of Hearing, Brill Academic Pub. J. Schnupp 他(2012) Auditory Neuroscience, MIT Press					
授業時間外に行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考						

科目名	聴覚解剖・生理学特論		学 期	前期前半		
履修区分	選択科目(聴覚・言語コース必修科目)		曜日・時限	土曜 2 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	古川茂人		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	古川茂人、高木 明、Fehérvári Tamás Dávid					
科目概要	具体的な事例紹介や論文の精読などを通して、聴覚解剖・生理学に関する教科書的な知見の背景・根拠や、特定のトピックに関する深い洞察を紹介する。先人の取り組みから、当時の研究背景や知見の発見に至った過程も含めて理解する。					
到達目標	1.聴覚解剖・生理学分野における重要知識を背景も含めて深く理解する。 2.過去の優れた研究が、研究課題にどのように挑んだのか・何がブレークスルーだったのかを理解し、自らの研究遂行の糧とする。 3.専門的な視点での文献の読み方を身に着ける。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	末梢の解剖学	聴覚末梢(外耳～内耳)の構造に関する原著論文等を紹介し、知識の背景を解説する。	○	△	高木 明
	2	内耳(基底膜・有毛細胞)	基底膜(基底板)および有毛細胞の機能や特性に関する代表的論文等を紹介し、知識の背景を解説する。	○	△	古川茂人
	3	内耳(聴神経)	聴神経の機能や特性を解明した代表的論文等を紹介し、知識の背景を解説する。	○	△	古川茂人
	4	内耳における情報表現	内耳における情報表現を考察した影響力の高い論文等を紹介し、知識の背景を解説する。	○	△	古川茂人
	5	中枢神経経路の概要	聴覚中枢神経経路の解剖や機能に関するレビュー論文やランドマーク的論文等を紹介し、知識の背景を解説する。	○	△	古川茂人
	6	中枢における情報表現	中枢における情報表現を考察した影響力の高い論文等を紹介し、知識の背景を解説する。	○	△	古川茂人
	7	皮質の解剖と機能	聴覚皮質の構造・解剖学的特徴と機能に関するレビュー論文等を紹介し、知識の背景を解説する。	○	△	古川茂人
	8	脳イメージング	脳イメージング技術や特性に関するレビュー論文やランドマーク的論文等を紹介し、知識の背景を解説する。	○	△	Fehérvári Tamás Dávid
評価方法	レポート(60%)、講義内での議論態度(40%) <成績評価の前提条件> 聴覚・言語コースの学生は、必修科目のため、全ての授業回に出席すること。 上記コース以外の学生は、選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	取り組む論文は講義内にて指定					
参考書	なし					
授業時間外に行う学修内容	予習:講義前に指定論文を読み込んでおくこと。 復習:講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	<ul style="list-style-type: none"> 極力オンサイト・オンラインでの出席が望ましい。アクティブな学びを重視するため、講義内では学生に積極的な発言や議論を求める。 オンデマンドでの受講する場合は、追加の課題を課す場合がある。 					

科目名	聴覚心理学概論		学 期	前期後半		
履修区分	選択科目(聴覚言語コース必修科目)		曜日・時限	水曜 6 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	古川茂人		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	古川茂人					
科目概要	聴覚知覚の基礎的な特性を解説する。ヒトの聴覚系を音または音環境を分析するシステムとみなし、主に心理物理学的な立場・手法でその特性を定量的に示すほか、その背後にあるメカニズムを推定する過去の試みを紹介する。					
到達目標	1.聴覚の基本的な特性を理解する。 2.聴覚の知覚への科学的アプローチとはどのようなものかを理解する。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	音響学・生理学の基礎	聴覚の特性を理解するうえで必須となる音響学・生理学を概説する。	○	○	古川茂人
	2	周波数分析	聴覚の周波数分析の基礎となる聴覚フィルタの概念と、その特性を解説する。	○	○	古川茂人
	3	検出閾値・ラウドネス	音の強度に関する感度や主観的な大きさ(ラウドネス)の知覚特性を解説する。	○	○	古川茂人
	4	時間情報処理	音の時間変化に対する感度やその処理メカニズムについて考察する。	○	○	古川茂人
	5	空間・両耳情報処理	音源方向に対する知覚特性および、両耳情報の処理メカニズムについて考察する。	○	○	古川茂人
	6	ピッチ知覚	音の高さ(ピッチ)の知覚メカニズムについて、歴史的な議論も踏まえて考察する。	○	○	古川茂人
	7	知覚体制化	複数の音響的要素の統合や、複数音源の知覚的分離に関する特性を解説する。	○	○	古川茂人
	8	音声知覚	音声の特徴およびそれを知覚するうえでの歴史的な議論を解説する。	○	○	古川茂人
評価方法	レポート(80%)、単元ごとの小課題(20%) <成績評価の前提条件> 聴覚・言語コースの学生は、必修科目のため、全ての授業回に出席すること。 上記コース以外の学生は、選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	B. C. J. Moore (2013) An Introduction to the Psychology of Hearing, 6th ed., Brill Academic Pub. 古川茂人(編) (2021) 音響学講座 5 聴覚, コロナ社					
授業時間外に行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考						

科目名	聴覚心理学特論		学 期	前期前半		
履修区分	選択科目(聴覚言語コース必修科目)		曜日・時限	土曜 3 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	古川茂人		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	古川茂人					
科目概要	具体的な事例紹介や論文の精読などを通して、聴覚心理学に関する教科書的な知見の背景・根拠や、特定のトピックに関する深い洞察を紹介する。先人の取り組みから、当時の研究背景や知見の発見に至った過程も含めて理解する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 聴覚心理学分野における重要知識を深く理解する。 2. 当該分野の優れた研究が、研究課題にどのように挑んだのか・何がブレークスルーだったのかを理解し、自らの研究遂行の糧とする。 3. 専門的な視点での文献の読み方を身に着ける。 					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	検出閾値・強度弁別	聴力検査の基礎となる検出閾値等の計測やモデリングに関する代表的論文等を紹介し、知識の背景を解説する。	○	△	古川茂人
	2	周波数分析	聴覚フィルタの推定に関するランダム化的論文等を紹介し、知識の背景を解説する。	○	△	古川茂人
	3	ラウドネス	ラウドネスの評価やモデリングに関する代表的論文等を紹介し、知識の背景を解説する。	○	△	古川茂人
	4	時間情報処理	時間分解能の推定や、時間情報分析モデルに関する代表的論文等を紹介し、知識の背景を解説する。	○	△	古川茂人
	5	空間・両耳情報処理	音源定位能力の評価や両耳情報処理のモデリングに関する代表的論文等を紹介し、知識の背景を解説する。	○	△	古川茂人
	6	ピッチ知覚	音の高さ(ピッチ)の知覚メカニズムを考察するレビュー論文等を紹介し、知識の背景を解説する。	○	△	古川茂人
	7	知覚体制化	音の知覚的体制化の特性やメカニズムにアプローチするレビュー論文、ランダム化的論等を紹介し、知識の背景を解説する。	○	△	古川茂人
	8	音声知覚	音声知覚の特徴やメカニズムに関するレビュー論文、代表的な論文等を紹介し、知識の背景を解説する。	○	△	古川茂人
評価方法	レポート(60%)、講義内での議論態度(40%) <成績評価の前提条件> 聴覚・言語コースの学生は、必修科目のため、全ての授業回に出席すること。 上記コース以外の学生は、選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	取り組む論文は講義内にて指定					
参考書	なし					
授業時間外に行う学修内容	予習: 講義前に指定論文を読み込んでおくこと。 復習: 講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 極力オンサイト・オンラインでの出席が望ましい。アクティブな学びを重視するため、講義内では学生に積極的な発言や議論を求める。 ・ オンデマンドで受講する場合は、追加の課題を課す場合がある。 					

科目名	認知科学概論		学 期	後期後半		
履修区分	選択科目(聴覚言語コース必修科目)		曜日・時限	土曜 5 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	新屋裕太		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	新屋裕太、古川茂人					
科目概要	人間の「こころ」の諸側面を自然科学的な視点でとらえ、主に神経科学・心理学的な方法論によるアプローチによって得られた特性やメカニズムを概説する。聴覚・言語分野の発展的な理解の礎とする。 テーマに応じて分野に精通したゲストスピーカーを招聘して講義も行う。					
到達目標	1. 認知の特性やメカニズムに関する基礎的な知識を習得する。 2. 「こころ」に対する神経科学・心理学的なアプローチがどのようなものであるかを理解する。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	認知科学概要	認知科学における基本的な考え方、および、関連する神経科学の基礎知識、方法論について概説する。	○	○	新屋裕太
	2	体性感覚・運動	体性感覚・運動制御のメカニズムを概説する。	○	○	古川茂人
	3	注意	「注意」の機能的意義と定義、メカニズム等を概説する。	○	○	古川茂人
	4	学習と記憶	学習・記憶の定義と役割、メカニズム、説明モデルを概説する。	○	○	古川茂人
	5	発達	知覚・運動・学習などの発達過程とメカニズムを解説する。	○	○	新屋裕太
	6	情動	情動の定義、神経メカニズムや説明モデルを概説する。	○	○	新屋裕太
	7	言語	言語の特性、音声・文字言語の産出、認識メカニズムを解説する。	○	○	新屋裕太
	8	執行機能	情報選択、認知制御、意思決定とそのメカニズムを概説する。	○	○	古川茂人
評価方法	レポート(80%)、単元ごとの小課題(20%) <成績評価の前提条件> 聴覚・言語コースの学生は、必修科目のため、全ての授業回に出席すること。 上記コース以外の学生は、選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	村上郁也(2010) イラストレクチャー 認知神経科学, オーム社 箱田裕司ほか(2010) 認知心理学 Cognitive Psychology: Brain, Modeling and Evidence, 有斐閣					
授業時間外に行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	授業テーマの順序や担当教員の割り振りは変更される可能性がある。					

科目名	言語・認知・発達学		学 期	後期後半		
履修区分	選択科目(聴覚言語コース必修科目)		曜日・時限	土曜 1 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	新屋裕太		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	新屋裕太					
科目概要	認知科学と言語習得に関して、特に発達の側面に重きをおいて基本的な知識を解説する。テーマに関連する論文等を選択し、その概要をわかりやすく解説する形をとる。 テーマに応じて分野に精通したゲストスピーカーを招聘してオムニバス形式の講義とする。					
到達目標	1. 言語・認知科学分野における幅広い知見を得る。 2. 認知発達と言語習得の関わり合いを理解する。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	心の理論 (Theory of mind)	心の理論と言語習得の関わりを解説する。	○	○	新屋裕太
	2	コミュニケーションと言 語	コミュニケーションと言語の差に関する知見を解説する。	○	○	新屋裕太
	3	言語の元(自然対養育)	言語習得メカニズムを議論する上での定義について考察する。	○	○	新屋裕太
	4	コミュニケーションと言 語発達	コミュニケーションから言語への習得プロセスを理解する。	○	○	新屋裕太
	5	言語習得と臨界期仮説	発達一般および言語発達における臨界期仮説を解説する。	○	○	新屋裕太
	6	言語と認知の関連性	言語への認知発達や認知低下による関連性についての知見や現在の仮説を解説する。	○	○	新屋裕太
	7	短期と長期記憶	記憶の種類やあり方と言語習得や認知への関連性について解説する。	○	○	新屋裕太
	8	認知発達とメタ認知	認知発達やメタ認知の役割について解説する。	○	○	新屋裕太
評価方法	レポート(80%)、単元ごとの小課題(20%) <成績評価の前提条件> 聴覚・言語コースの学生は、必修科目のため、全ての授業回に出席すること。 上記コース以外の学生は、選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	なし					
授業時間外に 行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した参考書を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	授業テーマの順序は変更される可能性がある。					

科目名	言語・認知・発達学特論		学 期	前期後半		
履修区分	選択科目(聴覚言語コース必修科目)		曜日・時限	土曜 3 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	新屋裕太		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	新屋裕太、古川茂人					
科目概要	<p>具体的な事例紹介や論文の精読などを通して、言語や認知に関する教科書的な知見の背景・根拠や、特定のトピックに関する深い洞察を紹介する。先人の取り組みから、当時の研究背景や知見の発見に至った過程も含めて理解する。発達的な側面にやや重きをおく。</p> <p>テーマに応じて分野に精通したゲストスピーカーを招聘したオムニバス形式の講義とする。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語・認知やその発達における重要知識を背景も含めて深く理解する。 2. 過去の優れた研究が研究課題にどのように挑んだのかを理解し、自らの研究遂行の糧とする。 3. 専門的な視点での文献の読み方を身に着ける。 					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	言語	広い意味での言語の特性や概念に関わるレビュー論文・ランドマーク的文献等を紹介し、知識の背景を解説する。	○	△	新屋裕太
	2	音声言語	音声言語の特性や概念に関わるレビュー論文・ランドマーク的文献等を紹介し、知識の背景を解説する。	○	△	新屋裕太
	3	言語発達	言語機能の発達に関わるレビュー論文・ランドマーク的文献等を紹介し、知識の背景を解説する。	○	△	新屋裕太
	4	音声言語発達	音声言語機能の発達に関わるレビュー論文・ランドマーク的文献等を紹介し、知識の背景を解説する。	○	△	新屋裕太
	5	知覚認知	感覚知覚を主とする認知機能に関するランドマーク的文献等を紹介し、知識の背景を解説する。	○	△	新屋裕太
	6	認知	高次認知機能へのアプローチの端的な例を示す代表的な論文等を紹介し、知識の背景を解説する。	○	△	古川茂人
	7	知覚発達	知覚認知の発達に関わるレビュー論文・ランドマーク的論文等を紹介し、知識の背景を解説する。	○	△	新屋裕太
	8	認知発達	社会性なども含む認知機能の発達に関わるレビュー論文・ランドマーク的論文等を紹介し、知識の背景を解説する。	○	△	新屋裕太
評価方法	<p>レポート(60%)、講義内での議論態度(40%) <成績評価の前提条件> 聴覚・言語コースの学生は、必修科目のため、全ての授業回に出席すること。 上記コース以外の学生は、選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。</p>					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	なし					
授業時間外に 行う学修内容	<p>予習: 講義前に指定論文を読み込んでおくこと。 復習: 講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ アクティブな学びを重視するため、極力オンサイト・オンラインでの出席が望ましい。 ・ 授業テーマの順序や教員の割り当ては変更される可能性がある。 					

科目名	聴覚療育・リハビリテーション論		学 期	前期前半		
履修区分	選択科目(聴覚言語コース必修科目)		曜日・時限	水曜 6 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 3		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	田中智英巳		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	田中智英巳、高木 明					
科目概要	リハビリテーションに関する、オーディオロジー分野での教科書的な知識を身に着けて、発展的な課題に備える。 テーマによってゲストスピーカーによる講義も行う。					
到達目標	1. 言語獲得前と言語獲得後の聴覚障害の(リ)ハビリテーションが異なることを理解する 2. 成人と高齢者のリハビリテーションで考慮する項目について理解する 3. 中等度難聴の学童に対する介入のあり方を理解する					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	概要	聴覚リハビリテーションの歴史、目的、WHO が採択している IFC、モデル、聴覚リハビリテーションで提供するサービスの概要や聴覚障害者への情報保障について学ぶ。	○	○	田中智英巳
	2	心理学的介入の概要	聴覚ケアの専門家が実施可能な心理的介入(ナラティブセラピー、カウンセリング、心理社会的サポート、アサーティブネストレーニング)の概要について学ぶ。	○	○	田中智英巳
	3	成人の聴覚リハビリテーション	成人の聴覚リハビリテーションで考慮する項目と聴覚リハビリテーション計画について学ぶ。	○	○	田中智英巳
	4	高齢者の聴覚リハビリテーション	高齢難聴者の特徴と聴覚リハビリテーションで考慮する項目について学ぶ。	○	○	田中智英巳
	5	乳幼児期の聴覚リハビリテーション	ゲストスピーカーを招聘し、難聴乳幼児の特徴とリハビリテーションプランについて学ぶ。	○	○	高木 明
	6	小児のリハビリテーションプラン	難聴児の特徴と聴覚リハビリテーションプランについて学ぶ。	○	○	高木明
	7	学童期の聴覚リハビリテーション	ゲストスピーカーを招聘し、難聴学童の特徴とリハビリテーションプランについて学ぶ。	○	○	高木 明
8	聴覚障害に関する介入と聴覚障害児への療育	日本における聴覚障害に関する介入と聴覚障害児への療育の実践について学ぶ。	○	○	高木 明	
評価方法	レポート(100%) <成績評価の前提条件> 聴覚・言語コースの学生は、必修科目のため、全ての授業回に出席すること。 上記コース以外の学生は、選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料を配布					
参考書	Foundations of Aural Rehabilitation: Children, Adults and Their Family Members 5th ed. by Nancy Tye-Murray					
授業時間外に行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考						

科目名	聴覚療育・リハビリテーション特論		学 期	前期後半		
履修区分	選択科目(聴覚言語コース必修科目)		曜日・時限	水曜 6 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	講義室 3		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	田中智英巳		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	田中智英巳、高木 明					
科目概要	分野のマイルストーン的論文を精読する。 現在の療育・リハビリテーション・介入に関わる課題を議論する場としてもよい。 テーマによってはゲストスピーカーによる講義も行う。					
到達目標	1. 現在の難聴児の療育・リハビリテーション・介入に関わる課題を討議することで問題意識を持つ。 2. 現在の成人のリハビリテーション・介入に関わる課題を討議することで問題意識を持つ。 3. 聴覚障害に関する療育・リハビリテーション・介入の今後についてのビジョンを持つ。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	難聴児の療育・リハビリ テーション・介入におけ る現在の課題	現在、療育の場は聴覚特別支援学校が主となるが、教育界 の聴覚活用が進まない現状など述べる。	○	×	高木 明
	2	難聴児のリハビリテー ションにおける課題の 討議	聴覚障害児のリハビリの海外の現状と日本の比較から課題 を捉える。	○	×	高木 明
	3	難聴児の介入における 課題の討議	ゲストスピーカーを招聘し、聴覚障害児の介入における日本 の現状から課題を捉える。	○	×	高木 明
	4	難聴児の療育における 課題の討議	ゲストスピーカーを招聘し、聴覚障害児の療育における日本 の現状から課題を捉える。	○	×	高木 明
	5	高齢難聴者の聴覚リハ ビリテーション・介入に おける課題の討議	高齢難聴者の難聴への対応と、難聴と認知症、孤独、フレイル との関係から課題を捉える。	○	×	田中智英巳
	6	成人難聴者の聴覚リハ ビリテーション・介入に おける課題の討議	日本と海外の聴覚ケアの専門家の違い、成人難聴者の聴覚 リハビリテーションにおける海外と日本の現状比較から課題 を捉える。	○	×	田中智英巳
	7	成人難聴者における課 題の討議	成人難聴者の就労における日本の現状から課題を捉える。	○	×	田中智英巳
8	聴覚障害に関する療 育・リハビリテーション・ 介入の今後	聴覚障害の介入の今後のあり方について述べる。	○	×	高木 明	
評価方法	講義内での議論態度(80%)、レポート(20%)＜成績評価の前提条件＞ 聴覚・言語コースの学生は、必修科目のため、全ての授業回に出席すること。 上記コース以外の学生は、選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	討議トピックに応じて資料を配布					
参考書	なし					
授業時間外に 行う学修内容	あらかじめ配布した講義資料を熟読し理解を深め、討議に参加すること。					
備考	オンデマンドでの受講は不可					

科目名	聴覚障害学		学 期	後期前半		
履修区分	選択科目(聴覚言語コース必修科目)		曜日・時限	土曜 1 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	高木 明		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	高木 明					
科目概要	聴覚障害は見えない障害とされるがその障害の機序、分類について述べ、診断、治療について学ぶ。また、治せない難聴についての対応法の理解を深める。					
到達目標	難聴という障害を具体的に理解し、きこえの障害が大ききだけの問題でないことを理解する。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	聴覚障害とは	聴覚障害とはなにか、見えない障害であることを理解する。	○	○	高木 明
	2	聴覚障害の原因	障害の原因は外耳から中枢(脳)までの広範であることを知る。	○	○	高木 明
	3	診断方法	難聴の障害部位の診断法について学ぶ。	○	○	高木 明
	4	先天性聴覚障害	先天性難聴の発見の方策と対応について学ぶ。	○	○	高木 明
	5	後天性聴覚障害	後天性難聴、進行性難聴についての対応を学ぶ。	○	○	高木 明
	6	先天性聴覚障害の治療	先天性難聴の治療方針の立て方について学ぶ。	○	○	高木 明
	7	後天性聴覚障害の治療	後天性難聴の治療方針について学ぶ。	○	○	高木 明
	8	治せない聴覚障害	聴力改善の手段のない障害についての対応を学ぶ。	○	○	高木 明
評価方法	レポート(100%) <成績評価の前提条件> 聴覚・言語コースの学生は、必修科目のため、全ての授業回に出席すること。 上記コース以外の学生は、選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	Schuknect's Pathology of the Ear Pmph USA Ltd; 第 3 版 (2010/8/1)					
授業時間外に 行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考						

科目名	聴覚補償技術		学 期	後期後半		
履修区分	選択科目(聴覚・言語コース必修科目)		曜日・時限	水曜 6 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	田中智英巳		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	田中智英巳、高木 明					
科目概要	補聴器や人工内耳を含む聴覚補償技術の基本知識や課題に関して、オーディオロジー分野の常識的な知識を身に付け、この後の発展的な課題に対して備える。					
到達目標	1. 補聴器や人工内耳を含む聴覚補聴技術の仕組みについて学ぶ。 2. 補聴器や人工内耳を含む聴覚補聴技術の適応について学ぶ。 3. 補聴器と人工内耳のフィッティングと効果測定について学ぶ。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	補聴器(1)	補聴器の適応、種類、デジタル補聴器の機能について学ぶ。	○	○	田中智英巳
	2	補聴器(2)	成人と小児の補聴器フィッティングの流れについて学ぶ。	○	○	田中智英巳
	3	補聴器(3)	フィッティング理論について学ぶ。	○	○	田中智英巳
	4	補聴器(4)	成人と小児の補聴器適合検査や効果測定について学ぶ。	○	○	田中智英巳
	5	補聴援助システム	補聴器や人工内耳と併用して使用されたり、単体で活用される補聴援助システムの仕組みや使用方法について学ぶ。	○	○	田中智英巳
	6	人工内耳(1)	人工内耳の適応を理解し、手術のリスク、術後の留意点、経過を説明できるようにする。	○	○	高木 明
	7	人工内耳(2)	人工内耳フィッティングについて学ぶ。	○	○	高木 明
	8	その他人工聴覚機器	埋め込み型骨導補聴器、補聴援助システムについて学ぶ。	○	○	高木 明
評価方法	レポート(100%) <成績評価の前提条件> 聴覚・言語コースの学生は、必修科目のため、全ての授業回に出席すること。 上記コース以外の学生は、選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料を配布					
参考書	なし					
授業時間外に 行う学修内容	予習: あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習: 講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考						

科目名	聴覚検査法		学 期	後期前半		
履修区分	選択科目(聴覚言語コース必修科目)		曜日・時限	水曜 6 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	田中智英巳		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	田中智英巳、高木 明					
科目概要	臨床で主に活用されている各種聴覚検査法の原理・測定・結果解釈に関する基礎知識の習得を目的とし、純音聴力検査、語音聴力検査、インピーダンス・オージオメトリー、耳音響放射検査(OAE)、聴性脳幹反応検査、聴性定常反応検査、小児聴力検査について学習する。					
到達目標	1. 様々な聴覚検査の仕組みと検査部位について学ぶ。 2. 聴覚検査の様々な方法について学ぶ。 3. 聴覚検査の結果解釈について学ぶ。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	聴覚検査の概要	様々な聴覚検査の種類と検査の概要について学ぶ。	○	○	高木 明
	2	純音聴力検査	純音聴力検査(気導・骨導)の基礎と検査方法と結果解釈について学ぶ。	○	○	高木 明
	3	語音聴力検査	語音聴力検査の基礎と検査方法と結果解釈について学ぶ。	○	○	田中智英巳
	4	インピーダンス・オージオメトリー	インピーダンス・オージオメトリーの基礎と検査方法や結果解釈について学ぶ。	○	○	田中智英巳
	5	耳音響放射検査	耳音響放射検査の基礎と検査方法や結果解釈について学ぶ。	○	○	田中智英巳
	6	聴性脳幹反応検査	聴性脳幹反応検査(神経学的検査と閾値検査)の基礎と検査方法や結果解釈について学ぶ。	○	○	田中智英巳
	7	聴性定常反応検査	聴性定常反応検査の基礎と検査方法や結果解釈について学ぶ。	○	○	田中智英巳
	8	小児聴力検査	原始反射検査、条件付け、遊戯聴力検査、新生児聴覚スクリーニングなどの検査方法と結果解釈を学ぶ。	○	○	田中智英巳
評価方法	レポート(100%) <成績評価の前提条件> 聴覚・言語コースの学生は、必修科目のため、全ての授業回に出席すること。 上記コース以外の学生は、選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料を配布					
参考書	聴覚検査の実際 改訂 5 版					
授業時間外に行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	基礎科学的な内容は「知覚・生体計測演習」などでカバー					

科目名	音声言語科学		学 期	前期前半		
履修区分	選択科目(聴覚・言語コース必修科目)		曜日・時限	土曜 4 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	新屋裕太		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	新屋裕太、高木 明					
科目概要	音声言語は人間のコミュニケーションの強力なツールである。発声、構音の学習には聴覚が不可欠であり、また、会話においても聴覚の feedback があってスムーズな音声となる。音声の音韻論から発話機構、語彙認知までの高次脳の働きを知る。テーマに応じて分野に精通したゲストスピーカーを招聘して講義も行う。					
到達目標	音声言語の特性や聴覚との相互作用の重要性を理解する。また、音声生成・知覚の発達過程や聴覚系の関与を理解する。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	喉頭の解剖と発声・構音の仕組み	発声機構の解剖学的特性を解説する。	○	○	高木 明
	2	音声の制御	音声を制御する神経機構を解説する。	○	○	高木 明
	3	音声の物理	音声の音響的な特徴とその表示手法を解説する。	○	○	新屋裕太
	4	音声学の基礎	音声を構成する基本単位や表記法を解説する。	○	○	新屋裕太
	5	言語学の基礎	人間の言語の特性の基本を解説する。	○	○	新屋裕太
	6	比較言語	英語・日本語といった言語間での比較を通して、言語の特性を解説する。第 2 言語の習得過程も解説する。	○	○	新屋裕太
	7	発達・学習	音声生成と知覚の発達・学生過程や特性を解説する。	○	○	新屋裕太
	8	音声知覚、聴覚との相互作用	音声の生成と知覚(聴覚)との相互作用や依存性を解説する。	○	○	新屋裕太
評価方法	レポート(60%)、講義内での議論態度(40%) <成績評価の前提条件> 聴覚・言語コースの学生は、必修科目のため、全ての授業回に出席すること。 上記コース以外の学生は、選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	なし					
授業時間外に行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	授業テーマの順序は変更される可能性がある。					

科目名	聴覚健康政策論		学 期	前期後半		
履修区分	選択科目(聴覚言語コース必修科目)		曜日・時限	土曜 4 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	高木 明		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	高木 明					
科目概要	聴覚障害は乳幼児の音声言語獲得を困難にするのみならず、高齢者の孤立、孤独を引き起こし、認知症の発症の誘因となると言われる。これらに対する社会体制、法律、今後の期待される政策などを理解し、実践への足がかりを得る。テーマによってはゲストスピーカーによる講義も行う。					
到達目標	聴覚障害を取り巻く社会の現状を理解し、課題抽出、対策を考案する。実践への足がかりをつかむ。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	難聴と社会健康医学	聴覚障害が社会、個人に及ぼす影響を考える。	○	○	高木 明
	2	聾教育の歴史	聾教育の歴史を知って、今後の教育の方向性を考える。	○	○	高木 明
	3	新生児聴覚スクリーニングについて	新生児聴覚スクリーニングの目的を理解し、現状の不備を解消するための方策を議論する。	○	○	高木 明
	4	早期介入の現状	早期介入の現状と課題を理解し、改善のための方策を議論する。	○	○	高木 明
	5	難聴に関わる人材	先進諸外国の難聴に関わる人材の豊富さに比して、日本は専門家が少ないことを理解し、自らが専門家を育てる立場となることを認識する。	○	○	高木 明
	6	聴覚障害とろうあ団体	音声言語と手話の対立の現状を知る。	○	○	高木 明
	7	聴覚障害と法律	聴覚障害に関する法律とその社会での実践状況を知る。	○	○	高木 明
	8	inclusive 教育の現状	障害者との共生社会をめざすことが省令で定まっているが、進まないことの要因を議論する。	○	○	高木 明
評価方法	レポート(60%)、講義内での議論態度(40%) <成績評価の前提条件> 聴覚・言語コースの学生は、必修科目のため、全ての授業回に出席すること。 上記コース以外の学生は、選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。					
テキスト	講義内容に応じて資料配布					
参考書	なし					
授業時間外に行う学修内容	予習:あらかじめ配布した講義資料を熟読すること。 復習:講義内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考						

科目名	知覚情報処理演習		学 期	後期前半		
履修区分	聴覚言語コース必修科目		曜日・時限	土曜 4・5 限		
単 位 数	2 単位 (90 分 × 15 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	古川茂人		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	古川茂人、新屋裕太、Fehérvári Tamás Dávid					
科目概要	聴覚・言語研究に必要なプログラミング、実験機器操作、データ処理などに関する知識と実施能力を、演習課題や実際の実験を模擬した小プロジェクトなどを通して体験的に習得する。					
到達目標	1.音響・生体情報処理に必要となるプログラミングやデータ処理を体得する。 2.修士・博士課程や卒業後の聴覚・言語研究において実験や分析を自ら実施する能力を身に着ける。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	導入	計算機環境に関するオリエンテーションを行う。	○	△	古川茂人 Fehérvári 新屋裕太
	2 3	プログラミングの基礎	プログラミングに関する基本的な概念を習得する。	○	△	古川茂人 Fehérvári 新屋裕太
	4 5	関数の活用と作成	プログラミングにおける関数の活用や作成を習得する。	○	△	古川茂人 Fehérvári 新屋裕太
	6 7	視聴覚刺激作成	実験における視聴覚刺激の作成方法を習得する。	○	△	古川茂人 Fehérvári 新屋裕太
	8 9	外部機器とのインター フェース	インターフェースを介した外部機器の制御とデータ取り込み を習得する。	○	△	古川茂人 Fehérvári 新屋裕太
	10 11	信号処理	デジタル信号の基本を習得する。	○	△	古川茂人 Fehérvári 新屋裕太
	12 13	統計処理	データの統計的な処理をプログラミングに実装する。	○	△	古川茂人 Fehérvári 新屋裕太
	14 15	データの表示	計測データや解析結果を表示する手法を習得する。	○	△	古川茂人 Fehérvári 新屋裕太
評価方法	演習への参加度 (80%)、小課題 (20%)					
テキスト	テーマに応じて資料配布					
参考書	必要に応じて演習中に指示する					
授業時間外に 行う学修内容	テーマごとの課題を完了させるため、授業時間外でも計算機を用いた演習を行うこと。					
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際の実験・計測を模擬するような小プロジェクトを通して、体験的に上記テーマの習得を行う。このため、上記の授業展開の表示順に関わらず、学生の進捗や小プロジェクトの性質に応じてテーマの進行を柔軟に設定する。就学時点ですでに十分なプログラミング能力等を備えている学生に対しては、それに応じて発展的な内容を課すことがある。 ・ 極力オンライン・オンラインでの出席が望ましい。オンデマンドで受講する場合は、追加の課題や実習を課す場合がある。 ・ 聴覚・言語コースのみ履修可 					

科目名	知覚・生体計測演習	学 期	後期後半			
履修区分	聴覚言語コース必修科目	曜日・時限	土曜 3・4 限			
単 位 数	2 単位 (90 分 × 15 コマ)	使用教室	演習室 2			
配当年次	1 年次	本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—			
科目責任者	古川茂人	本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—			
担当教員	古川茂人、高木 明、Fehérvári Tamás Dávid、田中智英巳、新屋裕太					
科目概要	聴覚・言語に関する知覚や生体反応を計測するための様々な技術を体得する。聴覚臨床現場で用いられている検査の他、心理物理学実験や脳波計測の実施からデータ解析までの一連の過程を実習する。演習の充実のため外部の有識者や学生に参加してもらうこともある。					
到達目標	1. 臨床検査から基礎研究で用いられる計測手法を体得し、自らの研究遂行に必要な実験技術を身に着ける。 2. 臨床・研究現場で用いられている検査の実態を理解する。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1 2	音響システム	音響刺激呈示システムの設定と校正	×	×	古川茂人
	3 4	聴覚検査(自覚検査)	聴覚検査の概要、聴力検査	×	×	高木 明 田中智英巳
	5 6	聴覚検査(他覚検査)	耳音響放射、ティンパノメトリ、聴性脳幹反応	×	×	高木 明 田中智英巳
	7 8	補聴器	補聴器の取り扱い、フィッティング	×	×	高木 明 田中智英巳
	9 10	心理物理実験	閾値計測、ラウドネス、音源定位	×	×	古川茂人
	11 12	刺激・計測システム	刺激提示・反応記録システムの取り扱い	×	×	新屋裕太
	13 14	脳波	脳波計測実験	×	×	Fehérvári Tamás Dávid
	15	fNIRS	fNIRS による脳活動計測	×	×	Fehérvári Tamás Dávid
評価方法	演習内での参加度(80%)、テーマごとの小課題(20%)					
テキスト	テーマに応じて資料配布					
参考書	必要に応じて演習中に指示する					
授業時間外に行う学修内容	テーマごとの課題を完了させるため、授業時間外でも計算機を用いてレポートをまとめること。					
備考	原則としてオンサイトで出席すること。 授業テーマの順序や構成、担当教員の割り当ては変更される可能性がある。 聴覚・言語コースのみ履修可					

科目名	言語・聴覚学特別演習 I		学 期	後期後半		
履修区分	聴覚言語コース必修科目		曜日・時限	土曜 2 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	Fehérvári Tamás Dávid		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	Fehérvári Tamás Dávid、古川茂人、新屋裕太、高木 明					
科目概要	<p>広く聴覚・言語に関わる重要・先端的な文献を輪講する。各学生は、教員のアドバイスを受けながら担当する文献を選択し、交替でプレゼンテーションする。参加者全員でその論文を吟味・議論する。議論を活発化するために、外部の有識者や学生に参加してもらうこともある。外部講師を招いて先端研究成果の聴講および議論を行う場合もある。</p>					
到達目標	<p>1.分野の先端的な知識を追跡し、習得する。 2.テーマ探索、文献調査、プレゼンテーション、建設的議論の実践的なスキルを身に着ける。</p>					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	文献選択	オリエンテーション。学生と教員の議論によりテーマの探索と担当文献の選択を行う。	○	×	Fehérvári Tamás Dávid 古川茂人 新屋裕太 高木 明
	2	文献輪講	学生による担当文献のプレゼンテーションと議論を行う。	○	×	
	3	文献輪講	同上	○	×	
	4	文献輪講	同上	○	×	
	5	文献輪講	同上	○	×	
	6	文献輪講	同上	○	×	
	7	文献輪講	同上	○	×	
	8	文献輪講先端研究	同上	○	×	
評価方法	レポート／プレゼンテーション(60%)、演習内での議論態度(40%)					
テキスト	なし					
参考書	なし					
授業時間外に行う学修内容	<p>予習:発表担当者は、担当日までにプレゼンテーションと議論のポイントを準備すること。 復習:演習内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。</p>					
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原則としてオンデマンドの参加は不可とする。 ・ 聴覚・言語コースのみ履修可 					

科目名	言語・聴覚学特別演習 II		学期	前期前半		
履修区分	聴覚言語コース必修科目		曜日・時限	土曜 5 限		
単位数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	Fehérvári Tamás Dávid		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	Fehérvári Tamás Dávid、古川茂人、新屋裕太、高木 明					
科目概要	言語・聴覚学特別演習 I と同様に広く聴覚・言語に関わる重要・先端的な文献を輪講する。各学生は、教員のアドバイスを受けながら担当する文献を選択し、交替でプレゼンテーションする。参加者全員でその論文を吟味・議論する。議論を活性化するために、外部の有識者や学生に参加してもらうこともある。ゲストスピーカーを招いて先端研究成果の聴講および議論を行う場合もある。					
到達目標	1. 分野の先端的な知識を追跡し、習得する。 2. テーマ探索、文献調査、プレゼンテーション、建設的議論の実践的なスキルを身に着ける。					
授業展開	回	テーマ	内容	オンライン	オンデマンド	担当教員
	1	文献選択	オリエンテーション。学生と教員の議論によりテーマの探索と担当文献の選択を行う。	○	×	Fehérvári Tamás Dávid 古川茂人 新屋裕太 高木 明
	2	文献輪講	学生による担当文献のプレゼンテーションと議論を行う。	○	×	
	3	文献輪講	同上	○	×	
	4	文献輪講	同上	○	×	
	5	文献輪講	同上	○	×	
	6	文献輪講	同上	○	×	
	7	文献輪講	同上	○	×	
	8	文献輪講	同上	○	×	
評価方法	レポート／プレゼンテーション(60%)、演習内での議論態度(40%)					
テキスト	なし					
参考書	なし					
授業時間外に行う学修内容	予習:発表担当者は、担当日までにはプレゼンテーションと議論のポイントを準備すること。 復習:演習内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	<ul style="list-style-type: none"> 原則としてオンデマンドの参加は不可とする。 聴覚・言語コースのみ履修可 					

科目名	言語・聴覚学特別演習 Ⅲ		学 期	前期後半		
履修区分	聴覚言語コース必修科目		曜日・時限	土曜 5 限		
単 位 数	1 単位(90 分×8 コマ)		使用教室	演習室 2		
配当年次	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	Fehérvári Tamás Dávid		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	Fehérvári Tamás Dávid、古川茂人、新屋裕太、高木 明					
科目概要	言語・聴覚学特別演習 Ⅱと同様に広く聴覚・言語に関わる重要・先端的な文献を輪講する。各学生は、教員のアドバイスを受けながら担当する文献を選択し、交替でプレゼンテーションする。参加者全員でその論文を吟味・議論する。ゲストスピーカーを招いて先端研究成果の聴講および議論を行う場合もある。					
到達目標	1. 分野の先端的な知識を追跡し、習得する。 2. テーマ探索、文献調査、プレゼンテーション、建設的議論の実践的なスキルを身に着ける。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	文献選択	オリエンテーション。学生と教員の議論によりテーマの探索と担当文献の選択を行う。	○	×	Fehérvári Tamás Dávid 古川茂人 新屋裕太 高木 明
	2	文献輪講	学生による担当文献のプレゼンテーションと議論を行う。	○	×	
	3	文献輪講	同上	○	×	
	4	文献輪講	同上	○	×	
	5	文献輪講	同上	○	×	
	6	文献輪講	同上	○	×	
	7	文献輪講	同上	○	×	
	8	文献輪講	同上	○	×	
評価方法	レポート／プレゼンテーション(60%)、演習内での議論態度(40%)					
テキスト	なし					
参考書	なし					
授業時間外に行う学修内容	予習:発表担当者は、担当日までにプレゼンテーションと議論のポイントを準備すること。 復習:演習内容に関連した文献を読み、理解を深め、レポートを作成すること。					
備考	<ul style="list-style-type: none"> 原則としてオンデマンドの参加は不可とする。 聴覚・言語コースのみ履修可 					

科目名	修士論文						
履修区分	選択						
単位数	8単位	開講時期	1年次～2年次・通年				
科目責任者	研究指導教員						
担当教員	研究指導教員						
科目概要	これまでの業務上の経験、講義・演習やフィールド実習等で得た気付き、各人の関心に基づいて、解決すべき保健・医療上の課題を設定し、研究計画書を作成する。そして、研究計画書を踏まえたデータの収集、調査と分析を進め、その結果について、修士論文の作成を行う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画書の作成に関する基本的な知識を説明できる。 2. 健康寿命の延伸を図るために、科学的思考や論理的思考に基づいた研究活動を行うことができる。 3. 研究を推進するに当たり、確かな倫理観に裏付けられた研究態度を身に付けることができる。 						
授業展開	<table border="1"> <tr> <td>1年次</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関連文献の調査 ・ 研究課題に関する研究計画書の作成 ・ 研究倫理委員会の審査申請書の作成 ・ 中間発表会における発表 </td> </tr> <tr> <td>2年次</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究対象者、研究対象施設等との調整 ・ 研究の実施 ・ 研究で得られたデータの整理、分析 ・ 修士論文の作成 ・ 特別研究発表会における発表 </td> </tr> </table> <p>(臼井 健※)精密医療実現のためのゲノム医療の推進および遺伝カウンセリングを含む遺伝診療の果たす役割に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(高木 明) 新生児聴覚スクリーニングにより発見された難聴児の早期の人工内耳手術から引き続き適切な介入による音声言語発達の変容に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(小島原 典子) ワクチンによる呼吸器感染症の予防効果、産業保健介入が働きがいに与える影響、電磁界など物理因子の健康影響などに関するシステムティックレビューや疫学研究を指導し、論文作成を支援する。</p> <p>(栗山 長門) 長寿・認知症・がん・生活習慣病などを中心とした予防医学に関する研究、社会における健康リスクと関連要因の研究、コホート調査に関する研究課題 を中心に、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(森 潔) 高額な医療費・介護費を必要とする腎疾患及び関連する生活習慣病・心血管疾患・癌などについて、危険因子の同定と積極的健康増進を目標とした研究課題を設定し、研究デザイン及び論文作成のプロセスを指導する。</p> <p>(木下 和生) がんや免疫関連疾患の疫学研究(遺伝子多型との関連も含む)、コホート調査で収集する検体を用いた新規老化生物指標(バイオマーカー)に関する研究課題について、研究プロセスと論文作成を指導する。</p> <p>(竹内 正人) 健康保険組合保有データベースや DPC データベースをはじめとする大規模医療データベースを用いた臨床疫学・薬剤疫学に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(高山 智子) がん患者や生活者と医療者とのコミュニケーションに関する研究、パブリックヘルスコミュニケーションの質の改善に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(山本 精一郎) がんを中心とした様々な疾患領域の治療、予防のための新しい医療技術(医薬品を含む)開発に資する臨床試験の計画、実施、解析について指導する。がんを含む生活習慣病予防や二次予防としての健診・検診分野における行動変容を促す方法の開発・評価・普及について指導する。</p> <p>(古川 茂人) 難聴の特性・リスク評価への展開を想定した、「聞こえ」の測定やメカニズム解明に関する心理物理学・神経生理学・認知科学研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(田原 康玄) 生活習慣病・循環器疾患・フレイル・認知症のリスク因子の解明と予防・介入方法に関するゲノム・疫学研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p>			1年次	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連文献の調査 ・ 研究課題に関する研究計画書の作成 ・ 研究倫理委員会の審査申請書の作成 ・ 中間発表会における発表 	2年次	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究対象者、研究対象施設等との調整 ・ 研究の実施 ・ 研究で得られたデータの整理、分析 ・ 修士論文の作成 ・ 特別研究発表会における発表
1年次	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連文献の調査 ・ 研究課題に関する研究計画書の作成 ・ 研究倫理委員会の審査申請書の作成 ・ 中間発表会における発表 						
2年次	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究対象者、研究対象施設等との調整 ・ 研究の実施 ・ 研究で得られたデータの整理、分析 ・ 修士論文の作成 ・ 特別研究発表会における発表 						

(山崎 浩司)死別体験者のグリーフに対する健康増進的支援、臨床死生学、インフォーマルケアに関する研究課題について、主に質的研究を用いた論文作成の研究プロセスを指導する。

(堀内 泰江)臨床ゲノム解析による遺伝子型と表現型の関連研究成果をふまえ、ゲノム医療の推進、遺伝カウンセリングの質向上に関わる研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(森 寛子※)地域社会で暮らす人々の健康と福祉の向上に関し、疫学手法や質的研究法(構成主義的 GTA,内容分析、テーマ分析など)、及び文献研究やフィールド調査などを用いた研究。漠然とした問題意識を研究課題へ洗練させてゆき、論文作成までを指導する。

(溝田 友里)行動科学やナッジ、ソーシャルマーケティング等を活用した、健康に関する行動変容(身体活動、食事、禁煙、がん検診受診、特定健診受診、検査受検等)を促すための研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(田中 仁啓)循環器疫学のアプローチを使用し、疾患リスク・関連因子の解明を目指す研究課題を中心に、論文作成の研究プロセスを指導する。

(八田 太一)混合研究方法を用いたインフォームド・コンセントにおける医療者・患者関係の分析をはじめ、患者の自発性や意思決定場面にかかわる研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(藤本 修平)ヘルスケア産業におけるマーケティングリサーチ・産学連携システムを用いた社会実装、診療ガイドライン活用・Evidence-practice gap・コミュニケーション に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(吉岡 貴史)社会疫学研究、医薬品・医療機器の費用効果分析を含む健康経済学研究、医療者が現場のデータを使用して行う臨床疫学研究に関する研究課題を中心に、研究リテラシーの涵養、精緻な研究計画書の作成、分析・論文作成まで総合的な研究指導を行う。

(佐々木八十子)医療や介護等の質の向上のための持続的かつ効果的なコミュニケーション・組織の在り方に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(佐藤 洋子)観察研究における統計的手法及び解析、希少難治性疾患におけるプロファイル解析及び診断/予後モデルの構築・評価に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(佐藤 清香)フレイル・生活習慣病の食行動に関連するリスク因子の栄養疫学を用いた解明と、その予防のための栄養教育に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(新屋 裕太)乳幼児の音声・言語発達や認知発達の過程とその神経基盤の解明を目指した音響・生理・心理学的研究、および難聴児やハイリスク児を対象とした発達評価・早期介入に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

※ 令和8年度に限り、研究指導補助教員のみ担当可。

評価方法	研究課題設定の適切性・学術的意義、研究方法の適切性、研究成果及び考察の妥当性、独創性、新規性等の観点から論文を評価
テキスト	—
参考書	—
備考	

科目名	課題研究						
履修区分	選択						
単位数	4単位	開講時期	1年次～2年次・通年				
科目責任者	研究指導教員						
担当教員	研究指導教員						
科目概要	これまでの業務上の経験、講義・演習やフィールド実習等で得た気付き、各人の関心に基づいて、解決すべき保健・医療上の課題を設定し、研究計画書を作成する。そして、研究計画書を踏まえたデータの収集、調査と分析を進め、その結果について、課題研究報告書の作成を行う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画書の作成に関する基本的な知識を説明できる。 2. 健康寿命の延伸を図るために、科学的思考や論理的思考に基づいた研究活動を行うことができる。 3. 研究を推進するに当たり、確かな倫理観に裏付けられた研究態度を身に付けることができる。 						
授業展開	<table border="1"> <tr> <td>1年次</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関連文献の調査 ・ 研究課題に関する研究計画書の作成 ・ 研究倫理委員会の審査申請書の作成 ・ 中間発表会における発表 </td> </tr> <tr> <td>2年次</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究対象者、研究対象施設等との調整 ・ 研究の実施 ・ 研究で得られたデータの整理、分析 ・ 課題研究報告書の作成 ・ 特別研究発表会における発表 </td> </tr> </table> <p>(臼井 健※)精密医療実現のためのゲノム医療の推進および遺伝カウンセリングを含む遺伝診療の果たす役割に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(高木 明) 新生児聴覚スクリーニングにより発見された難聴児の早期の人工内耳手術から引き続き適切な介入による音声言語発達の変容に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(小島原 典子) ワクチンによる呼吸器感染症の予防効果、産業保健介入が働きがいに与える影響、電磁界など物理因子の健康影響などに関するシステムティックレビューや疫学研究を指導し、論文作成を支援する。</p> <p>(栗山 長門) 長寿・認知症・がん・生活習慣病などを中心とした予防医学に関する研究、社会における健康リスクと関連要因の研究、コホート調査に関する研究課題 を中心に、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(森 潔) 高額な医療費・介護費を必要とする腎疾患及び関連する生活習慣病・心血管疾患・癌などについて、危険因子の同定と積極的健康増進を目標とした研究課題を設定し、研究デザイン及び論文作成のプロセスを指導する。</p> <p>(木下 和生) がんや免疫関連疾患の疫学研究(遺伝子多型との関連も含む)、コホート調査で収集する検体を用いた新規老化生物指標(バイオマーカー)に関する研究課題について、研究プロセスと論文作成を指導する。</p> <p>(竹内 正人) 健康保険組合保有データベースや DPC データベースをはじめとする大規模医療データベースを用いた臨床疫学・薬剤疫学に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(高山 智子) がん患者や生活者と医療者とのコミュニケーションに関する研究、パブリックヘルスコミュニケーションの質の改善に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(山本 精一郎) がんを中心とした様々な疾患領域の治療、予防のための新しい医療技術(医薬品を含む)開発に資する臨床試験の計画、実施、解析について指導する。がんを含む生活習慣病予防や二次予防としての健診・検診分野における行動変容を促す方法の開発・評価・普及について指導する。</p> <p>(古川 茂人) 難聴の特性・リスク評価への展開を想定した、「聞こえ」の測定やメカニズム解明に関する心理物理学・神経生理学・認知科学研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(田原 康玄) 生活習慣病・循環器疾患・フレイル・認知症のリスク因子の解明と予防・介入方法に関するゲノム・疫学研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p>			1年次	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連文献の調査 ・ 研究課題に関する研究計画書の作成 ・ 研究倫理委員会の審査申請書の作成 ・ 中間発表会における発表 	2年次	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究対象者、研究対象施設等との調整 ・ 研究の実施 ・ 研究で得られたデータの整理、分析 ・ 課題研究報告書の作成 ・ 特別研究発表会における発表
1年次	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連文献の調査 ・ 研究課題に関する研究計画書の作成 ・ 研究倫理委員会の審査申請書の作成 ・ 中間発表会における発表 						
2年次	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究対象者、研究対象施設等との調整 ・ 研究の実施 ・ 研究で得られたデータの整理、分析 ・ 課題研究報告書の作成 ・ 特別研究発表会における発表 						

(山崎 浩司)死別体験者のグリーフに対する健康増進的支援、臨床死生学、インフォーマルケアに関する研究課題について、主に質的研究を用いた論文作成の研究プロセスを指導する。

(堀内 泰江)臨床ゲノム解析による遺伝子型と表現型の関連研究成果をふまえ、ゲノム医療の推進、遺伝カウンセリングの質向上に関わる研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(森 寛子※)地域社会で暮らす人々の健康と福祉の向上に関し、疫学手法や質的研究法(構成主義的 GTA,内容分析、テーマ分析など)、及び文献研究やフィールド調査などを用いた研究。漠然とした問題意識を研究課題へ洗練させてゆき、論文作成までを指導する。

(溝田 友里)行動科学やナッジ、ソーシャルマーケティング等を活用した、健康に関する行動変容(身体活動、食事、禁煙、がん検診受診、特定健診受診、検査受検等)を促すための研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(田中 仁啓)循環器疫学的アプローチを使用し、疾患リスク・関連因子の解明を目指す研究課題を中心に、論文作成の研究プロセスを指導する。

(八田 太一)混合研究方法を用いたインフォームド・コンセントにおける医療者・患者関係の分析をはじめ、患者の自発性や意思決定場面にかかわる研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(藤本 修平)ヘルスケア産業におけるマーケティングリサーチ・産学連携システムを用いた社会実装、診療ガイドライン活用・Evidence-practice gap・コミュニケーション に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(吉岡 貴史)社会疫学研究、医薬品・医療機器の費用効果分析を含む健康経済学研究、医療者が現場のデータを使用して行う臨床疫学研究に関する研究課題を中心に、研究リテラシーの涵養、精緻な研究計画書の作成、分析・論文作成まで総合的な研究指導を行う。

(佐々木八十子)医療や介護等の質の向上のための持続的かつ効果的なコミュニケーション・組織の在り方に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(佐藤 洋子)観察研究における統計学的手法及び解析、希少難治性疾患におけるプロフィール解析及び診断/予後モデルの構築・評価に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(佐藤 清香)フレイル・生活習慣病の食行動に関連するリスク因子の栄養疫学を用いた解明と、その予防のための栄養教育に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(新屋 裕太)乳幼児の音声・言語発達や認知発達の過程とその神経基盤の解明を目指した音響・生理・心理学的研究、および難聴児やハイリスク児を対象とした発達評価・早期介入に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

※ 令和8年度に限り、研究指導補助教員のみ担当可。

評価方法	課題分析の的確性や解決策の現実性、課題の構造・背景の分析方法、具体的な解決策及び考察の妥当性・有用性等の観点から報告書を評価
テキスト	—
参考書	—
備考	

科目名	課題研究(遺伝カウンセラー養成コース)						
履修区分	遺伝カウンセラー養成コース必修科目						
単位数	4単位	開講時期	1年次～2年次・通年				
科目責任者	臼井 健、、堀内泰江						
担当教員	臼井 健、、堀内泰江						
科目概要	文献検索法・文献評価法、プレゼンテーション・ライティングスキル、疫学概論、医療統計学概論で学修した内容及び臨床研究概論で学修する内容をもとに、また、これまでの業務上の経験、講義・演習や実習等で得た気付き、各人の関心に基づいて、解決すべき遺伝医療の課題を設定し、研究計画書を作成する。合わせて、研究方法論についても学修する。そして、研究計画書を踏まえた情報の収集、調査と分析を進め、その結果について、課題研究報告書の作成を行う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画書の作成に関する基本的な知識を説明できる。 2. 適切な遺伝医療を提供するために、科学的思考や論理的思考に基づいた研究活動を行うことができる。 3. 研究を推進するに当たり、確かな倫理観に裏付けられた研究態度を身に付けることができる。 						
授業展開	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">1年次</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ■ 関連文献の調査 ■ 研究課題に関する研究計画書の作成 ■ 研究倫理委員会の審査申請書の作成 ■ 中間発表会における発表 </td> </tr> <tr> <td>2年次</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ■ 研究対象者、研究対象施設等との調整 ■ 研究の実施 ■ 研究で得られたデータの整理、分析 ■ 課題研究報告書の作成 ■ 特別研究発表会における発表 </td> </tr> </table> <p>(臼井 健※) 精密医療実現のためのゲノム医療の推進および遺伝カウンセリングを含む遺伝診療の果たす役割に関する研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(堀内泰江) 遺伝医療に伴い生じてくるクライアントの社会。心理的なサポート体制の問題点や課題を抽出しその有効的な解決策に関する研究をサポートする。</p> <p>※ 令和8年度に限り、研究指導補助教員のみ担当可。</p>			1年次	<ul style="list-style-type: none"> ■ 関連文献の調査 ■ 研究課題に関する研究計画書の作成 ■ 研究倫理委員会の審査申請書の作成 ■ 中間発表会における発表 	2年次	<ul style="list-style-type: none"> ■ 研究対象者、研究対象施設等との調整 ■ 研究の実施 ■ 研究で得られたデータの整理、分析 ■ 課題研究報告書の作成 ■ 特別研究発表会における発表
1年次	<ul style="list-style-type: none"> ■ 関連文献の調査 ■ 研究課題に関する研究計画書の作成 ■ 研究倫理委員会の審査申請書の作成 ■ 中間発表会における発表 						
2年次	<ul style="list-style-type: none"> ■ 研究対象者、研究対象施設等との調整 ■ 研究の実施 ■ 研究で得られたデータの整理、分析 ■ 課題研究報告書の作成 ■ 特別研究発表会における発表 						
評価方法	課題分析の的確性や解決策の現実性、課題の構造・背景の分析方法、具体的な解決策及び考察の妥当性・有用性等の観点から報告書の評価						
テキスト	—						
参考書	—						
備考							

科目名	課題研究(聴覚・言語コース)						
履修区分	言語・聴覚コース必修科目						
単位数	4単位	開講時期	1年次～2年次・通年				
科目責任者	高木 明、古川茂人、新屋裕太						
担当教員	高木 明、古川茂人、新屋裕太						
科目概要	これまでの業務上の経験、講義・演習等で得た気づき、各人の関心に基づいて、解決すべき難聴・言語発達・認知症等に関する課題を設定し、研究計画書を作成する。そして、研究計画書を踏まえたデータの収集、調査と分析を進め、その結果について、課題研究報告書の作成を行う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画書の作成に関する基本的な知識を説明できる。 2. 難聴者(乳幼児や高齢者を含む)の聴覚・言語能力の総合的評価障害補償、適切な介入に結びつけるために、科学的思考や論理的思考に基づいた研究活動を行うことができる。 3. 研究を推進するに当たり、確かな倫理観に裏付けられた研究態度を身に付けることができる。 						
授業展開	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">1年次</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関連文献の調査 ・ 研究課題に関する研究計画書の作成 ・ 研究倫理委員会の審査申請書の作成 ・ 中間発表会における発表 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2年次</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究対象者、研究対象施設等との調整 ・ 研究の実施 ・ 研究で得られたデータの整理、分析 ・ 課題研究報告書の作成 ・ 特別研究発表会における発表 </td> </tr> </table> <p>(高木 明) 新生児聴覚スクリーニングにより発見された難聴児の早期の人工内耳手術から引き続き適切な介入による音声言語発達の変容に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(古川茂人) 難聴の特性・リスク評価への展開を想定した、「聞こえ」の測定やメカニズム解明に関する心理物理学・神経生理学・認知科学研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(新屋裕太) 乳幼児の音声・言語発達や認知発達の過程とその神経基盤の解明を目指した音響・生理・心理学的研究、および難聴児やハイリスク児を対象とした発達評価・早期介入に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p>			1年次	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連文献の調査 ・ 研究課題に関する研究計画書の作成 ・ 研究倫理委員会の審査申請書の作成 ・ 中間発表会における発表 	2年次	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究対象者、研究対象施設等との調整 ・ 研究の実施 ・ 研究で得られたデータの整理、分析 ・ 課題研究報告書の作成 ・ 特別研究発表会における発表
1年次	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連文献の調査 ・ 研究課題に関する研究計画書の作成 ・ 研究倫理委員会の審査申請書の作成 ・ 中間発表会における発表 						
2年次	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究対象者、研究対象施設等との調整 ・ 研究の実施 ・ 研究で得られたデータの整理、分析 ・ 課題研究報告書の作成 ・ 特別研究発表会における発表 						
評価方法	課題分析の的確性や解決策の現実性、課題の構造・背景の分析方法、具体的な解決策及び考察の妥当性・有用性等の観点から報告書を評価						
テキスト	—						
参考書	—						
備考							